

平成29年度

事業実績書

(病虫害防除関係)

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

目 次

I 組織と業務

1	名称及び所在地	-----	1
2	管轄区域	-----	1
3	職員及び業務	-----	1
4	業務分掌表	-----	1

II 事業実績

1	農作物有害動植物発生予察事業		
1)	調査の種類及び方法		
(1)	指定病害虫	-----	3
(2)	指定外病害虫	-----	3
(3)	巡回調査ほ場数	-----	4
2)	主要農作物の病害虫発生概況（平成29年産）		
(1)	早期水稻	-----	5
(2)	普通期水稻	-----	5
(3)	カンショ	-----	5
(4)	大豆	-----	5
(5)	ジャガイモ	-----	5
(6)	かんきつ類（露地栽培）	-----	5
(7)	茶	-----	6
(8)	冬春きゅうり	-----	6
(9)	冬春ピーマン	-----	6
(10)	冬春トマト	-----	6
(11)	いちご	-----	7
(12)	秋冬だいこん	-----	7
(13)	サトイモ	-----	7
3)	水稻、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日		
(1)	水稻、かんきつ病害の初発日		
ア	水稻	-----	8
イ	かんきつ	-----	8
(2)	予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日	---	8
4)	予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況		
(1)	延岡	-----	9
(2)	佐土原	-----	10
(3)	国富	-----	11
(4)	都城	-----	12

5)	フェロモントラップによる誘殺状況		
	(1) チャハマキの誘殺状況	-----	1 3
	(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況	-----	1 5
	(3) チャノホソガの誘殺状況	-----	1 7
	(4) ハスモンヨトウの誘殺状況	-----	1 9
	(5) タバコガ・オオタバコガの誘殺状況	-----	2 1
	(6) コブノメイガの誘殺状況	-----	2 3
6)	果樹カメムシ類の誘殺状況		
	(1) 予察灯における誘殺状況	-----	2 4
	(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況	-----	2 8
7)	農作物有害動植物の発生及び防除状況		
	(1) 発生経過、発生要因及び防除の概要	-----	3 2
	(2) 発生面積及び防除面積等	-----	3 8
8)	有害動植物発生予察事業実施状況		
	(1) 発表情報一覧（警報、注意報、特殊報、防除情報）	-----	4 4
	(2) 情報の内容	-----	4 5
2	宮崎方式 ICM 技術確立事業によるニカメイガの発生消長調査	-----	7 3
3	戦略的イノベーション創造プログラムによる宮崎県における新ウンカ類飛来予測システムの実用性の検討	-----	7 5
4	特殊病虫害侵入警戒調査事業		
	1) ミバエ類侵入警戒調査	-----	7 8
	2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査	-----	7 9
	3) イモゾウムシ侵入警戒調査	-----	8 2
	4) ミカンキジラミ侵入警戒調査	-----	8 2
5	その他の調査、検定等		
	1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況	-----	8 3
	2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査	-----	8 4
	3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測	-----	8 5
	4) サトイモ疫病の発生状況調査	-----	8 6
Ⅲ	その他		
1	病虫害防除員の設置状況	-----	8 7
2	巡回調査ほ場の分布図	-----	8 8
3	平成29年気象表	-----	8 9

I 組織と業務

1 名称及び所在地

宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課

(兼 宮崎県病虫害防除・肥料検査センター ※ H23.4～)

宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5 8 0 5 番地

2 管轄区域

県内全域 (9市14町3村)

3 職員及び業務

職 員	業 務
課長(所長) 榎 間 義 幸	1 病虫害の発生予察及び情報の提供に関すること 2 病虫害の適正防除指導に関すること 3 病虫害の診断及び検定に関すること 4 重要病虫害の侵入警戒調査に関すること 5 農薬指導取締に関すること 6 農薬安全使用指導に関すること 7 その他植物防疫に関すること 8 肥料の分析及び取締に関すること
副主幹 松 浦 明	
主 査 森 下 勝	
〃 久 野 公 子	
〃 黒 木 匠 子	
非常勤職員 倉 永 知 佳	
福 川 利 玄	
野 中 耕 次	
(兼務職員) 土壤環境部	
特研兼副部長 有 簾 隆 男	
主任研究員 小 窪 正 人	
主任研究員 杉 田 浩 一	
専門技師 今 村 幸 久	

4 業務分掌表

主担当	副担当	分 掌 事 務
榎 間	松 浦	1 センターの総括に関すること
松 浦	森 下	1 植物防疫および肥料関係事業の総括に関すること 2 病虫害発生予察並びに情報作成の総括に関すること 3 農薬取締および肥料取締に関すること 4 各種協議会の総括に関すること 5 全国的なサーベイデータ蓄積及び分析に関すること

主担当	副担当	分 掌 事 務
森 下	久 野	発生予察関連資料の作成に関すること
久 野	黒 木	<ol style="list-style-type: none"> 1 野菜等の病害虫発生予察に関すること 2 宮崎方式 ICM 技術確立事業に関すること 3 特殊病害虫侵入警戒調査対策事業に関すること 4 病害虫診断対策に関すること 5 肥料分析に係る事務に関すること 6 農薬取締および肥料取締に関すること
黒 木	久 野	<ol style="list-style-type: none"> 1 普通作物等の病害虫発生予察に関すること 2 戦略的イノベーション創造プログラムに関すること 3 情報ネットワーク保守・管理に関すること 4 病害虫診断対策に関すること 5 薬品の保管管理に関すること 6 農薬取締および肥料取締に関すること
倉 永	松 浦	<ol style="list-style-type: none"> 1 果樹・茶等の病害虫発生予察に関すること 2 発生予察関連資料の作成に関すること

Ⅱ 事 業 実 績

1 農作物有害動植物発生予察事業

病虫害発生予察事業は、病虫害の防除を適時で経済的なものにするため、その発生分布・繁殖・気象・農作物の生育状況等を調査し、病虫害による損害の発生を予察し、これに基づく発生予察情報を関係者に提供するものである。

農作物有害動植物発生予察事業実施要綱及び同実施要領に準拠し、予察ほ場の定点調査及び巡回調査を行って病虫害予察方法の確立に努め、発生予報・警報・注意報・特殊報・防除情報を発表して病虫害防除対策の資料にした。

1) 調査の種類及び方法

(1) 指定病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	いもち病、紋枯病、イネミズゾウムシ、コブノメイガ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、トビイロウンカ、ニカメイガ、斑点米カメムシ類、ヒメトビウンカ
	サツマイモ	ハスモンヨトウ
	ジャガイモ	疫病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ダイズ	吸実性カメムシ類、ハスモンヨトウ
果樹等作物	カンキツ	かいよう病、黒点病、そうか病、カメムシ類、ミカンハダニ
	チャ	炭疽病、カンザワハダニ、ハマキムシ類
野菜	キュウリ	うどんこ病、灰色かび病、べと病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	ピーマン	うどんこ病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ
	トマト	疫病、灰色かび病、アブラムシ類
	ダイコン	アブラムシ類、コナガ
	イチゴ	灰色かび病、アブラムシ類、ハスモンヨトウ

(2) 指定外病虫害

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
普通作物	イネ	萎縮病、稲こうじ病、黄萎病、黄化萎縮病、ごま葉枯病、縞葉枯病、白葉枯病、内穎褐変病、苗立枯病、ばか苗病、もみ枯細菌病、アワヨトウ、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イネヒメハモグリバエ、イネヨトウ、シンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ、フタオビコヤガ
	サツマイモ	立枯病、つる割病、紫紋羽病、アブラムシ類、イモキバガ、エビガラズメ、ドウガネブイブイ、ナカジロシタバ
	ジャガイモ	葉巻病、ニジュウヤホシテントウ、ヨトウガ
	ダイズ	さび病、紫斑病、立枯性病害、葉焼病、腐敗豆、べと病、モザイク病、ウコンノメイガ、クキモグリバエ、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハダニ類、フタスジヒメハムシ、マメコガネ、マメシンクイガ、マメヒメサヤムシガ、ミツモンキンウワバ

区分	対象作物名	有 害 動 植 物 名
果樹等作物	カンキツ	青かび病、黄斑病、日やけど炭疽病、にせ黄斑病、灰色かび病、アブラムシ類、吸蛾類、クサギカメムシ、コアオハナムグリ、チャノキイロアザミウマ、ツノロウムシ、ヒメヒラタケシキスイ、ミカンハモグリガ、ヤノネカイガラムシ
	チャ	網もち病、白星病、もち病、輪斑病、クワシロカイガラムシ、チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツマグロアオカスミカメ
野菜	キュウリ	疫病、褐斑病、キュウリ退緑黄化病、キュウリ黄化えそ病、菌核病、炭疽病、つる枯病、つる割病、斑点細菌病、モザイク病、アザミウマ類、ウリノメイガ、ウリハムシ、コナジラミ類、チャノホコリダニ、ハモグリバエ類
	ピーマン	青枯病、疫病、黄化えそ病、菌核病、軟腐病、灰色かび病、白斑病、斑点細菌病、斑点病、モザイク病、アザミウマ類、黒枯病、コナジラミ類、タバコガ、チャノホコリダニ、ハダニ類
	トマト	青枯病、萎凋病、うどんこ病、菌核病、斑点病、葉かび病、モザイク病、輪紋病、コナジラミ類、トマト黄化葉巻病 (TYLCV)、ハモグリバエ類、すすかび病
	ダイコン	萎黄病、白さび病、炭疽病、軟腐病、べと病、モザイク病、キスジノミハムシ、ダイコンサルハムシ
	イチゴ	萎黄病、うどんこ病、菌核病、じゃのめ病、炭疽病、輪斑病、ハダニ類、コナジラミ類、アザミウマ類
	サトイモ	疫病

(3) 巡回調査ほ場数

地域 対象作物名	中部	南那珂	北諸県	西諸県	児湯	東臼杵	西臼杵	計
早期水稲	11	6			10	4		31
普通期水稲	5		10	8		10	8	41
ダイズ	1		6					7
サツマイモ		4	4		4			12
ジャガイモ	2		4		4			10
カンキツ	8	4			2	4		18
チャ	2	1	4	2	4		4	17
冬春キュウリ	11	2	2			3		18
冬春ピーマン	3	2			6			11
冬春トマト	3				5	2		10
ダイコン	6					4		10
冬春イチゴ	2		3	3	4			12
サトイモ	2		4	4	2			12
計	56	19	37	17	41	27	12	209

2) 主要農作物の病害虫発生概況（平成29年産）

(1) 早期水稲

葉いもちの初発生は5月17日で平年よりもやや早い発生であった。6月下旬にいもち病に好適な気象条件が続いたが、7～8月の高温少雨により発生・進展が抑制され、発生量は平年並であった。

紋枯病は穂ばらみ期以降に発生がみられたが、その後の上位進展はほとんどみられず、7月中旬の発生量は平年よりやや少であった。

斑点米カメムシ類は、6月上旬のイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度は平年よりやや多で、6月中旬の本田での発生面積率は平年に比べて多であり（病害虫予察防除情報第2号（H29.6.19））、その後の6月下旬の本田での発生面積率及び生息密度は平年に比べて多の発生であった（病害虫発生予察注意報第3号（H29.7.3））。

(2) 普通期水稲

葉いもちは7月中旬から発生が確認されたが、8月にかけて高温少雨の状況が続き発生及び進展が抑制され、8月中旬の発生面積率及び発病度はいずれも平年より少の発生であった。

紋枯病は7月中旬の巡回調査から確認され、発生量は期間を通して平年並で推移した。

セジロウンカは初飛来が平年より遅く7月19日で、県内の広い範囲で断続的な飛来が見られたのは8月に入ってからであり、誘殺頭数が非常に少なく推移した。

トビイロウンカは初飛来が6月21日で平年より早く、梅雨時期の県内への飛来は散發的なものであったことや、8月の好天により計画通り防除が行われたこともあり、期間をとおして平年並の発生であった。

コブノメイガは初飛来が7月1日で前年よりも遅く、飛来回数、飛来量ともに少なく推移した。発生量は期間を通して平年に比べて少の発生であった。

斑点米カメムシ類は8月中旬の巡回調査では平年に比べて多の発生であったが、8月の好天により計画通り防除が行われたこともあり、9月中旬の発生程度は平年並であった（病害虫発生予察注意報第4号（H29.8.21））。

(3) カンショ

ナカジロシタバやハスモンヨトウの8月中旬の発生量は平年並の発生であったが、9月中旬の発生量は平年に比べてやや少の発生であった。イモキバガの8月中旬発生量は平年よりやや少であったが、9月中旬の発生量はやや多であった。

(4) 大豆

べと病の9月（着莢期）の発生面積率及び発生程度は平年より少の発生であり、その後の収穫物調査でも被害粒は平年に比べてやや少の発生であった。

ハスモンヨトウの発生面積は平年並であったが、程度は期間を通して平年に比べてやや多から多の発生であった。吸汁性カメムシは期間を通して平年並の発生であった。

(5) ジャガイモ

疫病は、4月下旬から5月上旬に比較的好天に恵まれたことから、5月中旬の発生量は平年に比べて少発生となった。

(6) かんきつ類（露地栽培）

そうか病及び黒点病の初発生は葉では平年よりやや早く、果実では黒点病が平年並、そうか病は平年よりやや早かった。かいよう病の葉での初発生は平年並で、6月中旬の

発生は平年に比べやや多であった（病害虫予察防除情報第4号（H29.6.26））。その後、平年並に落ち着き、果実調査では平年並の発生で推移した。

ミカンハダニの越冬成虫は平年並であった。発生は4月中旬から増加し、6月中旬は平年に比べて多発生となったが（病害虫予察注意報第2号（H29.6.26））、その後は平年並の発生に落ち着いた。

果樹カメムシ類はフェロモントラップでの誘殺数は平年よりやや少～少であった。予察灯での誘殺数は、7月下旬までは平年よりやや少～少であったが、8月6日と9月17日の台風通過後に誘殺数が急増した。果樹園での飛来が確認されている地域もあり、一部のほ場では果実への被害も確認された。

(7) 茶

炭疽病は期間を通して平年より少から並で推移した。輪斑病は概ね平年並で推移した。

チャノコカクモンハマキ、チャハマキ及びチャノホソガについて、フェロモントラップでの誘殺は一部地域で時期によっては平年より多の発生であった。カンザワハダニについては、5月と9月はやや多～多の発生であったが（病害虫予察注意報第5号（H29.9.27））、期間を通しては概ね並の推移であった。クワシロカイガラムシは一部園地で発生が増加した時期もあったが、全体的にやや少ない発生で推移した。

(8) 冬春きゅうり（栽培期間：平成28年9月～29年6月）

べと病は年内の発生は少なかったものの年明け以降増加し、平年に比べてやや多の発生となった。うどんこ病、褐斑病は平年並の発生であった。黄化えそ病は、平年並の発生であったが、モザイク病はやや多の発生となった。

その他病害については、平年並からやや少の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは栽培当初から平年と比較して発生が少なく、年明け以降発生面積がやや増加したものの、栽培期間を通して平年よりもやや少の発生で推移した。

タバココナジラミについては、栽培期間を通して発生面積は平年並であったが、発生量については、少ない頭数で推移した。

その他虫害については、平年並からやや少の発生であった。

(9) 冬春ピーマン（栽培期間：平成28年9月～29年6月）

斑点病および黒枯病は、年末から発生面積および発病葉率が増加し、平年よりやや多の発生となった（病害虫防除情報第7号（H28.11.30））。黒枯病は年明け以降、平年並に落ち着いたが、斑点病は調査終了時の4月中旬まで発生が多く、平年と比較してやや多の発生となった。うどんこ病は栽培当初より発生が少なく、春先にやや発生面積が増加したものの、平年と比較して少発生となった。

その他病害については、平年並からやや少の発生であった。

ミナミキイロアザミウマは、栽培当初から発生が少なく、期間を通じて平年よりやや少の発生となった。ヒラズハナアザミウマは発生に増減があったものの、おおむねやや多の発生であった。

タバココナジラミについては、年内の発生が多かったが、年明け以降は平年並となった。その他虫害については、平年並からやや少の発生であった。

(10) 冬春トマト（栽培期間：平成28年9月～29年6月）

葉かび病は年末から急激に増加し、調査終了時の4月中旬まで発生が多く、平年と比較して多発生となった（平成28年度病害虫発生予察注意報第4号（H29.1.30）、平成29年度病害虫発生予察第1号（H29.4.28））。すすかび病は、栽培当初から発生が多く、平年と比較し

て多発生となった（病害虫防除情報第7号(H28.11.30)、病害虫発生予察注意報第4号(H29.1.30)）。

その他病害については、平年並からやや少の発生であった。

タバココナジラミは栽培初期はやや多であったが、その後は平年並の発生であった。

その他虫害については平年並からやや多の発生であった。

(11) いちご（栽培期間：平成28年9月～29年5月）

うどんこ病は栽培期間を通して、平年より少発生となった。その他の病害についても、平年よりやや少の発生となった。

ハダニ類は、栽培当初は平年より少ない発生であったが、12月以降は平年並となった。

3月にはやや増加したが、栽培期間を通して平年並の発生であった。ハスモンヨトウは平年よりやや少の発生であった。

(12) 秋冬だいこん（栽培期間：平成28年9月～28年12月）

秋冬だいこんではモザイク病、べと病、軟腐病いずれも平年並の発生であった。

コナガとアブラムシ類は平年よりやや少の発生で、キスジノミハムシとダイコンサルハムシとアブラムシは平年並の発生であった。

(13) サトイモ（栽培期間：平成29年3月～29年9月）

サトイモ疫病については、病害虫防除情報第5号(H29.7.7)を発表し、適切な防除を呼びかけたが、巡回調査地点における初発生は7月18日に極少発生を確認した。その後、7月下旬までの発生は、前年と比較してやや緩慢であったが、7月末から8月頭にかけての降雨で、発生が増加し、その後の台風通過で一気に発生面積率、発生程度が増加した。

3) 水稲、かんきつ病害の初発日ならびにウンカ類の初飛来日

(1)水稲、かんきつ病害の初発日

ア. 水稲

種 別	早期水稲			普通期水稲		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
葉いもち	5. 17	5. 21	5. 19	7. 10	7. 3	6. 13
穂いもち	7. 6	7. 9	6. 28	9. 11	9. 9	9. 5
紋枯病	7. 7	7. 3	6. 28	7. 27	8. 4	7. 27
白葉枯病	—	—	—	9. 11	—	—

イ. かんきつ

種 別	春 葉			果 実		
	本 年	平 年	前 年	本 年	平 年	前 年
そうか病	4. 21	5. 3	4. 24	5. 22	6. 13	5. 20
黒点病	5. 5	5. 26	5. 6	7. 6	7. 2	6. 20
かいよう病	5. 15	5. 13	5. 10	5. 22	6. 30	7. 1

(2)予察灯におけるウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガの初飛来日

項 目	地区名 年次	延 岡			佐土原			国 富			都 城		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
セジロウンカ		8. 09	6. 9	6. 20	7. 25	6. 13	6. 16	9. 11	6. 18	6. 16	7. 19	6. 10	5. 30
トビイロウンカ		7. 10	7. 4	6. 19	8. 17	8. 04	9. 13	7. 25	7. 9	6. 16	6. 21	7. 7	6. 21
ヒメトビウンカ		5. 23	6. 20	5. 25	7. 08	7. 25	8. 25	8. 2	7. 8	7. 7	7. 10	6. 26	8. 1
ツマグロヨコバイ		5. 22	5. 24	5. 19	7. 5	5. 23	5. 14	5. 22	5. 19	5. 19	5. 8	5. 26	5. 24
コブノメイガ		7. 12	7. 16	—	8. 16	6. 28	—	9. 28	8. 4	—	8. 4	6. 24	8. 5

4) 予察灯（白色60W）における水稻害虫の誘殺状況（頭／半旬別換算）

(1) 延岡

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	1.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	46	6.0	0	1.1	0	0.0	2	1.0
	6	89	27.6	0	0.4	1	0.0	0	0.6
	計		135	34.6	0	1.5	1	0.0	2
6	1	478	17.2	0	0.1	0	0.0	3	0.0
	2	156	49.7	0	10.2	0	0.0	0	0.2
	3	8	19.9	0	1.6	0	0.0	0	0.1
	4	15	14.7	0	8.7	0	1.3	0	0.7
	5	11	5.4	0	14.9	0	0.3	0	0.7
	6	3	1.7	0	2.1	0	0.2	0	0.2
	計		671	108.6	0	37.6	0	1.8	3
7	1	0	0.7	0	16.0	0	1.1	1	0.1
	2	1	1.6	0	9.0	1	0.4	0	0.5
	3	5	7.0	0	14.5	1	1.7	2	0.7
	4	7	29.9	0	8.8	1	0.2	3	0.2
	5	19	42.5	0	15.0	0	1.0	1	0.0
	6	45	64.8	0	4.0	0	0.1	0	0.4
	計		77	142.7	0	67.3	3	4.5	7
8	1	5	9.8	0	3.1	0	0.4	1	0.4
	2	7	7.1	4	3.9	2	0.5	0	0.5
	3	15	21.1	3	4.7	0	1.2	1	0.7
	4	20	52.9	1	49.8	0	1.7	1	1.4
	5	22	49.3	0	11.4	0	2.4	0	1.3
	6	38	21.3	25	17.6	25	7.0	14	1.1
	計		107	159.4	33	87.6	27	12.8	17
9	1	5	18.9	2	11.2	0	2.8	1	2.0
	2	2	23.9	2	13.4	3	28.9	0	0.9
	3	4	7.2	7	7.2	57	13.3	1	0.6
	4	0	3.4	2	16.3	4	8.3	0	0.2
	5	0	13.6	2	4.2	7	3.0	5	0.3
	6	3	2.2	3	7.3	2	18.2	1	2.3
	計		14	68.5	18	58.5	73	72.9	8
10	1	0	4.9	0	2.6	4	25.0	0	3.5
	2	1	7.0	9	1.5	53	37.2	8	2.0
	3	0	1.3	8	1.4	160	11.5	4	0.3
	4	0	0.4	0	0.1	20	11.7	1	0.0
	5	0	0.0	0	0.4	1	7.7	0	0.1
	6	0	0.0	0	0.0	17	3.1	0	0.1
	計		1	13.6	17	6.0	255	96.2	13

(2) 佐土原

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	1.3	0	1.5	0	0.0	0	0.0
	6	0	2.4	0	1.4	0	0.0	0	0.0
	計		0	4.7	0	2.9	0	0.0	0
6	1	0	1.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	1.7	0	0.7	0	0.0	0	0.2
	3	0	4.0	0	0.2	0	0.0	0	0.2
	4	0	4.9	0	5.5	0	0.0	0	0.2
	5	0	4.3	0	5.5	0	0.3	0	0.0
	6	0	6.0	0	6.9	0	0.1	0	0.0
	計		0	21.9	0	18.8	0	0.4	0
7	1	1	5.1	0	28.4	0	0.1	0	0.2
	2	1	6.1	0	6.3	0	0.1	1	0.0
	3	6	12.1	0	0.8	0	0.2	0	0.2
	4	21	39.3	0	1.0	0	0.2	0	0.2
	5	30	49.8	1	13.8	0	0.8	0	0.0
	6	62	62.0	0	3.3	0	0.0	0	0.4
	計		121	170.5	1	53.5	0	1.4	1
8	1	4	68.9	0	2.6	0	0.0	0	0.3
	2	4	19.5	0	0.3	0	0.0	0	0.1
	3	3	28.3	0	1.2	0	0.2	0	0.2
	4	5	55.9	2	1.5	1	0.1	0	0.1
	5	0	19.2	0	3.0	0	0.6	0	0.5
	6	8	154.6	6	6.5	6	0.4	0	0.3
	計		24	346.4	8	15.1	7	1.3	0
9	1	0	100.1	0	1.6	6	0.0	0	0.1
	2	0	36.4	1	2.5	1	1.3	0	0.2
	3	0	23.1	2	9.5	3	1.4	2	0.0
	4	0	7.9	0	1.5	0	1.6	0	0.1
	5	0	5.6	0	1.2	0	0.2	0	0.1
	6	0	0.9	0	1.5	0	1.5	0	0.4
	計		0	174.0	3	17.8	10	6.0	2
10	1	0	3.1	0	1.3	0	36.0	0	0.1
	2	0	1.8	1	0.9	0	5.7	0	0.1
	3	0	0.2	0	0.3	8	27.1	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.1	0	0.7	0	0.0
	5	0	0.1	0	0.5	0	0.8	0	0.0
	6	0	0.1	0	0.1	0	0.7	0	0.0
	計		0	5.3	1	3.2	8	71.0	0

(3) 国富

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	3.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	5	9.3	0	0.2	0	0.0	0	0.2
	6	40	35.3	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	計		45	48.5	0	0.2	0	0.0	0
6	1	21	23.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	63.4	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	18	31.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	4	37	28.4	0	6.1	0	0.6	0	0.0
	5	10	22.3	0	28.8	0	0.0	0	0.2
	6	1	5.0	0	3.4	0	0.2	0	0.1
	計		87	168.4	0	34.7	0	0.7	0
7	1	6	6.0	0	38.7	0	1.2	0	0.4
	2	2	9.2	0	17.9	0	0.3	0	1.1
	3	7	11.2	0	3.3	0	1.3	0	0.4
	4	14	8.2	0	1.5	0	0.1	0	0.0
	5	10	16.8	1	3.4	1	0.1	0	0.5
	6	17	20.7	0	4.9	0	0.3	0	0.3
	計		56	66.0	1	65.5	1	3.1	0
8	1	3	22.9	0	1.5	0	0.5	1	3.9
	2	18	27.1	0	2.2	2	0.2	0	0.9
	3	16	61.4	0	5.2	3	1.0	0	0.6
	4	20	40.1	0	4.6	3	0.7	2	0.2
	5	10	29.3	0	5.1	1	7.3	1	1.0
	6	35	14.6	0	12.8	8	8.2	0	2.0
	計		102	195.4	0	31.4	17	17.9	4
9	1	4	5.5	0	8.4	1	4.5	0	0.4
	2	2	4.6	0	3.8	0	9.0	0	0.9
	3	2	2.6	6	6.7	18	10.3	1	0.6
	4	2	1.4	0	0.9	2	2.9	0	0.1
	5	0	1.1	4	1.8	3	2.9	1	0.1
	6	0	0.3	5	1.2	13	7.6	0	0.4
	計		10	13.7	15	24.2	37	39.8	2
10	1	0	1.1	3	1.1	58	6.4	1	0.1
	2	2	0.3	3	1.0	32	5.4	0	0.4
	3	2	0.1	0	1.5	133	4.9	1	0.3
	4	0	0.0	0	0.4	147	11.6	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.9	11	13.5	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.4	2	6.1	0	0.0
	計		4	1.5	6	5.4	383	48.8	2

(4) 都城

		ツマグロヨコバイ		セジロウンカ		トビイロウンカ		ヒメトビウンカ	
月	半旬	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値	本年	平年値
4	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	計		0	0.1	0	0.0	0	0.0	0
5	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	2	1	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
	3	0	0.1	0	0.0	1	0.0	0	0.1
	4	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	5	2	0.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	6	16	8.3	0	0.6	0	0.0	0	0.0
	計		19	9.3	0	0.6	1	0.0	0
6	1	30	6.9	0	0.2	0	0.0	0	0.0
	2	13	29.9	0	14.2	0	0.0	0	0.0
	3	4	27.6	0	10.5	0	0.3	0	0.1
	4	3	8.9	0	26.1	0	0.1	0	0.1
	5	7	2.7	0	114.1	2	8.4	0	0.2
	6	17	6.7	0	53.7	0	1.8	0	1.0
	計		74	82.6	0	218.8	2	10.6	0
7	1	1	3.4	0	552.0	0	6.8	0	1.4
	2	6	4.3	0	105.7	2	0.9	1	1.3
	3	26	13.8	0	41.9	0	1.3	1	0.5
	4	71	24.8	2	13.2	2	0.5	2	0.1
	5	149	79.8	0	24.8	0	1.1	3	1.3
	6	295	120.7	0	35.6	1	3.5	0	3.3
	計		548	246.8	2	773.2	5	14.1	7
8	1	55	73.5	0	80.1	0	2.3	0	1.7
	2	50	77.0	5	8.3	18	0.6	0	0.6
	3	33	95.2	5	10.7	7	1.9	3	0.6
	4	123	100.1	0	8.7	6	1.1	0	0.3
	5	133	105.3	1	8.9	1	5.8	0	0.3
	6	359	62.0	5	20.3	15	9.6	7	0.4
	計		753	494.2	16	126.2	47	20.7	10
9	1	79	62.8	9	12.5	9	13.4	0	0.6
	2	47	46.1	19	6.5	23	34.5	3	0.6
	3	11	10.0	3	5.8	32	5.7	0	1.1
	4	0	7.9	4	8.3	3	7.6	0	6.3
	5	3	10.9	11	7.5	26	14.6	1	0.7
	6	5	10.6	9	3.6	27	36.8	0	0.1
	計		145	147.1	55	43.8	120	108.9	4
10	1	3	26.9	2	2.7	85	153.2	0	0.6
	2	1	7.5	0	3.3	250	93.8	0	1.0
	3	0	4.4	1	0.7	168	25.9	0	0.3
	4	1	2.2	0	1.2	3	99.5	0	0.2
	5	0	0.1	0	0.5	0	65.6	0	0.5
	6	0	0.3	0	1.0	1	34.7	0	0.0
	計		5	41.1	3	9.4	507	472.7	0

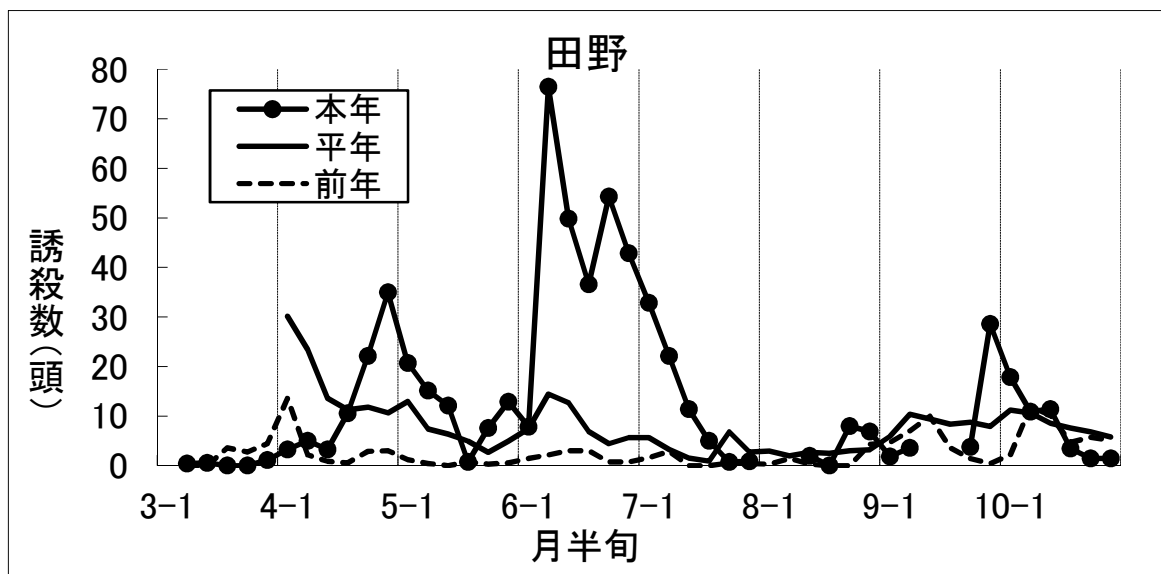
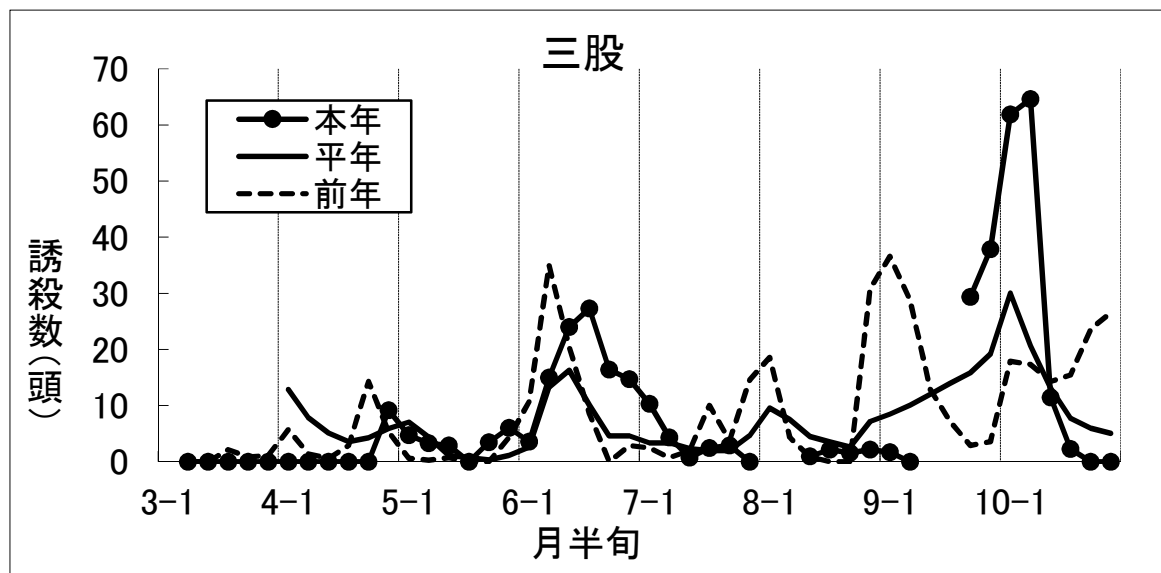
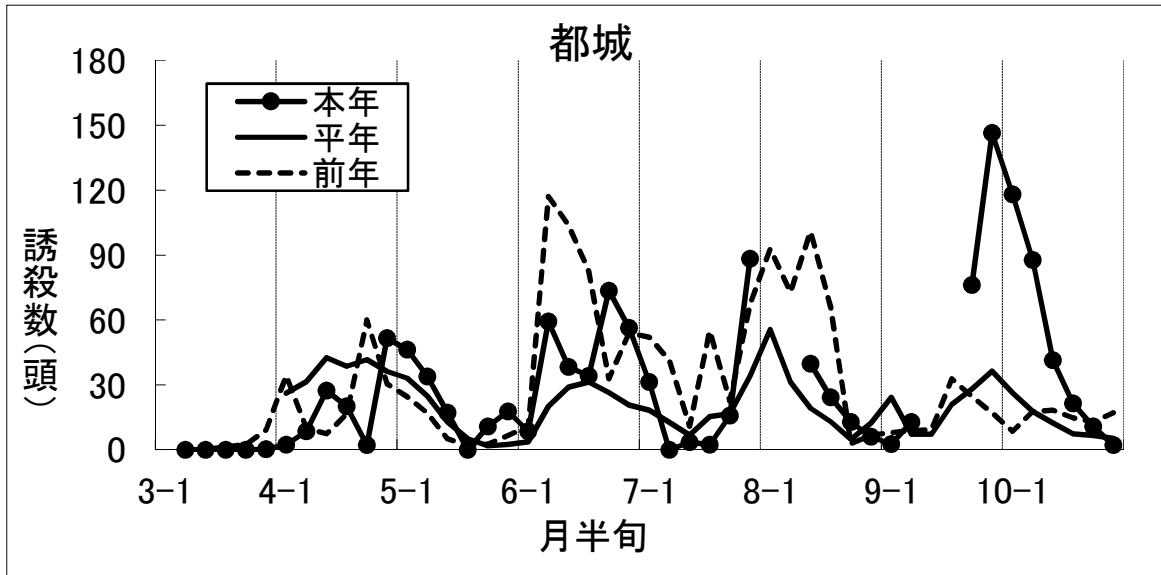
5) フェロモントラップによる誘殺状況 (頭/半旬別換算)

(1) チャハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0		0	0		0	0		0
	3	0		0	0		0	1		0
	4	0		1	0		2	0		4
	5	0		2	0		1	0		3
	6	0		9	0		1	1		4
4	1	2	26	34	0	13	6	3	30	14
	2	9	31	10	0	8	1	5	23	2
	3	27	43	7	0	5	1	3	14	1
	4	20	39	17	0	4	3	11	11	1
	5	2	42	60	0	4	14	22	12	3
	6	52	36	30	9	6	5	35	11	3
5	1	46	33	25	5	7	1	21	13	1
	2	34	25	17	3	4	0	15	7	0
	3	17	13	5	3	1	1	12	6	0
	4	0	5	2	0	1	0	1	5	1
	5	11	2	3	3	0	0	8	3	0
	6	18	2	7	6	1	4	13	5	1
6	1	9	4	11	4	3	11	8	7	1
	2	59	20	117	15	13	35	76	14	2
	3	38	29	104	24	16	20	50	13	3
	4	34	31	83	27	10	9	37	7	3
	5	74	26	33	16	5	0	54	4	1
	6	56	21	54	15	5	3	43	6	1
7	1	31	18	52	10	3	2	33	6	2
	2	0	13	41	4	3	1	22	3	3
	3	4	7	11	1	2	2	11	2	0
	4	2	15	55	2	2	10	5	1	0
	5	16	17	22	3	2	4	1	7	1
	6	88	34	67	0	5	15	1	3	0
8	1	—	56	93	—	10	19	—	3	0
	2	—	31	73	—	8	4	—	2	1
	3	40	19	101	1	4	1	2	3	0
	4	24	13	66	2	4	0	0	3	0
	5	13	5	3	2	3	0	8	3	0
	6	6	12	7	2	7	31	7	3	4
9	1	3	24	8	2	8	37	2	6	5
	2	13	7	9	0	10	29	4	10	7
	3	—	7	9	—	12	13	—	9	10
	4	—	21	33	—	14	7	—	8	4
	5	76	28	25	29	16	3	4	9	1
	6	146	36	17	38	19	4	29	8	0
10	1	118	26	9	62	30	18	18	11	2
	2	88	18	18	65	21	17	11	11	12
	3	41	12	18	11	13	14	11	9	10
	4	21	7	15	2	8	15	3	8	5
	5	11	7	13	0	6	24	1	7	6
	6	2	5	17	0	5	27	1	6	5

※「—」は欠測

平成29年度フェロモントラップ誘殺数(チャハマキ)



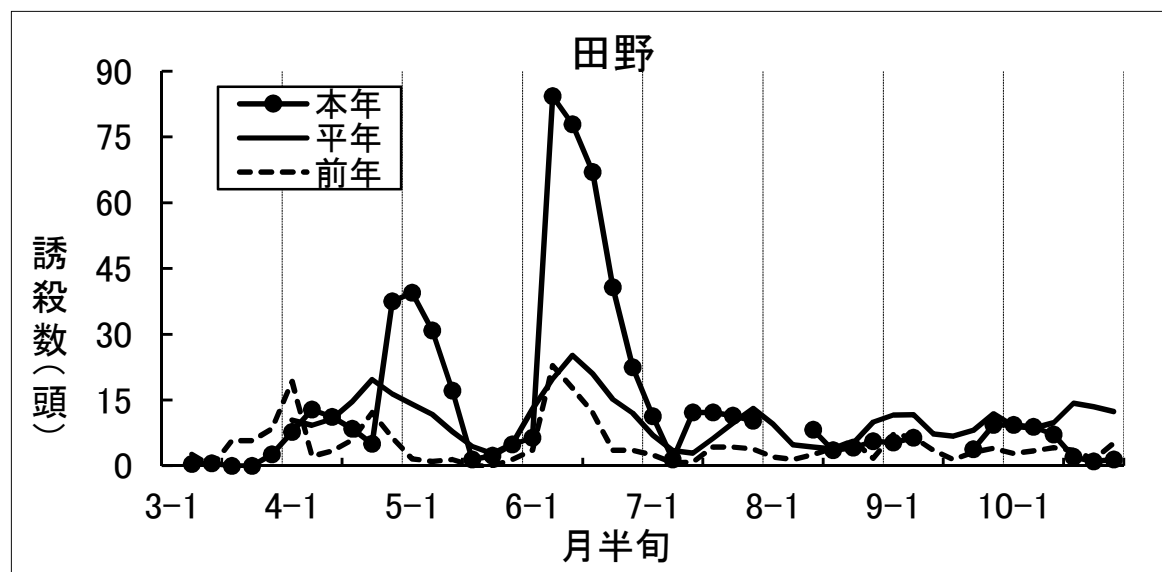
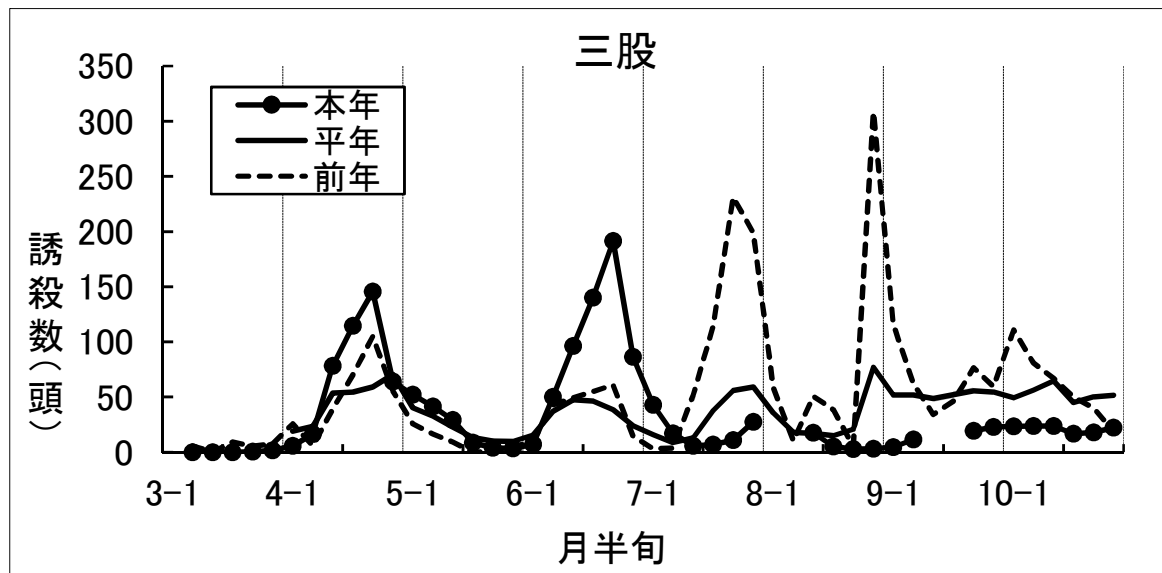
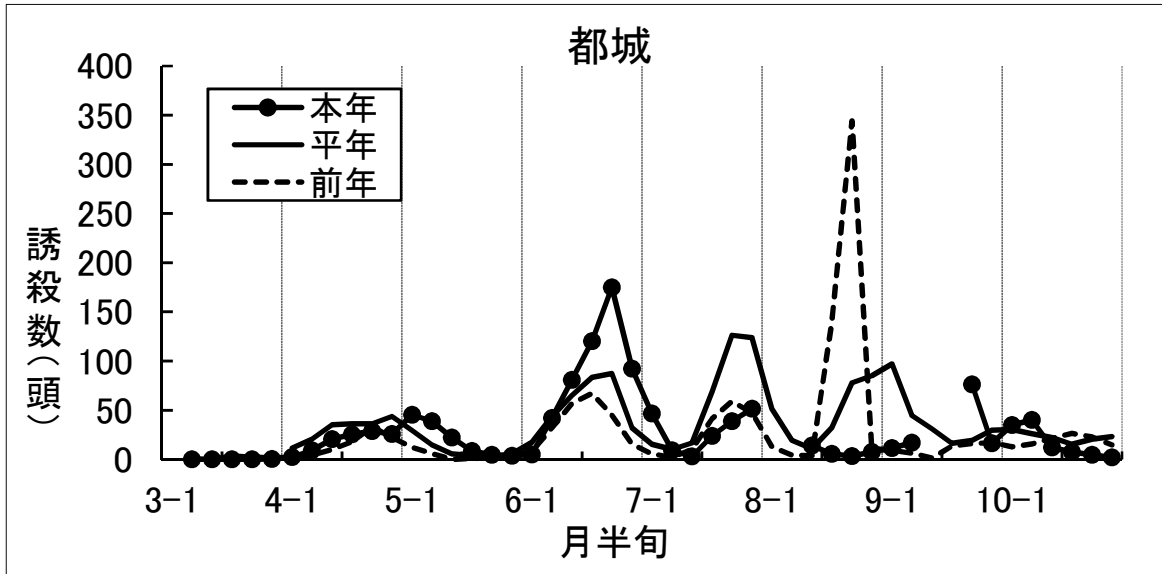
※本年値8月第1～2半旬、9月第3～4半旬は欠測

(2) チャノコカクモンハマキの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0		0	0		6	0		3
	3	0		0	0		0	1		0
	4	0		4	0		9	0		6
	5	0		2	1		5	0		6
	6	0		2	2		7	3		8
4	1	2	12	2	6	19	26	8	10	19
	2	9	21	4	16	23	6	13	9	2
	3	21	35	10	78	53	39	11	11	3
	4	26	36	18	114	54	70	8	15	6
	5	29	36	33	146	59	105	5	20	12
	6	26	44	23	64	71	55	38	16	6
5	1	45	29	12	52	40	26	40	14	2
	2	39	15	6	41	33	17	31	12	1
	3	22	6	0	29	23	9	17	8	1
	4	9	4	1	9	13	0	1	4	0
	5	5	3	2	4	10	0	2	3	0
	6	4	6	5	3	10	5	5	5	1
6	1	5	17	8	7	16	10	6	13	4
	2	42	44	32	50	37	43	84	20	23
	3	81	65	57	96	47	49	78	25	18
	4	120	83	67	140	46	55	67	21	12
	5	175	87	45	191	39	61	41	15	4
	6	92	32	15	86	24	14	22	12	4
7	1	47	16	6	43	16	3	11	7	2
	2	9	10	2	17	9	4	1	3	1
	3	3	17	10	6	13	52	12	3	1
	4	24	69	41	7	37	114	12	6	4
	5	39	126	59	11	56	231	11	10	4
	6	51	124	47	27	59	199	10	13	4
8	1	—	52	13	—	36	59	—	10	2
	2	—	19	4	—	18	10	—	5	1
	3	14	11	4	18	17	51	8	4	3
	4	6	32	140	5	15	38	4	4	4
	5	3	78	344	3	21	5	4	5	6
	6	8	85	11	3	77	309	6	10	2
9	1	11	97	9	5	52	116	5	12	7
	2	17	45	6	11	52	62	6	12	7
	3	—	31	1	—	49	34	—	7	4
	4	—	16	14	—	52	46	—	7	1
	5	76	19	16	19	56	77	4	8	3
	6	16	30	17	23	54	59	9	12	4
10	1	35	30	13	23	49	111	9	9	3
	2	40	26	16	24	56	81	9	9	3
	3	12	22	21	24	65	67	7	10	4
	4	8	16	27	17	45	50	2	14	4
	5	5	21	23	18	50	40	1	13	1
	6	2	23	15	22	51	19	1	12	5

※「—」は欠測

平成29年度フェロモントラップ誘殺数(チャノコカクモンハマキ)



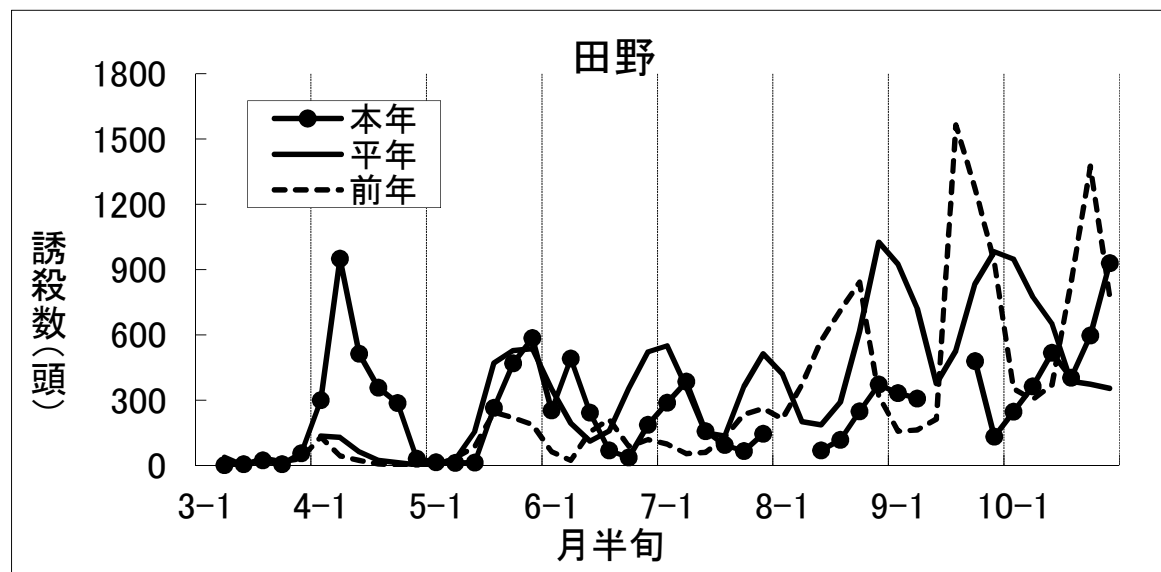
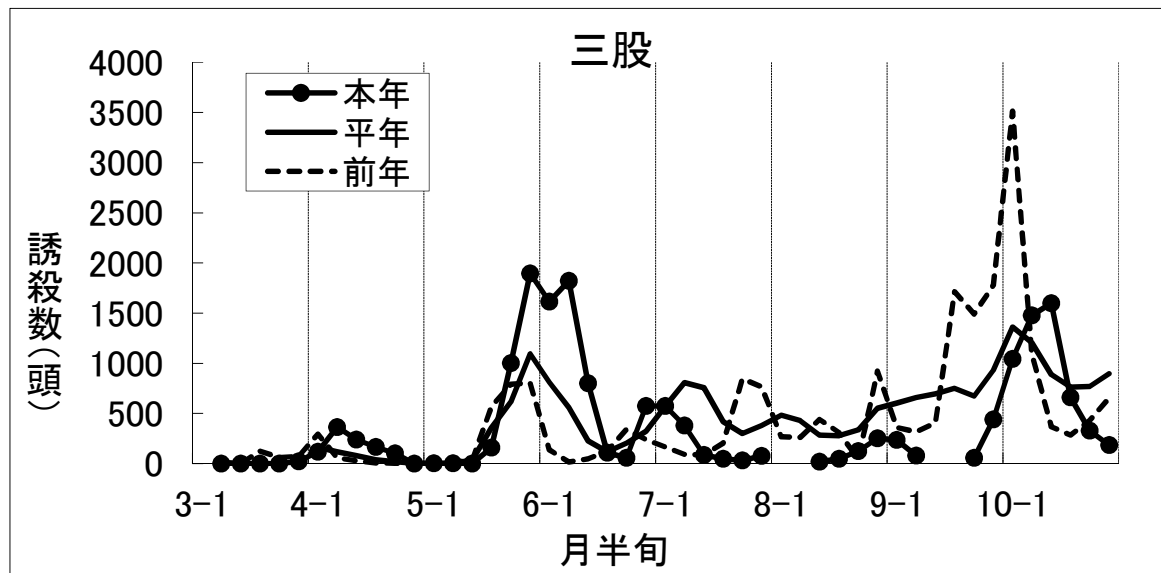
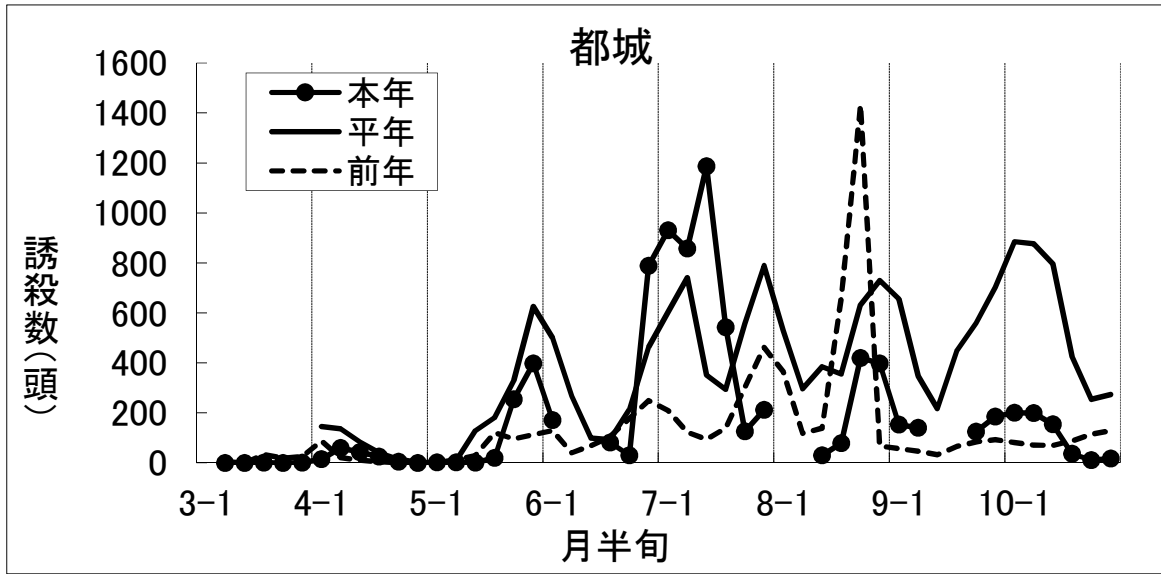
※本年値8月第1～2半旬、9月第3～4半旬は欠測

(3) チャノホソガの誘殺状況

月	半旬	都 城			三 股			田 野		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
3	1									
	2	0		5	1		13	1		37
	3	0		0	1		0	6		0
	4	1		34	1		124	24		33
	5	0		19	1		61	5		17
	6	1		25	23		74	55		32
4	1	15	146	89	118	163	294	300	135	131
	2	60	137	21	366	120	58	950	129	43
	3	43	84	12	239	80	28	513	62	22
	4	26	41	4	165	38	7	357	23	7
	5	5	15	1	103	21	2	286	12	2
	6	0	3	0	1	4	0	31	2	1
5	1	2	2	1	2	2	1	14	1	1
	2	2	8	12	2	4	14	11	28	35
	3	1	128	29	1	35	34	12	156	86
	4	20	181	121	161	357	569	264	471	243
	5	255	329	95	1,003	617	791	468	528	219
	6	398	626	114	1,897	1,093	806	585	537	188
6	1	171	500	129	1,614	812	136	253	351	63
	2	—	268	41	1,821	558	16	491	194	23
	3	—	99	69	801	227	49	243	110	154
	4	81	93	106	109	119	125	69	158	211
	5	30	213	177	58	205	342	36	354	88
	6	789	464	250	574	323	238	186	522	119
7	1	930	604	210	574	572	165	288	549	97
	2	857	742	123	381	808	94	385	358	54
	3	1,187	352	94	87	756	87	156	150	59
	4	543	294	139	48	419	206	94	135	131
	5	126	557	303	31	300	847	66	363	234
	6	213	790	462	78	381	766	146	512	261
8	1	—	530	365	—	481	268	—	421	214
	2	—	297	119	—	427	264	—	201	372
	3	31	384	140	21	283	442	68	187	574
	4	79	355	660	49	277	310	116	291	712
	5	420	633	1,432	125	337	45	247	615	843
	6	397	730	67	252	553	921	371	1,026	319
9	1	154	655	57	238	605	360	332	924	157
	2	141	347	47	79	658	317	306	722	163
	3	—	217	33	—	695	405	—	376	213
	4	—	449	66	—	751	1,714	—	528	1,564
	5	126	559	84	59	672	1,491	479	835	1,273
	6	185	703	93	441	932	1,777	131	983	933
10	1	200	885	82	1,044	1,362	3,514	247	948	353
	2	199	876	72	1,477	1,208	1,095	362	774	303
	3	155	797	70	1,600	888	368	517	651	368
	4	37	425	88	662	764	283	403	387	841
	5	11	254	114	331	771	430	596	373	1,375
	6	17	274	129	186	896	654	929	354	775

※「—」は欠測

平成29年度フェロモントラップ誘殺数(チャノホソガ)



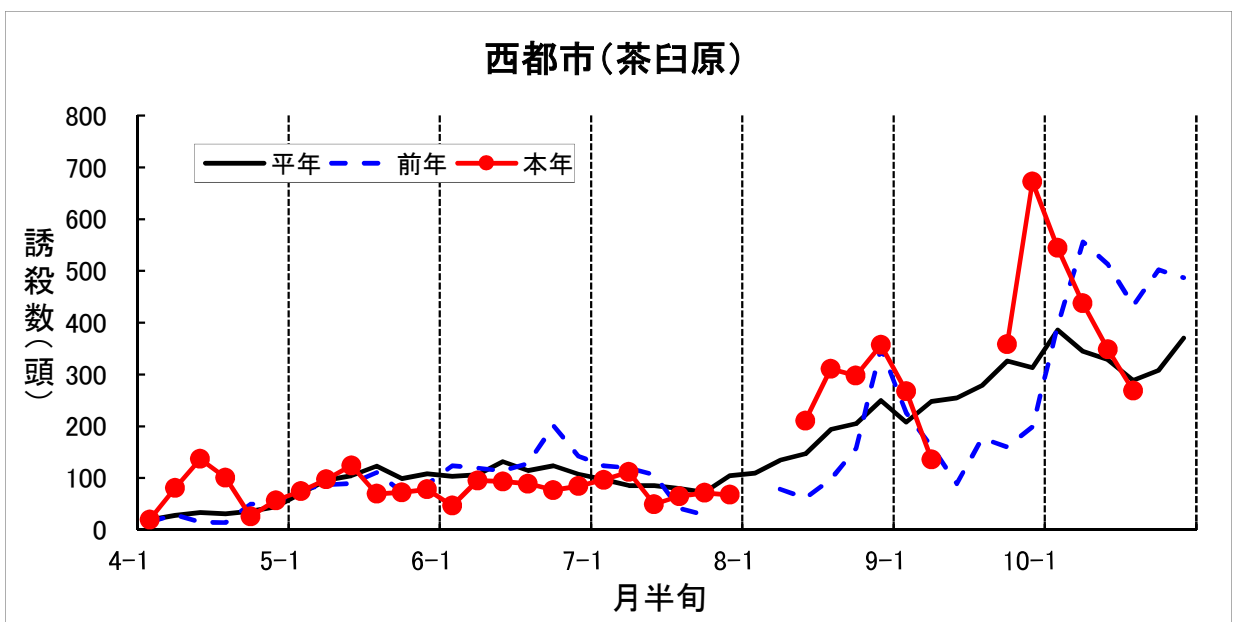
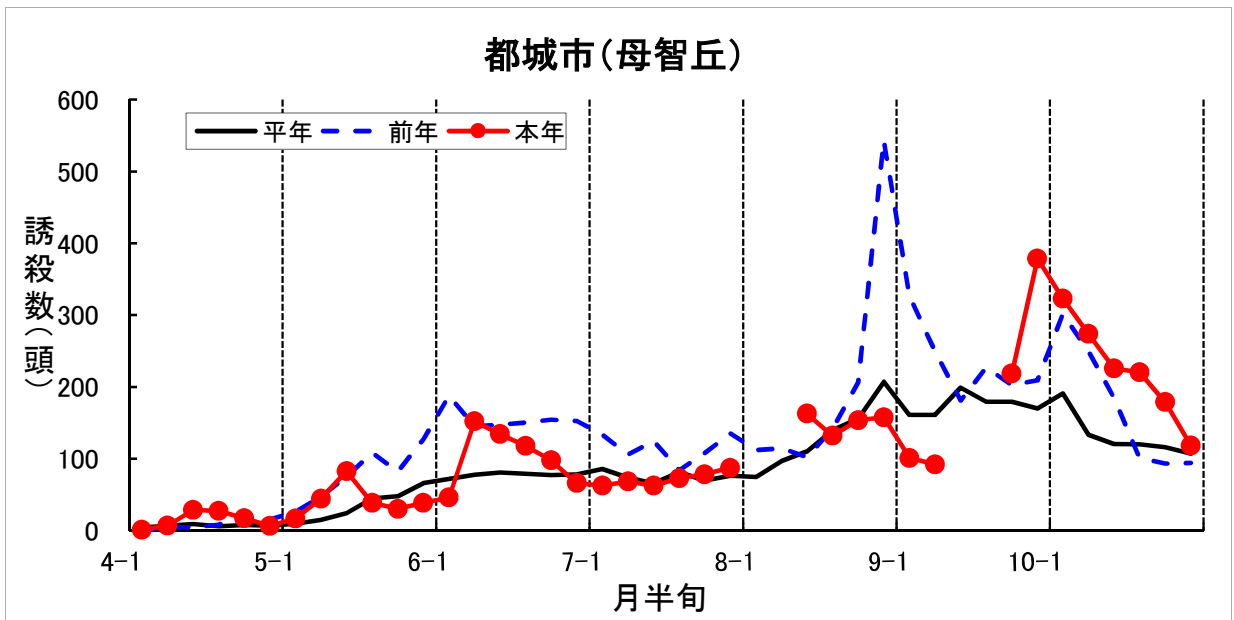
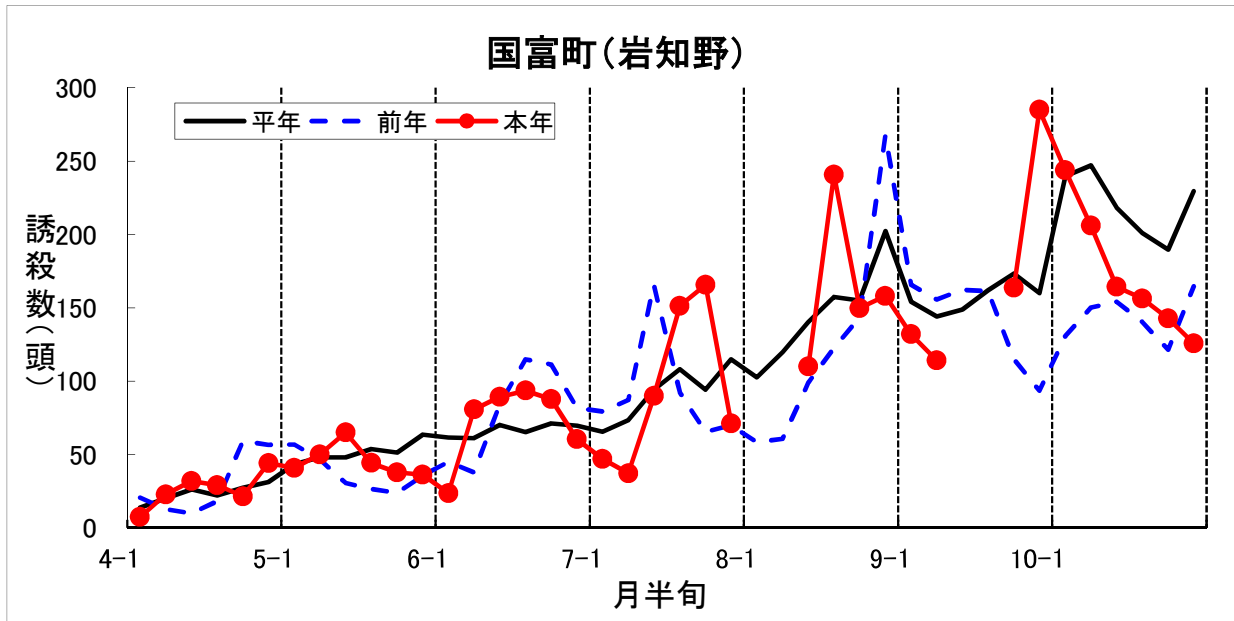
※本年値8月第1~2半旬、9月第3~4半旬は欠測

(4) ハスモンヨトウ（雄成虫）の誘殺状況

月	半旬	国富町（岩知野）			都城市（母智丘）			西都市（茶臼原）		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	7	14	21	1	4	1	20	19	15
	2	23	20	13	7	7	5	81	28	29
	3	32	26	10	29	9	5	137	34	15
	4	29	22	18	27	6	8	101	31	14
	5	21	27	59	17	8	25	26	36	49
	6	44	31	57	7	7	15	57	45	51
5	1	41	44	57	17	10	26	75	70	78
	2	50	48	47	45	15	48	97	96	87
	3	65	48	31	83	24	75	124	105	90
	4	44	54	26	39	45	109	69	123	111
	5	38	51	24	30	48	82	72	99	73
	6	36	64	36	39	66	127	78	108	88
6	1	24	62	45	46	72	188	46	103	124
	2	81	61	38	152	78	145	95	106	119
	3	89	70	85	135	81	148	93	132	114
	4	94	65	115	118	79	150	89	115	128
	5	88	71	111	98	77	154	76	123	201
	6	60	70	82	66	78	153	84	108	142
7	1	47	66	79	63	86	134	96	97	124
	2	37	73	87	69	74	106	111	86	119
	3	90	94	165	63	66	125	49	85	106
	4	151	108	92	73	81	84	65	80	41
	5	166	94	65	79	70	108	71	73	28
	6	71	115	70	87	77	135	68	105	0
8	1	-	103	58	-	75	112	-	110	0
	2	-	120	61	-	97	115	-	134	79
	3	110	140	99	163	110	102	211	147	61
	4	241	158	123	132	140	142	311	193	97
	5	150	155	144	154	156	206	298	205	157
	6	158	202	267	158	207	543	357	250	351
9	1	132	154	166	101	161	327	268	208	225
	2	114	144	156	92	161	250	136	248	161
	3	-	149	162	-	199	181	-	255	89
	4	-	162	161	-	180	227	-	279	177
	5	164	173	115	219	179	203	358	326	160
	6	285	160	94	379	170	209	672	313	198
10	1	244	240	131	323	191	301	544	386	394
	2	206	247	150	274	133	250	437	344	556
	3	164	218	154	226	121	185	349	328	513
	4	156	201	140	221	120	101	269	289	433
	5	143	190	121	179	116	94	-	308	502
	6	126	230	165	119	107	94	-	371	487

※ 「-」は欠測

平成29年度フェロモントラップ誘殺数(ハスモンヨトウ)



※本年値8月第1～第2半旬、9月第3～第4半旬は欠測、西都市の10月第5～第6半旬は欠測。

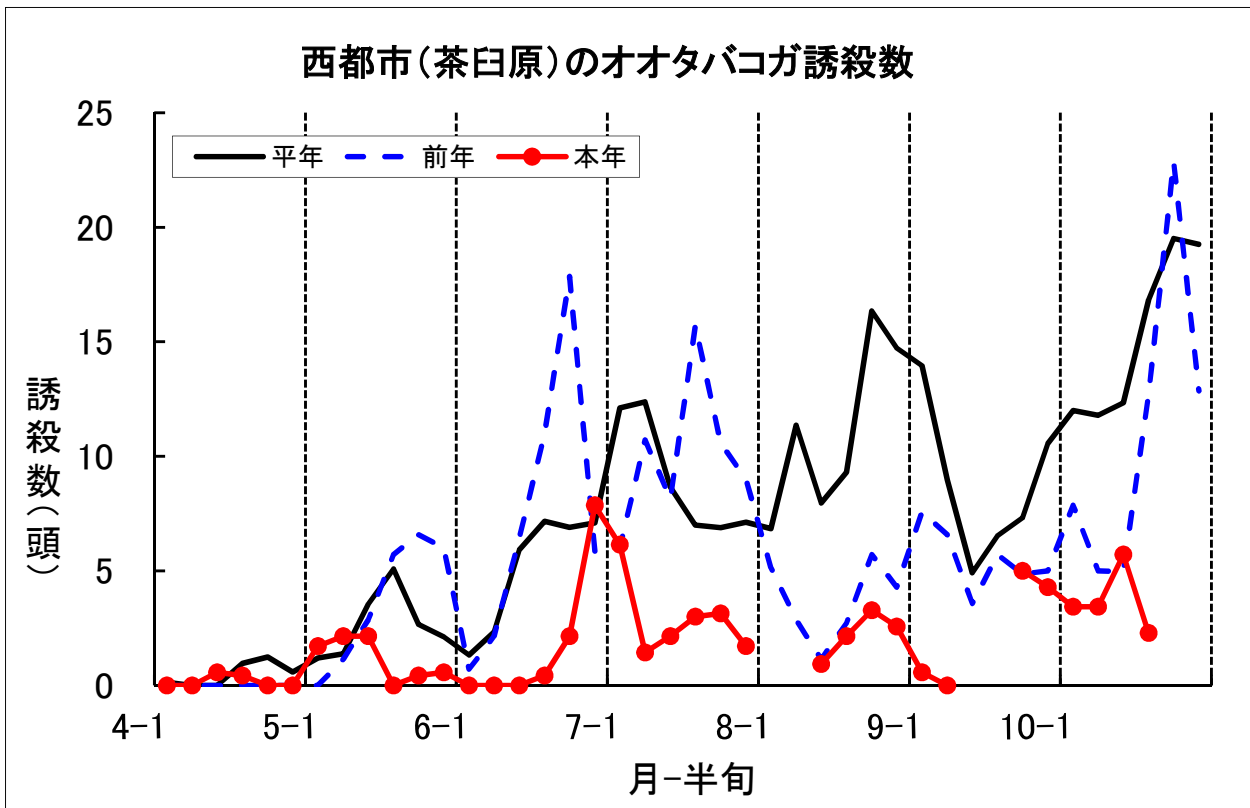
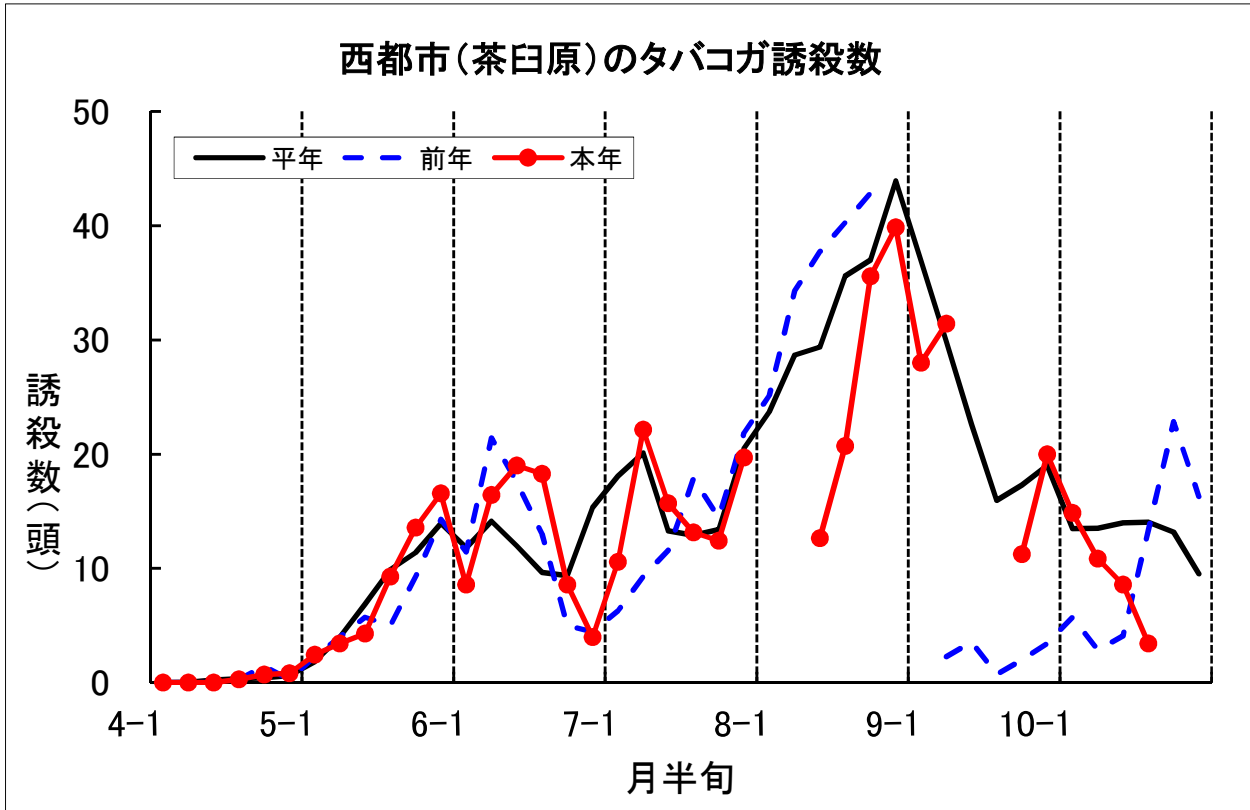
(5) タバコガ・オオタバコガ (雄成虫) の誘殺状況

月	半旬	タバコガ			オオタバコガ		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年
4	1	0	0.0	0	0	0.1	0
	2	0	0.0	0	0	0.0	0
	3	0	0.2	0	1	0.0	0
	4	0	0.3	0	0	1.0	0
	5	1	0.4	1	0	1.2	0
	6	1	0.6	0	0	0.6	0
5	1	2	1.8	2	2	1.2	0
	2	3	4.0	4	2	1.4	1
	3	4	6.9	6	2	3.5	3
	4	9	9.9	5	0	5.1	6
	5	14	11.4	9	0	2.7	7
	6	17	13.9	14	1	2.1	6
6	1	9	11.8	11	0	1.3	1
	2	16	14.1	21	0	2.3	2
	3	19	12.0	18	0	5.9	6
	4	18	9.7	13	0	7.2	11
	5	9	9.4	5	2	6.9	18
	6	4	15.3	4	8	7.1	6
7	1	11	18.1	6	6	12.1	6
	2	22	20.1	9	1	12.4	11
	3	16	13.3	12	2	8.7	8
	4	13	12.9	18	3	7.0	16
	5	12	13.4	14	3	6.9	11
	6	20	20.5	22	2	7.1	9
8	1	-	23.7	25	-	6.8	5
	2	-	28.7	34	-	11.4	3
	3	13	29.4	38	1	8.0	1
	4	21	35.6	40	2	9.3	3
	5	36	37.0	43	3	16.3	6
	6	40	43.9	0	3	14.7	4
9	1	28	36.9	0	1	14.0	8
	2	31	29.8	2	0	9.0	7
	3	-	22.6	4	-	4.9	4
	4	-	16.0	1	-	6.5	6
	5	11	17.3	2	5	7.3	5
	6	20	19.0	3	4	10.6	5
10	1	15	13.5	6	3	12.0	8
	2	11	13.5	3	3	11.8	5
	3	9	14.0	4	6	12.3	5
	4	3	14.0	13	2	16.8	13
	5	-	13.2	23	-	19.5	23
	6	-	9.5	16	-	19.3	13

※ 「-」は欠測

フェロモントラップ設置地点：西都市茶臼原

平成29年度フェロモントラップ誘殺数(タバコガ・オオタバコガ)



※本年値8月第1～第2半旬、9月第3～第4半旬、10月第5～第6半旬は欠測。

(6) コブノメイガの誘殺状況

	6 月			7 月			8 月		
	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原	都城	えびの	佐土原
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	3
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	3
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	0	0	0	0	1	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	1	0	0	0	0
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	0	0	0	1
13	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	0	0	0	1
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	2
16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半旬計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0			0
22	0	0	0	0	0	0			0
23	0	0	0	0	0	0			0
24	0	0	0	0	0	0			0
25	0	0	0	0	0	0			0
半旬計	0	0	0	0	0	0			0
26	0	0	0	0	0	0			0
27	0	0	0	0	0	0			0
28	0	0	0	0	0	0			2
29	0	0	0	0	0	1			0
30	0	0	0	0	0	0			0
31				0	0	1			2
半旬計	0	0	0	0	0	2			4
月計	0	0	0	0	1	2	0	0	9

7)果樹カメムシ類の誘殺状況(頭/半旬別換算)

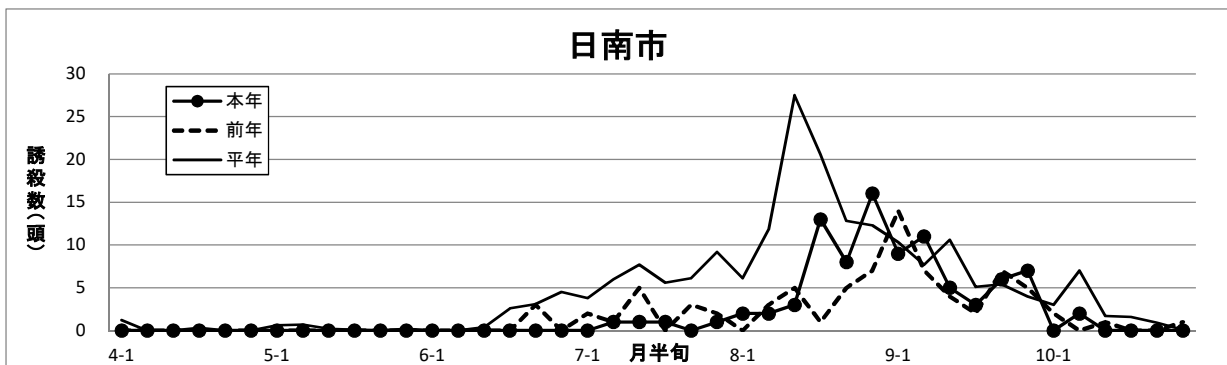
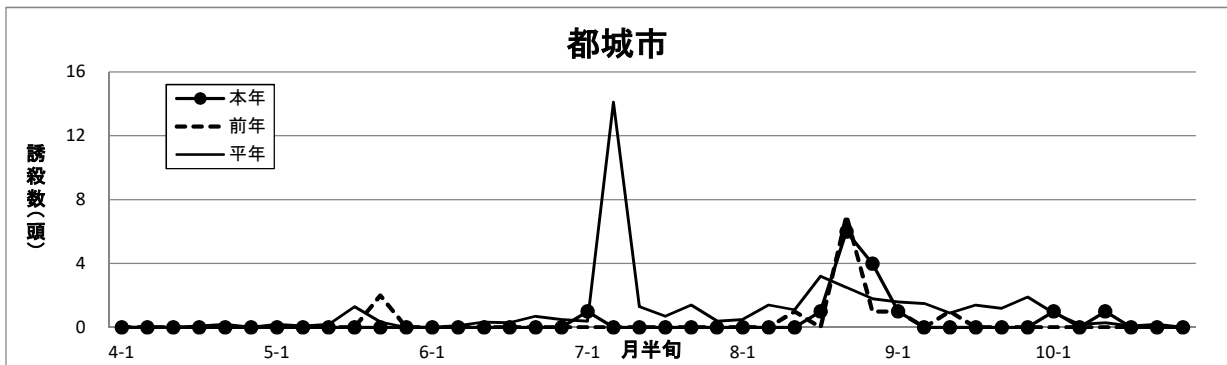
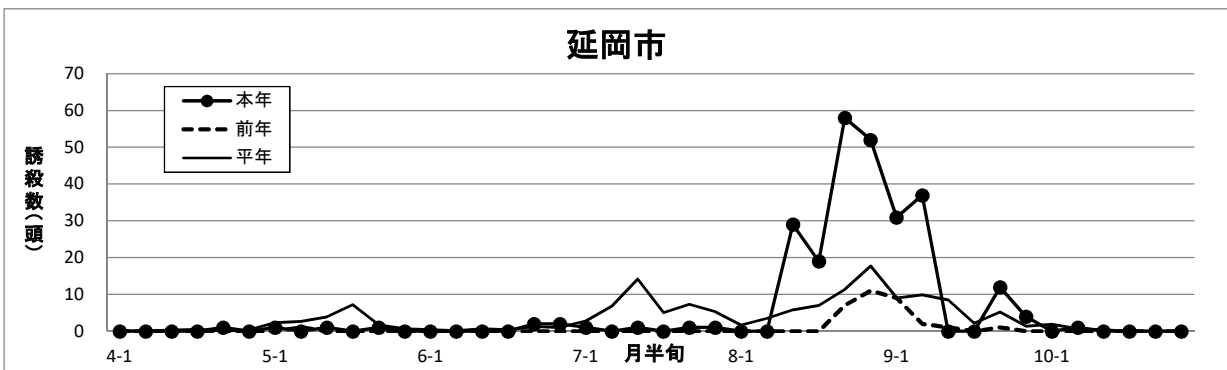
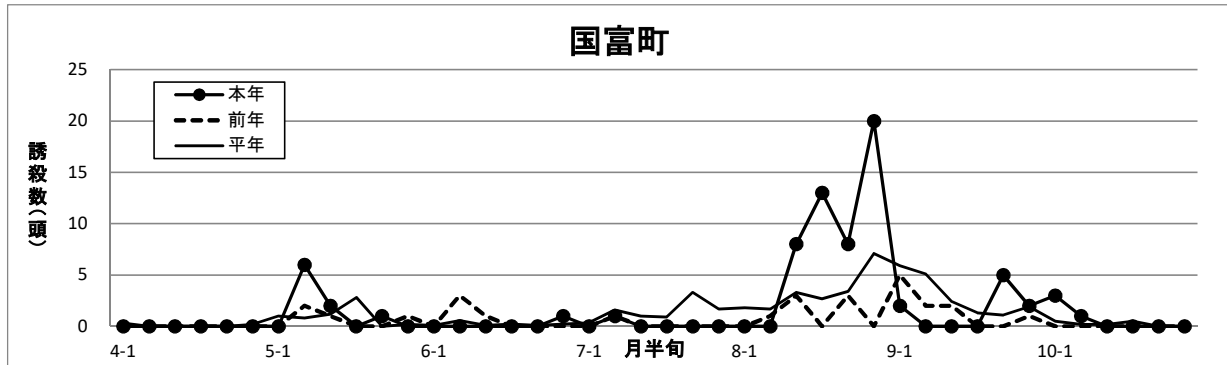
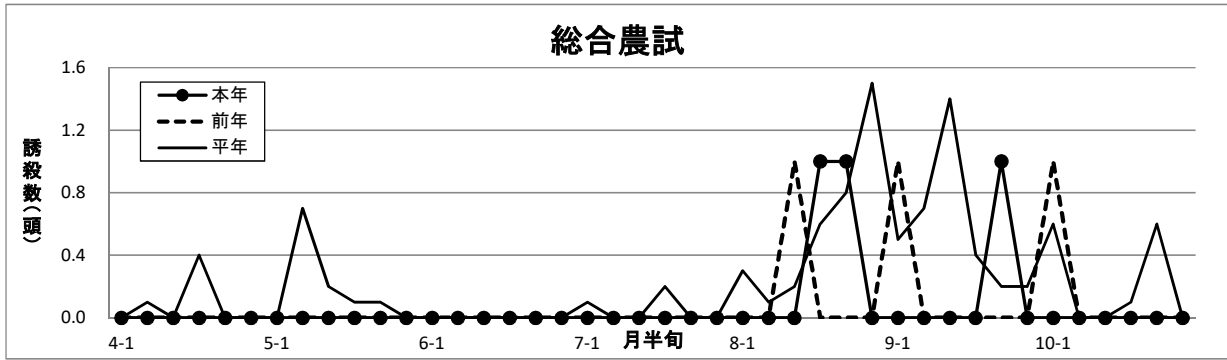
(1)予察灯における誘殺状況

①チャバネアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1
	2	0	0	1	6	2	1	0	1	3	0	0	0	0	0	1
	3	0	0	0	2	1	1	1	0	4	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	3	0	0	7	0	0	1	0	0	0
	5	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	2	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	5	0	0	0	0	—	0	2	0	1	0	0	1	0	3	3
	6	0	0	0	1	—	0	2	0	1	0	0	1	0	0	5
7	1	0	0	0	0	—	0	1	0	3	1	0	0	0	2	4
	2	0	0	0	1	1	2	0	0	7	0	0	14	1	1	6
	3	0	0	0	0	0	1	1	0	14	0	0	1	1	5	8
	4	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	1	1	0	6
	5	0	0	0	0	0	3	1	0	7	0	0	1	0	3	6
	6	0	0	0	0	0	2	1	0	5	0	0	0	1	2	9
8	1	—	0	0	—	0	2	—	0	2	—	0	1	2	0	6
	2	—	0	0	—	1	2	—	0	4	—	0	1	2	3	12
	3	0	1	0	8	3	3	29	0	6	0	1	1	3	5	28
	4	1	0	1	13	0	3	19	0	7	1	0	3	13	1	21
	5	1	0	1	8	3	3	58	7	11	6	7	3	8	5	13
	6	0	0	2	20	0	7	52	11	18	4	1	2	16	7	12
9	1	0	1	1	2	5	6	31	9	9	1	1	2	9	14	10
	2	0	0	1	0	2	5	37	2	10	0	0	2	11	7	8
	3	0	0	1	—	2	2	—	1	9	—	1	1	5	4	11
	4	0	0	0	—	0	1	—	0	2	—	0	1	3	2	5
	5	1	0	0	5	0	1	12	1	5	0	0	1	6	7	5
	6	0	0	0	2	1	2	4	0	1	0	0	2	7	5	4
10	1	0	1	1	3	0	1	0	0	2	1	0	1	0	2	3
	2	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	7
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2
	4	0	0	0	0	0	1	—	0	0	—	0	0	0	0	2
	5	0	0	1	0	0	0	—	0	0	—	0	0	0	0	1
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計		3	3	10	73	26	56	255	32	152	15	13	43	91	80	201

※「—」は欠測

平成29年度予察灯における誘殺数(チャバネアオカメムシ)

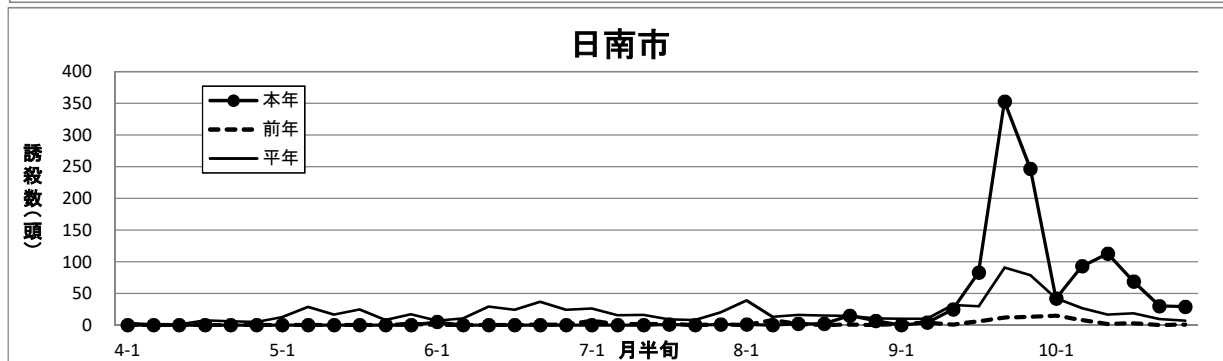
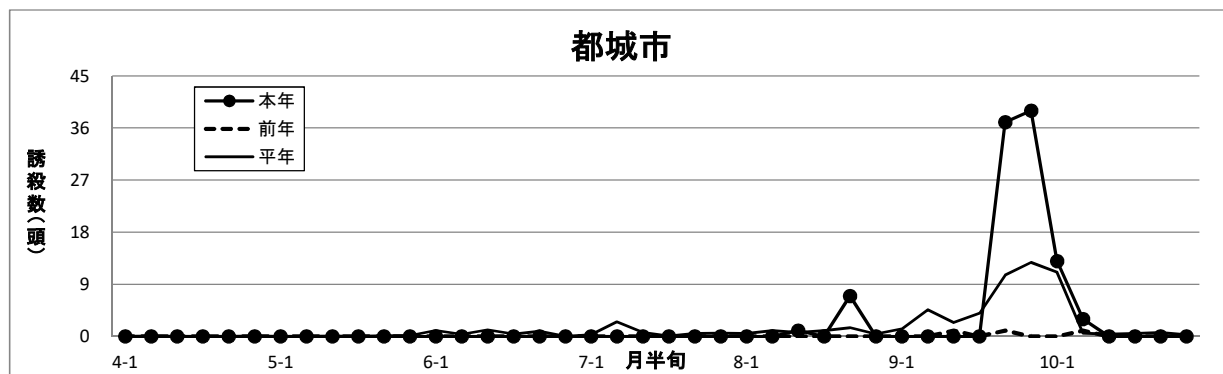
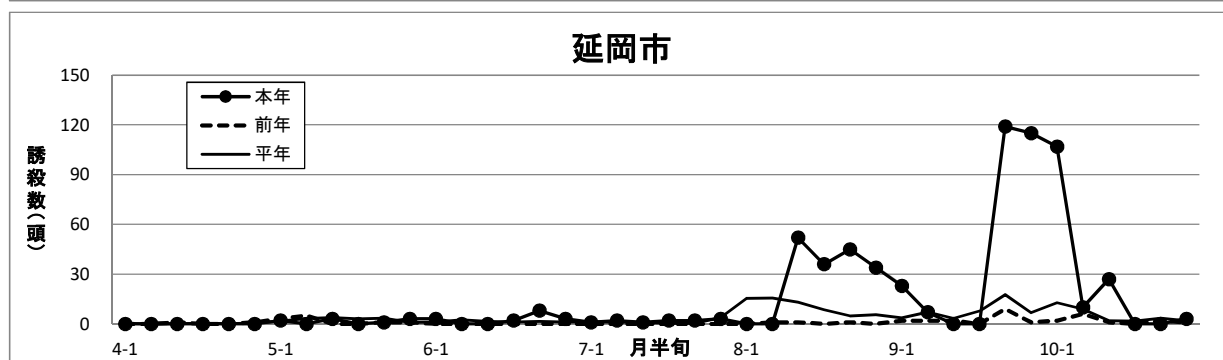
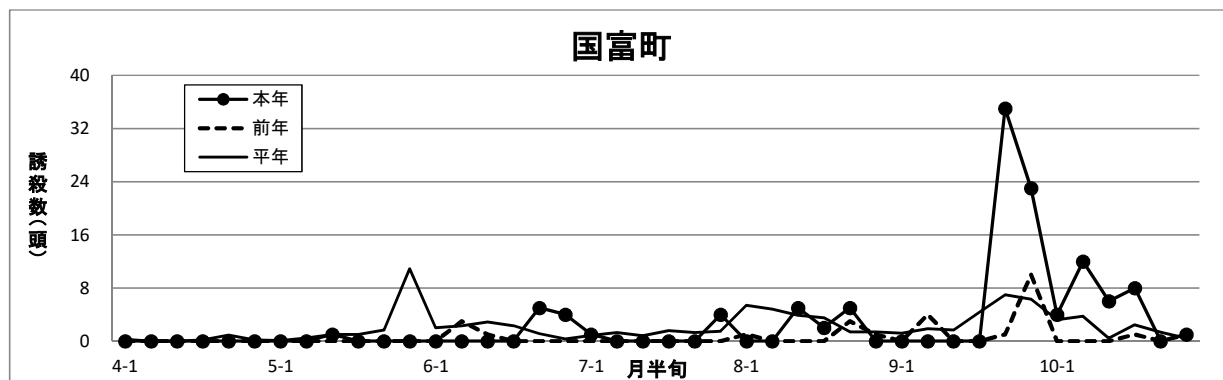
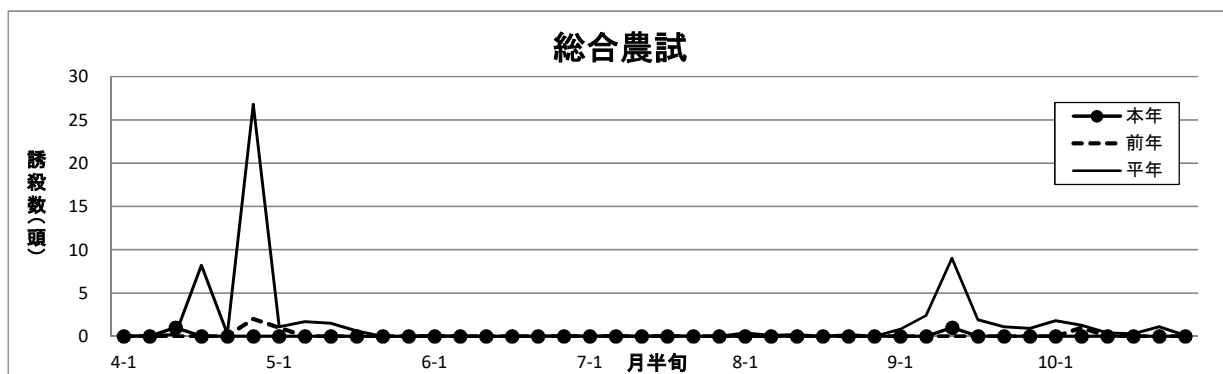


②ツヤアオカメムシの誘殺状況

月	半旬	総合農試			国富			延岡			都城			日南		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	4	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	6	0	2	27	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
5	1	0	1	1	0	0	0	2	3	2	0	0	0	0	0	13
	2	0	0	2	0	0	1	0	5	3	0	0	0	0	0	29
	3	0	0	2	1	0	1	3	0	4	0	0	0	0	0	17
	4	0	0	1	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	25
	5	0	0	0	0	0	2	1	1	4	0	0	0	0	0	8
	6	0	0	0	0	0	11	3	1	1	0	0	0	0	2	17
6	1	0	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0	1	5	0	7
	2	0	0	0	0	3	2	0	0	3	0	0	0	0	0	11
	3	0	0	0	0	1	3	0	0	2	0	0	1	0	0	29
	4	0	0	0	0	—	2	2	0	1	0	0	0	0	0	24
	5	0	0	0	5	—	1	8	0	2	0	0	1	0	1	37
	6	0	0	0	4	—	0	3	0	1	0	0	0	0	1	24
7	1	0	0	0	1	—	1	1	0	1	0	0	0	0	7	26
	2	0	0	0	0	0	1	2	0	1	0	0	3	0	1	16
	3	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	2	16
	4	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	1	2	9
	5	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	8
	6	0	0	0	4	0	2	3	0	4	0	0	1	1	1	20
8	1	—	0	0	—	1	5	—	0	16	—	0	1	1	0	39
	2	—	0	0	—	0	5	—	1	16	—	0	1	0	8	13
	3	0	0	0	5	0	4	52	1	13	1	0	1	2	2	16
	4	0	0	0	2	0	4	36	0	8	0	0	1	2	0	15
	5	0	0	0	5	3	1	45	1	5	7	0	2	15	1	15
	6	0	0	0	0	1	1	34	0	6	0	0	0	7	0	11
9	1	0	0	1	0	0	1	23	2	4	0	0	1	0	2	10
	2	0	0	2	0	4	2	7	2	7	0	0	5	4	4	10
	3	1	0	9	—	0	2	—	2	3	—	1	2	25	1	32
	4	0	0	2	—	0	4	—	0	8	—	0	4	83	6	30
	5	0	0	1	35	1	7	119	9	18	37	1	11	353	12	91
	6	0	0	1	23	10	6	115	1	7	39	—	13	247	13	79
10	1	0	0	2	4	0	3	107	2	13	13	0	11	42	15	42
	2	0	1	1	12	0	4	10	6	9	3	1	1	93	8	27
	3	0	0	0	6	0	0	27	1	2	0	0	0	113	2	17
	4	0	0	0	8	1	2	—	0	2	—	0	1	69	3	18
	5	0	0	1	0	0	1	—	2	3	—	0	1	30	0	9
	6	0	0	0	1	1	0	3	1	2	0	0	0	29	1	7
合計		2	4	63	116	26	90	614	43	175	100	3	63	1122	95	836

※「—」は欠測

平成29年度予察灯における誘殺数(ツヤアオカメムシ)



(2) 合成集合フェロモンによる誘殺状況

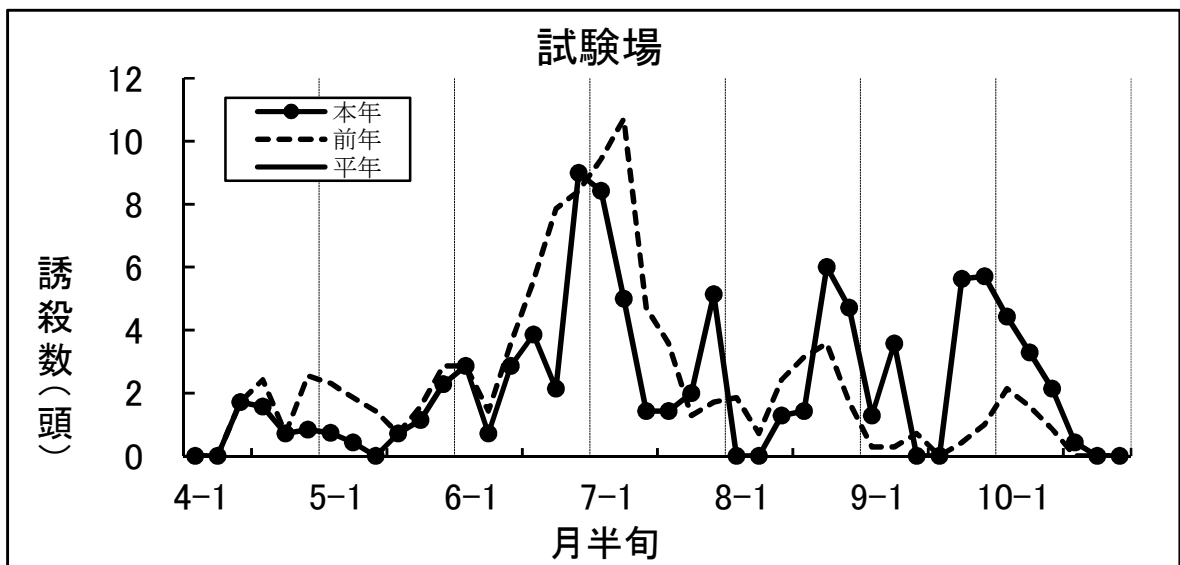
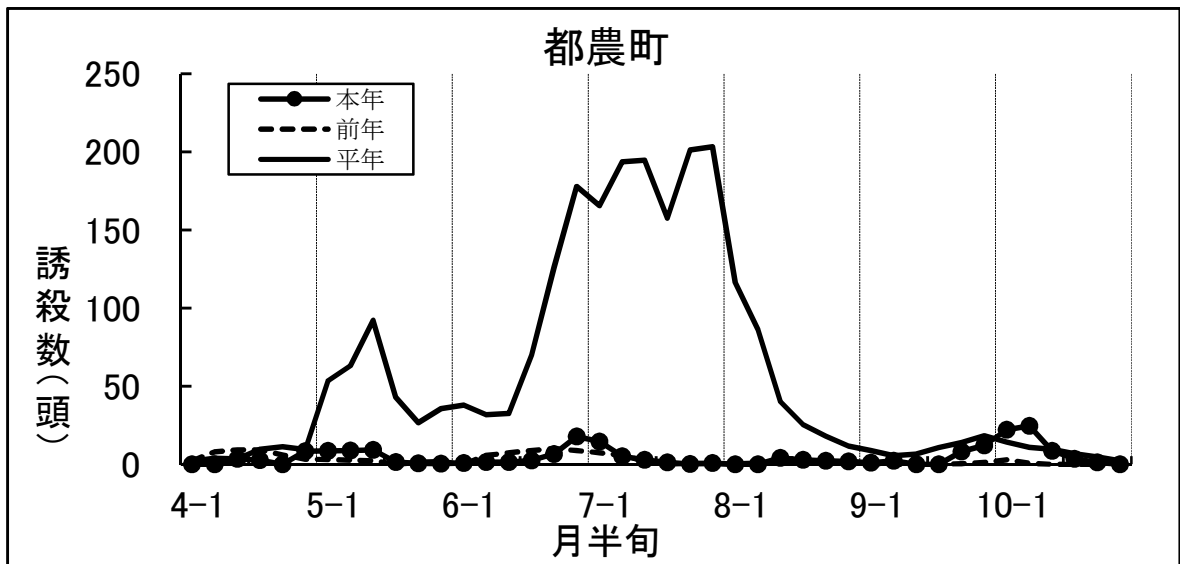
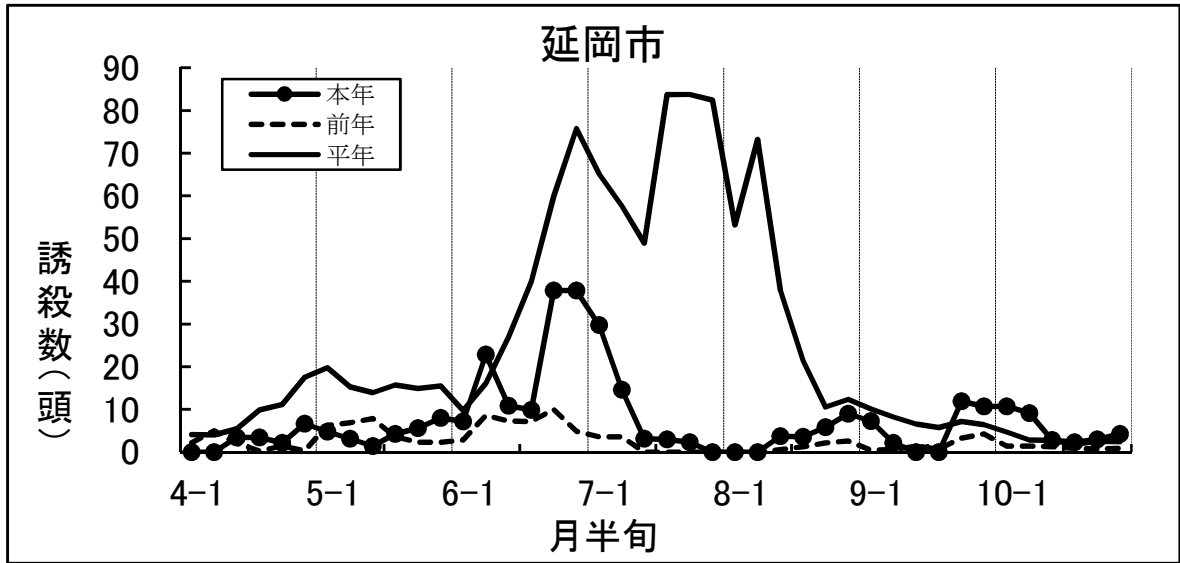
① チャバネアオカメムシ

※試験場はH28から開始

月	半旬	延 岡			都 農			試験場		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	2	4	0	2	2	0	0	
	2	0	5	4	0	8	4	0	0	
	3	3	2	5	3	9	3	2	2	
	4	3	0	10	3	9	10	2	2	
	5	2	1	11	0	6	11	1	1	
	6	7	0	18	8	3	9	1	3	
5	1	5	6	20	9	3	53	1	2	
	2	3	7	15	9	3	63	0	2	
	3	1	8	14	9	2	92	0	1	
	4	4	4	16	1	0	43	1	1	
	5	6	2	15	1	1	27	1	2	
	6	8	2	15	0	2	36	2	3	
6	1	7	3	10	1	0	38	3	3	
	2	23	9	16	1	6	32	1	1	
	3	11	7	27	1	7	33	3	4	
	4	10	7	40	2	9	70	4	6	
	5	38	10	60	6	10	126	2	8	
	6	38	5	76	18	9	178	9	8	
7	1	30	4	65	14	7	166	8	9	
	2	15	4	58	5	6	194	5	11	
	3	3	0	49	3	2	195	1	5	
	4	3	0	84	1	0	158	1	4	
	5	2	0	84	0	1	201	2	1	
	6	0	0	82	1	0	203	5	2	
8	1	—	0	53	—	0	116	—	2	
	2	—	0	73	—	1	86	—	1	
	3	4	1	38	4	1	40	1	2	
	4	4	1	21	3	1	25	1	3	
	5	6	2	11	2	1	18	6	4	
	6	9	3	12	2	2	12	5	2	
9	1	7	0	10	1	0	9	1	0	
	2	2	1	8	2	0	6	4	0	
	3	—	1	7	—	0	6	—	1	
	4	—	1	6	—	0	11	—	0	
	5	12	3	7	8	0	14	6	0	
	6	11	4	6	12	1	18	6	1	
10	1	11	1	5	22	3	14	4	2	
	2	9	1	3	25	1	11	3	2	
	3	3	1	3	9	0	10	2	1	
	4	2	1	2	3	0	7	0	0	
	5	3	1	3	1	0	5	0	0	
	6	4	1	2	0	2	2	0	0	
計		308	112	1,067	192	117	2,354	95	100	

※「—」は欠測

平成29年度フェロモントラップ誘殺数（チャバネアオカメムシ）



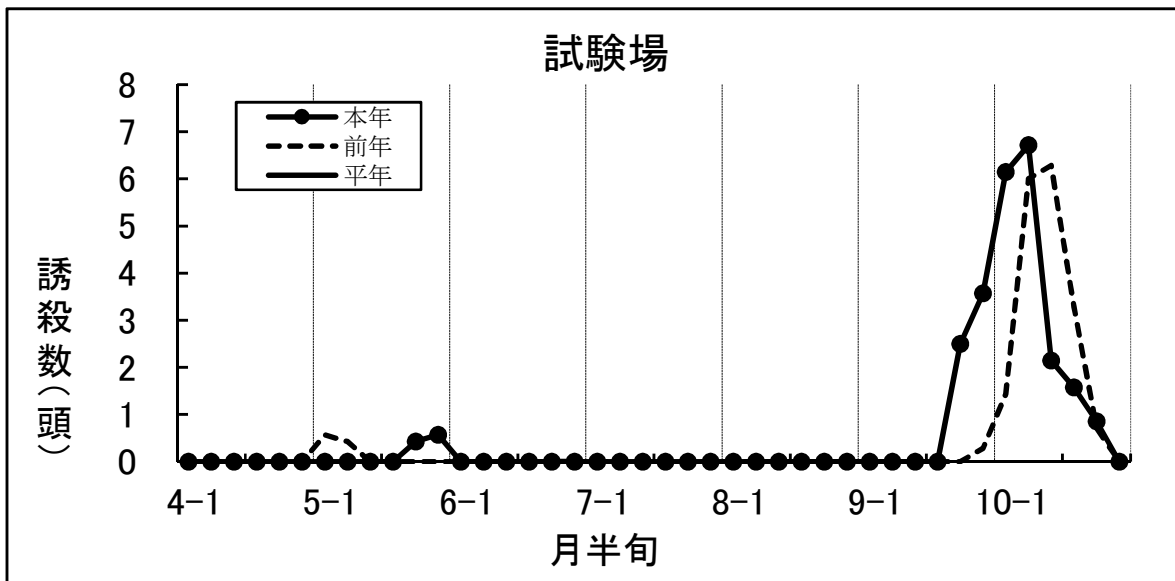
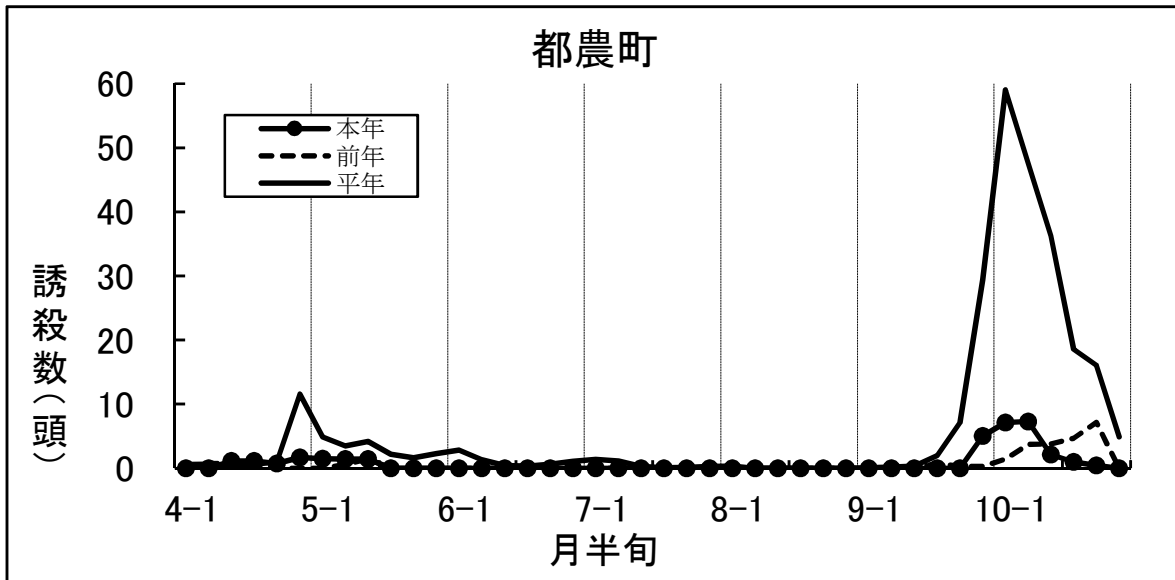
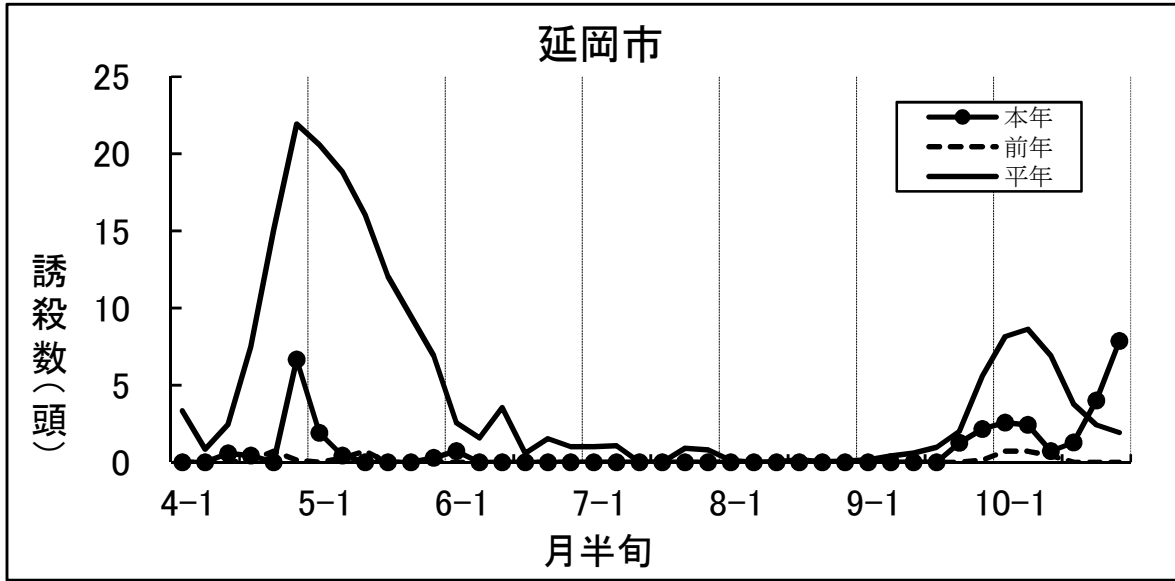
② ツヤアオカメムシ

※試験場はH28から開始

月	半旬	延 岡			都 農			試験場		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
4	1	0	0	3	0	0	1	0	0	
	2	0	0	1	0	1	1	0	0	
	3	1	0	2	1	1	0	0	0	
	4	0	0	7	1	1	1	0	0	
	5	0	1	15	1	0	1	0	0	
	6	7	0	22	2	0	12	0	0	
5	1	2	0	21	1	0	5	0	1	
	2	0	0	19	1	1	3	0	0	
	3	0	1	16	1	1	4	0	0	
	4	0	0	12	0	0	2	0	0	
	5	0	0	9	0	0	2	0	0	
	6	0	0	7	0	0	2	1	0	
6	1	1	0	3	0	0	3	0	0	
	2	0	0	2	0	0	1	0	0	
	3	0	0	4	0	0	0	0	0	
	4	0	0	1	0	0	0	0	0	
	5	0	0	2	0	0	1	0	0	
	6	0	0	1	0	0	1	0	0	
7	1	0	0	1	0	0	1	0	0	
	2	0	0	1	0	0	1	0	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	1	0	0	0	0	0	
	6	0	0	1	0	0	0	0	0	
8	1	—	0	0	—	0	0	—	0	
	2	—	0	0	—	0	0	—	0	
	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	—	0	1	—	0	0	—	0	
	4	—	0	1	—	1	2	—	0	
	5	1	0	2	0	0	7	3	0	
	6	2	0	6	5	0	29	4	0	
10	1	3	1	8	7	1	59	6	1	
	2	2	1	9	7	4	48	7	6	
	3	1	0	7	2	4	36	2	6	
	4	1	0	4	1	5	19	2	3	
	5	4	0	2	0	7	16	1	1	
	6	8	0	2	0	0	5	0	0	
計		33	4	191	32	26	265	25	19	

※「—」は欠測

平成29年度フェロモントラップ誘殺数 (ツヤアオカメムシ)



7) 農作物有害動植物の発生及び防除状況

(1) 発生経過、発生原因及び防除の概要

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
早期水稲	葉いもち	平年: やや早い 前年: 並	平年: 並 前年: 少	627	初確認は5月17日(平年:5月21日、前年5月19日)。6月中旬の発生面積率、発病度、発病株率のいずれも平年に比べてやや少ない発生であった。6月下旬から7月中旬では、発生面積率、発病度、発病株率のいずれも平年並みの発生であった。	移植後、好天に恵まれ、イネの生育は順調に推移した。6月下旬に日照不足や多雨による感染に好適な条件が続いたが、その後は晴れの日が多かった。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 遅い	平年: やや少 前年: 少	627	7月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(発病度)はやや少ない発生であった。		穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: やや遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: 並	1,040	7月中旬の発生面積率、発生程度(発病度)は、平年に比べやや少の発生であった。	本年は高温であったが、少雨傾向により、少発生で推移した。	穂揃い期に防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	5,206	4月中旬の巡回調査では、発生未確認であったが、5月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並であった。	—	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや多	608	4月中旬の発生面積率は平年よりやや少なく、発生量は平年並みの発生であった。5月中旬の発生面積率、発生程度のいずれも平年並の発生であった。	—	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 多 前年: 多	4,380	6月下旬の本田調査では、発生面積率、発生程度(20回振すくい取り虫数)のいずれも多の発生であった。7月中旬の本田調査においても、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べて多発生であった。	作期の異なる稲が混在、また、高温少雨より多発生で推移した。	穂揃い期とその7~10日後の2回防除を徹底。 防除情報第2号(H29.6.19)発表。 注意報第3号(H29.7.3)発表。
普通期水稲	葉いもち	平年: 並 前年: 遅い	平年: やや少 前年: やや少	3,613	本田での発生は6月下旬から確認された。発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べ並からやや少ない発生で推移した。	8月の高温少雨により発生が抑制された。	育苗箱施薬、初発前の粒剤散布及び初発時の粉剤・液剤散布。
	穂いもち	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 少	7,676	9月中旬の発生面積率は平年並、発生程度(発病穂率)は平年よりやや少の発生であった。		穂ばらみ期と穂揃い期に防除。
	紋枯病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: 多	4,574	7月下旬から確認され、8月中旬の発生面積率と発生程度はいずれも平年並の発生であった。9月中旬の発生面積率はやや多、発生程度は平年並の発生であった。	気温は平年並~やや高めで推移したが、適期防除が行われた。	穂ばらみ期の防除。
	もみ枯細菌病	平年: 遅い 前年: 遅い	平年: やや少 前年: やや少	0	発生未確認であった。	—	—
	内穎褐変病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	2,649	9月中旬の発生面積率は平年より少、発生程度(病穂率)は平年に比べやや少の発生であった。	—	—

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	セジロウンカ	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: 少 前年: 少	6.259	予察灯初飛来は7月19日(平年5月30日、前年5月30日)であった。本田では7月中旬の巡回調査から確認され、8月中旬の発生面積率、発生程度(20回振すくい取り虫数)のいずれも平年より少ない発生であった。	誘殺頭数は非常に少なく推移し、県内の広い範囲で断続的な飛来が見られたのは8月に入ってからであった。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。
	トビイロウンカ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	9.322	予察灯初飛来は、6月21日(平年6月26日、前年6月16日)で平年より早かった。本田では、7月下旬から発生が確認され、9月中旬の発生面積率と発生程度(株当たり虫数)は平年並の発生であった。	飛来量が少なかったことや、8月の好天により計画通り防除が行われた。	育苗箱施薬。飛来虫と次世代幼虫の防除。出穂期のウンカ類防除。防除情報第6号(H29.8.6)発表。防除情報第7号(H29.9.4)発表。
	ヒメビロウンカ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	9.870	7月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年比やや少の発生であった。8月中旬の発生面積率は平年比やや多、発生程度は平年並であった。9月中旬の発生面積率は平年比多、発生程度は平年並であった。	越冬量調査は行っていないが、高温少雨傾向であったため、発生量がやや多めに推移した。	育苗箱施薬。出穂期のウンカ類防除。
	ツマグロヨコバイ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	7.462	8月中旬の発生面積率はやや多、発生程度(20回振すくい取り虫数)は平年並であった。9月中旬の発生面積率、発生程度はいずれも平年比やや少の発生であった。	—	育苗箱施薬。
	コブノメイガ	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	494	フェロモントラップでの初飛来は、7月1日(前年6月11日)で遅かった。7月下旬の巡回調査では、発生面積率、発生程度(被害葉率)のいずれもは平年に比べ少発生であった。	飛来量が少なかった。7月下旬まで散発的な飛来しかなく、主要な飛来が見られたのは8月に入ってからであった。	育苗箱施薬。発蛾最盛期の粒剤防除及びウンカ類との同時防除の粉剤・液剤防除。
	イネミズゾウムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	1.135	6月中旬の発生面積率及び発生程度(被害度)は平年並の発生であった。	—	育苗箱施薬、粒剤の水面施用。
	スクミリンゴガイ	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	760	6月中旬の発生面積率及び発生程度(m ² 当貝数)は平年より少ない発生であった。	—	粒剤の水面施用。貝の採取・冬季の耕起
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: やや多	5.055	8月中旬の巡回調査では、発生面積率と発生程度(20回振すくい取り虫数)はいずれも平年より多の発生であった。9月下旬の巡回調査では、発生面積率は平年より少、発生程度は平年並みであった。	高温少雨により発生量は多めに推移した。出穂期、穂ぞろい期防除の徹底。	穂揃い期とその7~10日後の防除。注意報第4号(H29.8.21)発表
大豆	べと病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: 少	33	9月中旬の巡回調査における発生面積率、発生程度(発病度)は平年に比べ少の発生であった。	—	種子消毒の徹底。
	葉焼病	平年: — 前年: —	平年: 並 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。		
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	233	8月中旬の発生面積率は平年比多、9月中旬の巡回調査における発生面積率は平年並であった。	高温少雨により発生が助長された。	若齢期の防除。
	カメムシ類	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	33	9月中旬の巡回調査における発生面積率はやや多、発生程度(25株虫数)は平年並の発生であった。	—	さやの肥大期の防除。

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
かんしょ	イモキバガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	1,846	8月中旬の巡回調査における発生面積率及び発生程度(被害葉率)は平年比やや少であった。9月中旬の巡回調査においては、発生面積率と発生程度はいずれも平年に比べやや多の発生であった。	-	被害初期の防除。
	ナカジソシタハ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	3,076	8月中旬の発生面積率、発生程度(被害葉率)は平年並の発生であった。その後、9月中旬の発生面積率及び発生程度は平年よりやや少の発生であった。	-	つる先の1~3葉に食害痕が見られる被害初期の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	3,076	8月中旬の発生面積率、発生程度(被害葉率)は平年並の発生であった。その後、9月中旬の発生面積率及び発生程度は平年よりやや少の発生であった。	-	他の害虫との同時防除。
ジャガイモ	疫病	平年:遅い 前年:遅い	平年:少 前年:少	0	5月中旬に微発生のほ場を確認された。発生面積、発生程度(発病度)はいずれも平年に比べて少発生であった。	-	種芋の更新。初発前の予防防除。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:多 前年:多	449	5月中旬の発生面積率は平年より多、発生程度(寄生度)はやや多の発生であった。	初期防除の不徹底。	初発時の防除。
	ニジュウヤホシテントウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:やや少	100	5月中旬の発生面積、発生程度(株虫数)はいずれも平年並の発生であった。	-	幼虫分散前の防除。
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:やや多	299	5月中旬の発生面積、発生程度(被害株率)はいずれも平年よりやや多の発生であった。	-	若齢期の防除。
かんきつ	そうか病	平年:やや早い 前年:やや早い	平年:並 前年:-	0	葉は平年並、果実はやや少の発生であった。初発は、葉が4月21日(平年比-12日)、果実が5月22日(平年比-22日)であった。	適期防除と病葉除去の不徹底	春梢発芽期、落弁期、幼果期の農業防除。
	黒点病	平年:やや早い 前年:並	平年:やや少 前年:-	652	小雨と防除の徹底で、やや少の発生となった。	適期防除の不徹底 枯れ枝等の放置	落花期以降の定期的な防除。 枯れ枝の除去。剪定くずの適切な処理。
	かいよう病	平年:並 前年:やや早い	平年:並 前年:-	362	6月中旬の発生面積率は平年に比べやや多の発生であったが、7月中旬は平年並に落ち着き、果実調査では平年並の発生で推移した。初発は、葉で5月15日(平年比+2日)、果実で5月22日(平年比-8)であった。	新梢の剪定が不徹底の園地で発生が多かった。ハモグリガは平年並の発生であった。	発芽直前、開花直前、落花期の防除。 強風対策として防風垣、防風ネットを設置する。 防除情報第4号(H29.6.21)発表。
	ミカンハダニ	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	941	6月中旬の発生面積率、発生程度は、ともに多発生であったが、その後は平年並の発生に落ち着いた。	適期防除の不徹底 夏期マシン油の散布不徹底	発生初期の防除徹底。 同一系統薬剤の連用を避ける。 冬季、夏期にマシン油乳剤を利用する。 注意報第2号(H29.6.26)発表。
	チャノキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	72	7月中旬に一部のほ場で発生が確認されたが、その後は発生を認めず、年間を通して平年並で推移した。	適期防除の不徹底	落花期から9月までの防除。
	ミカンハモグリガ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:-	217	新梢発生が長引いた園地での発生は確認されたが、年間を通して平年並の発生であった。	新梢発生が長引いた。	新梢をだらだらと発生させないような肥培管理。
	アブラムシ類	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:-	290	5月、6月はやや多の発生であったが、7月は平年に比べてやや少の発生であった。	梅雨時期の少雨で発生がやや多かった。	防除の徹底

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	カメムシ類	平年: やや遅い 前年: やや遅い	平年: やや多 前年: -	585	予察灯調査では、チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシとも5月中旬から誘殺され始めた。7月下旬までの誘殺数は平年よりやや少〜少であったが、8月6日と9月17日の台風通過後に急増した。 果樹園への飛来が確認されている地域もあり、一部のほ場では果実への被害も確認された。	6月からの高温少雨で生育の進みが早かった。	飛来を確認したら直ちに防除を行う。 注意報第6号(H29.9.29)発表。 防除情報第8号(H29.9.8)発表。
茶	炭疽病	平年: 並 前年: 並	平年: 少 前年: -	501	期間を通して、発生量は少〜並で推移した。	少雨で病気の発生が少なかった。 適期防除の不徹底	二番茶・秋芽生育期の防除
	もち病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	84	期間を通して、発生量は並で推移した。	少雨で病気の発生が少なかった。	二番茶・秋芽の萌芽期から二・三葉期に、炭疽病との同時防除
	輪斑病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	251	発生量は概ね平年並で推移した。	少雨で病気の発生が少なかった。	摘採直後の防除 摘採機の洗浄
	チャノコカクモンハマキ	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: -	167	9月中旬の巡回調査で発生が確認され、やや多の発生となった。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャハマキとの同時防除
	チャハマキ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: -	0	巡回調査では発生未確認で、平年に比べてやや少の発生となった。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	チャノコカクモンハマキとの同時防除
	チャノホソガ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: -	328	期間を通して、少〜やや少で推移した。	発生ピークのズレや摘採時期との関係で適期防除出来なかった園では発生量が増加した。	三角葉巻前の防除
	カンザワハダニ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	874	越冬ダニは平年並の発生であった。 5月と9月はやや多〜多の発生であったが、期間を通しては概ね並の推移であった。	6月からの高温少雨により発生が助長されたが、適期防除により、期間を通しては概ね平年並の発生に抑えられた。	適期防除 注意報第5号(H29.9.27)発表。
	チャノミドリヒメコバイ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: -	668	年間を通してやや少〜並の発生となった。	初期防除、適期防除の不徹底	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	チャノキイロアザミウマ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: -	835	概ね平年並の発生で推移した。	適期防除により発生が抑えられた。	二番茶・三番茶開花期と秋芽の防除。 チャノキイロアザミウマとの同時防除。
	クワシロイカラムシ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: -	501	一部園地で発生が増加した時期もあったが、全体的にやや少ない発生で推移した。	適期防除により発生が抑えられた。	孵化最盛期に合わせた防除の徹底
平成29年産 冬春キュウリ H28.9.~29.6. (栽培期間)	べと病	平年: 並 前年: 並	平年: やや多 前年: 並	147	発生面積率は期間を通して平年並みであったが、発病葉率については、年明け以降は増加傾向で、急激に発病が拡大したハウスも見られた。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除
	灰色かび病	平年: 遅い 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
	うどんこ病	平年:遅い 前年:早い	平年:並 前年:やや少	91	栽培当初は平年並みであったが、その後は発生面積は減少した。しかしながら、2月以降は発生面積が急増した。	肥培管理及び湿度管理の不徹底 発生初期防除の不徹底 草勢管理	薬剤による防除
	褐斑病	平年:並 前年:早い	平年:並 前年:やや多	36	栽培期間を通して平年並～やや少の発生であった。	湿度管理の不徹底 窒素肥料の多用 発生初期の防除が不徹底	初期防除の徹底 薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:やや少 前年:やや少	111	黄化えそ病等ウイルス病の媒介虫対策として、定植時の粒剤施用等が徹底されてきたことから、栽培期間を通してやや少ない発生で推移した。MYSVの発生も平年並みであった。	定植時～定植初期の薬剤防除の不徹底 薬剤感受性の低下	定植時の粒剤施用 薬剤のローテーション散布 防虫ネットの設置
	ハスモンヨトウ	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	14	地域によっては9月～10月のフェロモントラップによる誘殺数が多く、施設栽培においても、栽培初期(10月～11月)は、ハスモンヨトウによる被害が見られた。その後は、大きな被害は見られなかった。	施設開放時の侵入防止対策等の不備	防虫ネットの設置 若齢期防除の実施
平成29年産 冬春ピーマン H28.9～29.6 (栽培期間)	モザイク病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	早期抜根等の実施	土壌消毒の実施 抵抗性品種の導入 媒介昆虫の防除
	斑点病	平年:並 前年:並	平年:やや多 前年:多	71	11月中旬～1月中旬にかけて多発。調査終了時(4月)まで、発生面積率、発病率ともに高い値で推移した。	11月中旬～1月中旬は平年より気温が高めに推移し、降水量も多かたことから、発病に好適な環境となった施設内湿度管理の不徹底 発生初期の防除の不徹底	薬剤による防除 施設内湿度の適正管理 罹病葉の持ち出し
	うどんこ病	平年:並 前年:並	平年:少 前年:やや少	36	栽培期間を通して、平年よりも少～やや少で推移した。	初期防除の不徹底 窒素肥料の多用	薬剤による防除
	灰色かび病	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底 罹病果の早期除去	薬剤による防除
	ミナミキイロアザミウマ	平年:並 前年:並	平年:少 前年:やや少	40	栽培期間を通して、平年よりも少～やや少の発生であった。	効果の高い化学薬剤の散布 天敵利用	防虫ネットの設置 薬剤による防除 生物農薬等の活用
平成29年産 冬春トマト H28.9～29.6 (栽培期間)	灰色かび病	平年:やや早い 前年:早い	平年:やや少 前年:やや少	18	株における調査では、12月以降発生面積がやや増加したが、期間を通して少ない発生だった。果実についても、年明けの3月にわずかに発生がみられたが、栽培期間を通して平年よりも少ない発生であった。	施設内管理の徹底 草勢管理の徹底	薬剤による防除
	葉かび病	平年:並 前年:並	平年:多 前年:多	32	12月～4月まで、平年と比較して多発生で推移した。	発生初期の対応の遅れや、作業遅れによる栽培環境の悪化。 11月中旬～1月中旬は平年より気温が高めに推移し、降水量も多かたことから、発病に好適な環境となった。	薬剤による防除 抵抗性品種の導入 罹病葉の持ち出し
	黄化葉巻病	平年:やや遅 前年:やや遅	平年:やや少 前年:並	2	定植後に発病株が散見されていたが、早期抜根処理を行っているため、その後の発生はみられなかった。	初期の発生については、育苗～定植初期におけるタバココナジラミの防除が不徹底であった。	媒介昆虫の防除 罹病株の除去及び適正処分
	コナジラミ類	平年:並 前年:並	平年:並 前年:並	70	10月～3月にかけては、平年並で推移していたが、春先4月はやや虫数が増加した。	育苗～定植初期における防除が不徹底。目の細かい防虫ネットの設置が行われていないほ場については、野外からの侵入があった。	防虫ネットの設置 薬剤による防除 薬剤のローテーション散布
	ハモグリバエ類	平年:遅 前年:遅	平年:少 前年:やや少	0	栽培期間を通して、少ない発生であった。	効果の高い化学薬剤の散布	初期防除の徹底 薬剤による防除

農作物名	病害虫名	発生時期	発生量	発生面積 (ha)	発生経過の概要	発生要因の解析	防除の概要
平成29年産 いちご H28.9～29.5 (栽培期間)	うどんこ病	平年: やや遅 前年: やや遅	平年: 少 前年: 少	12	感染株の本ほへの持ち込みが少なく、その後の発生も少なかった。	夏季の高温による越夏量の減少 親株床での防除の不徹底 初期防除の不徹底	薬剤による防除 初期防除の徹底 古葉、罹病葉の持ち出し
	灰色かび病	平年: やや遅 前年: やや遅	平年: やや少 前年: 並	1	年明け2月以降、発生が見られた。	初期防除の徹底 罹病残渣の早期除去	薬剤による防除 罹病果の持ち出し
	炭疽病	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	3	定植直後は、発生ほ場が散見されたが、その後は発生が少なく、期間を通して平年並みで推移した。	親株の計画的な更新ができていない 育苗期間の防除が不徹底、健全株の選抜の不備	健全苗の選抜の徹底 罹病株及び周辺株の除去
	ハダニ類	平年: 早い 前年: 早い	平年: 並 前年: やや少	35	定植直後は、発生面積率・発病株率ともに平年より少なく、12月まで少ないまま推移した。1月以降は平年並みの発生であったが、2月～3月にかけて、急激に増加した。	2月～3月の収穫最盛期時の防除が不徹底 効果の高い薬剤が少ない	薬剤による防除 早期発見によるスポット防除
	ハスモンヨトウ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 並	3	栽培当初は被害株が多く見られたが、年明け以降は発生も見られなくなった。	侵入防止対策の不備	薬剤による防除 防虫ネットの設置
平成29年産 秋冬ダイコン H28.9.～ 28.12. (栽培期間)	萎黄病	平年: 遅い 前年: 並	平年: 並 前年: 並	0	栽培期間を通して発生は見られなかった。	初期防除の徹底	高温期の播種を避ける 連作を避ける
	軟腐病	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: やや多	127	初期に発生が見られた。	初期防除の不徹底 発病株の放置	排水を良くする
	コナガ	平年: 並 前年: 並	平年: やや少 前年: 少	255	11月以降、県内各地で発生が見られた。	初期防除の不徹底 薬剤感受性の低下	薬剤による防除
	ダイコンサルハムシ	平年: 並 前年: 並	平年: 並 前年: 並	892	10月の調査開始時点から発生が散見されたが、全体としては平年並みであった。	初期防除の不徹底	薬剤による防除

(2) 発生面積及び防除面積等

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平成発生 面積(ha)	備考		
			甚	多	中	少		実	延					
早期水稲	6,460	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	6,395	(同)	6,395	0	0	
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	5,943	(同)	5,943	0	0	
		葉いもち	0	0	0	627	627	(同)	5,943	(同)	5,943	0	2,635	
		穂いもち	0	0	0	627	627	(同)	5,943	(同)	5,943	0	1,911	
		紋枯病	0	0	0	1,040	1,040	(同)	2,907	(同)	2,907	0	2,744	
		白葉枯病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ばか苗病	0	0	0	0	0	0	(同)	5,814	(同)	5,814	0	0
		心枯線虫病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		“(種)	0	0	0	0	0	0	(同)	6,396	(同)	6,396	0	
		ごま葉枯病	0	206	0	1,040	1,246	0	0	0	0	206		
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		縞葉枯病	0	0	0	0	0	0	516	516	0	0		
		萎縮病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		黄萎病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		“(種)	0	0	0	0	0	0	(同)	6,396	(同)	6,396	0	
		内穎褐変病	0	0	0	0	0	0	-	-	0	5,215		
		稲こうじ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		セジロウンカ	0	0	0	206	206	(同)	516	(同)	516	0	5,167	
トビイロウンカ	0	0	0	0	0	(同)	516	(同)	516	0	164			
ヒメトビウンカ	0	207	3,127	2,707	6,041	(同)	516	(同)	516	3,334	5,984			
ツマグロヨコバイ	0	0	0	4,793	4,793	(同)	516	(同)	516	0	4,639			
イネハモク`リハ`エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
		イネヒメハモク ^{リハ} エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,098	(同)	1,098	0	
		イネゾウムシ	0	0	0	0	0	(同)	1,098	(同)	1,098	0	484
		斑点米カメムシ類	207	420	1,460	2,293	4,380	(同)	1,098	(同)	3,876	0	2,088
		イネツトムシ	0	0	0	0	0		0		0	0	
		フタオビコヤガ	0	0	0	208	208		0		0	0	
		イネヨトウ	0	0	0	0	0		0		0	0	0
		アワヨトウ	0	0	0	0	0		0		0	0	0
		コブノメイガ	0	0	0	0	0		0		0	0	1,117
		イネミズゾウムシ	0	0	0	5,206	5,206	(同)	1,098	(同)	1,098	0	5,709
		スクミリンゴガイ	0	0	201	407	608	(同)	516	(同)	516	201	2,538
普通期水稲	9,870	苗立枯病	0	0	0	0	0	(同)	9,771	(同)	9,771	0	0
		苗いもち	0	0	0	0	0	(同)	8,354	(同)	8,354	0	0
		葉いもち	0	0	242	3,371	3,613	(同)	9,080	(同)	18,161	242	6,214
		穂いもち	0	0	548	7,128	7,676	(同)	9,080	(同)	18,161	548	7,416
		紋枯病	0	0	0	4,574	4,574	(同)	6,909	(同)	6,909	0	3,268
		白葉枯病	0	0	0	0	0		0		0	0	0
		ばか苗病	0	0	0	0	0	(同)	8,883	(同)	8,883	0	0
		心枯線虫病	0	0	0	0	0		0		0	0	0
		“(種)	0	0	0	0	0	(同)	8,883	(同)	8,883	0	
		ごま葉枯病	0	1,097	1,097	3,290	5,484	(同)	0	(同)	0	2,194	2,472
		黄化萎縮病	0	0	0	0	0		0		0	0	0
		縞葉枯病	0	0	0	0	0		0		0	0	0
		萎縮病	0	0	0	0	0		0		0	0	0
		黄萎病	0	0	0	0	0		0		0	0	0
もみ枯細菌病	0	0	0	0	0	(同)	0	(同)	0	0	3,214		

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		〃 (種)	0	0	0	0	0	(同) 9,771	(同) 9,771	0		
		内 穎 褐 変 病	0	241	241	2,167	2,649	0	0	0	7,854	
		稲 こ う じ 病	481	0	722	963	2,166	(同) 1,974	(同) 1,974	1,203	1,302	
		ニカメイチュウ第1世代	0	0	0	0	0	(同) 4,836	(同) 4,836	0		
		ニカメイチュウ第2世代	0	0	0	0	0	(同) 0	(同) 0	0		
		セ ジ ロ ウ ン カ	0	0	0	6,259	6,259	(同) 9,771	(同) 19,345	0	9,969	
		ト ビ イ ロ ウ ン カ	0	548	2,742	6,032	9,332	(同) 9,771	(同) 19,345	0	8,127	
		ヒ メ ト ビ ウ ン カ	241	3,852	3,611	2,167	9,870	(同) 9,771	(同) 19,345	7,703	10,276	
		ツ マ グ ロ ヨ コ バ イ	0	0	481	6,981	7,462	(同) 9,771	(同) 19,345	481	7,745	
		イ ネ ハ モ ク ` リ ハ ` エ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イ ネ ヒ メ ハ モ ク ` リ ハ ` エ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		イ ネ ド ロ オ イ ム シ	0	0	0	0	0	(同) 1,678	(同) 1,678	0		
		イ ネ ゾ ウ ム シ	0	0	0	0	0	(同) 1,678	(同) 1,678	0		
		斑点米カメムシ類	481	963	1,926	1,685	5,055	(同) 5,034	(同) 5,922	3,370	4,988	
		イ ネ ツ ト ム シ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		フ タ オ ビ コ ヤ ガ	0	0	0	0	0	0	0	0		
		イ ネ ヨ ト ウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		ア ワ ヨ ト ウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		コ ブ ノ メ イ ガ	0	0	0	494	494	(同) 7,896	(同) 7,896	0	5,285	
		イ ネ ミ ズ ゾ ウ ム シ	0	0	0	1,135	1,135	(同) 1,678	(同) 1,678	0	1,072	
		ス ク ミ リ ン ゴ ガ イ	0	0	0	760	760	(同) 790	(同) 790	0	2,902	
大豆	233	紫 斑 病	0	0	0	0	0	0	0	0	97	
		さ び 病	0	0	0	0	0	0	0	0	26	
		立 枯 性 病 害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		べ と 病	0	0	0	33	33	0	0	0	227	
		葉 焼 病	0	0	0	0	0	0	0	0	23	

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
		アブラムシ病	0	0	0	33	33	(同)	163	(同)	163	0	29
		コガネムシ類	0	0	33	166	199	(同)	163	(同)	163	0	104
		ハスモンヨトウ	67	33	67	66	233	(同)	163	(同)	163	167	305
		ハダニ類	0	0	0	33	33		0		0	0	0
		タリス [*] サヤタマハ [*] エ	0	0	0	0	0		0		0	0	
		マメヒメサヤムシカ [*]	0	0	0	0	0		0		0	0	
		マメシクイガ	0	0	0	0	0		0		0	0	38
		シロイチモシ [*] マダ [*] ラメイカ [*]	0	0	0	0	0		0		0	0	25
		カメムシ類	0	0	0	117	117	(同)	163	(同)	163	0	276
		ウコンノメイガ	0	0	0	0	0		0		0	0	0
さつまいも	3,690	ナカジロシタバ	615	923	615	923	3,076	(同)	3,100	(同)	6,125	2,153	3,029
		ハスモンヨトウ	615	923	615	923	3,076	(同)	3,100	(同)	6,125	2,153	3,029
		イモコガ	923	308	0	615	1,846	(同)	3,100	(同)	6,125	1,231	1,770
じゃがいも	499	疫病	0	0	0	0	0	(同)	299	(同)	599	0	191
		アブラムシ類	0	0	0	449	449	(同)	299	(同)	599	0	184
		ニシ [*] ウヤホシテントウ	0	0	0	100	100	(同)	299	(同)	599	0	124
かんきつ	1,303	そうか病(春葉)	0	0	0	0	0		912		2,736	0	95
		温州	そうか病(果実)	0	0	0	0	0		912		2,736	0
	712	黒点病(果実)	0	0	290	362	652		912		2,736	290	951
		晩柑	かいよう病(春葉)	0	0	0	362	362		912		912	0
	591	かいよう病(果実)	0	0	0	72	72		912		912	0	282
		日焼け炭疽病	0	0	0	0	0		0		0	0	183
		ミカンハダニ	72	0	217	652	941	(同)	1,303		4,561	290	792
		ミカンサビダニ	0	0	0	0	0	(同)	1,303	(同)	4,561	0	0
		チャノキイロアサ [*] ミウマ	0	0	0	72	72		1,173		3,518	0	105
		ミカンハモグリガ	72	0	72	72	217		217		326	145	689
		アブラムシ類	0	0	145	145	290		290		290	145	266

農作物名	作付面積 (ha)	病害虫名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生面積(ha)	備考
			甚	多	中	少		実	延			
		カメムシ類	0	0	53	531	585	585	1,169	53	436	
茶	1,420	炭疽病	0	0	0	501	501	1,420	4,970	0	1,102	
		もち病	0	0	0	84	84	(同) 1,420	(同) 1,420	0	262	
		網もち病	0	0	0	0	0	(同) 1,420	(同) 4,970	0	0	
		輪斑病	0	0	0	251	251	1,420	2,840	0	371	
		チャノコカクモンハマキ	0	0	0	167	167	(同) 1,420	(同) 4,970	0	96	
		チャハマキ	0	0	0	0	0	(同) 1,420	(同) 4,970	0	87	
		チャノホソガ	0	0	0	328	328	(同) 1,420	(同) 4,970	0	963	
		カンザワハダニ	0	328	109	437	874	1,420	3,550	437	961	
		チャノミドリヒメヨコハイ	0	0	251	418	668	(同) 1,420	(同) 4,970	251	1,108	
		チャノキイロアサミウマ	0	0	0	835	835	(同) 1,420	(同) 4,970	0	1,134	
		クワシロカイカラムシ	167	0	0	334	501	501	752	167	701	
		カスミカメ類	0	0	0	218	218	218	218	0	626	
冬春キュウリ (H28.9 ～H29.6)	337	べと病	7	13	25	102	147	320	1,601	45	147	
		炭そ病	0	0	0	0	0	142	283	0	0	
		疫	0	0	0	0	0	135	135	0	0	
		灰色かび病	0	0	0	0	0	135	135	0	5	
		うどんこ病	0	6	6	79	91	337	1,348	12	110	
		褐斑病	3	0	0	33	36	324	971	3	55	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	84	169	0	0	
		モザイク病	0	0	0	3	3	0	0	0	1	
		ミナミキイロアザミウマ	3	6	6	96	111	320	1,921	16	160	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	135	135	0	2	
冬春ピーマン (H28.9 ～H29.6)	194	疫	0	0	0	0	0	82	82	0	0	
		斑点病	0	0	8	63	71	155	621	8	60	
		斑点細菌病	0	0	0	0	0	39	39	0	0	
		うどんこ病	0	3	3	30	36	171	512	5	77	
		灰色かび病	0	0	0	0	0			0	0	
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

農作物名	作付面積 (ha)	病虫害名	程度別発生面積 (ha)				計	防除面積 (ha)		被害面積 (ha)	平年発生 面積(ha)	備考	
			甚	多	中	少		実	延				
		アブラムシ類	0	0	0	3	3	97	194	0	7		
		タバコガ	0	0	0	0	0	107	213	0	1		
		ミナミキイロアザミウマ	0	0	15	25	40	188	1,317	15	87		
		ヒラズハナアザミウマ	15	10	25	25	75	188	1,317	51	74		
冬春トマト (H28.9 ~H29.6)	138 (含ミニ)	疫病	0	0	0	0	0	104	414	0	4		
		灰色かび病	0	2	0	16	18	124	248	2	22		
		葉かび病	0	6	8	18	32	97	290	14	15		
		コナジラミ類	2	4	12	52	70	138	966	18	63		
		ハモグリバエ類	0	0	0	0	0	28	55	0	15		
		モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		アブラムシ類	0	0	0	0	0	59	117	0	1		
		ハスモンヨトウ	0	0	0	4	4	62	142	0	14		
冬春イチゴ (H28.9 ~H29.5)	69	灰色かび病	0	0	1	0	1	61	121	1	5		
		うどんこ病	0	0	1	11	12	69	138	1	28		
		炭そ病	0	0	0	3	3	17	35	0	8		
		アブラムシ類	1	1	1	21	24	64	192	0	27		
		ハダニ類	0	5	11	37	53	64	256	16	49		
		ハスモンヨトウ	0	0	1	2	3	64	128	1	9		
秋冬ダイコン (H28.9~12)	1,274	モザイク病	0	0	0	0	0	0	0	0	381		
		アブラムシ類	0	0	0	637	637	790	790	0	618		
		キスジノミハムシ	0	0	0	127	127	255	255	0	68		

9) 有害動植物発生予察事業実施状況

(1) 発表情報一覧(警報、注意報、特殊報、防除情報)

情報の種類	番号	発令月日	対象作物	対象病害虫	情報内容
注意報	1号	4月28日	冬春トマト（ミニトマトを含む）	葉かび病	次ページ以降を参照
	2号	6月26日	かんきつ	ミカンハダニ	
	3号	7月3日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	4号	8月21日	普通期水稲	斑点米カメムシ類	
	5号	9月27日	茶	カンザワハダニ	
	6号	9月29日	果樹全般（カンキツ、ナシ、カキ）	果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）	
	7号	12月25日	イチゴ	ハダニ類	
	8号	2月2日	冬春トマト	灰色かび病	
防除情報	1号	6月2日	施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ）	施設野菜の病害虫（アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類、キュウリ黄化えそ病、つる枯病、土壌病害虫）	
	2号	6月19日	早期水稲	斑点米カメムシ類	
	3号	6月26日	イチゴ（親株床）	炭疽病、うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類	
	4号	6月26日	かんきつ	かいよう病	
	5号	7月7日	サトイモ	疫病	
	6号	8月4日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	7号	9月4日	普通期水稲	トビイロウンカ	
	8号	9月8日	果樹全般	果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ）	

	9号	11月29日	イチゴ	ハダニ類
	10号	12月25日	冬春トマト（ミニトマトを含む）	灰色かび病、葉かび病、すすかび病
	11号	12月25日	イチゴ	アブラムシ類（主にワタアブラムシ）
	12号	3月30日	冬春ピーマン	ヒラズハナアザミウマ
特殊報	1号	6月19日	トルコギキョウ	斑点病

(2)情報の内容

◎ 注意報第1号（発令月日：平成29年4月28日）

病害虫名 葉かび病
 作物名 冬春トマト（ミニトマトを含む）

- 1 発生地域 県下全域
 2 発生量 葉かび病 多
 3 注意報の根拠

1) 4月中旬の巡回調査における発生面積率は50.0%（前年20.0%、平年27.9%）、発病葉率は12.0%（前年8.0%、平年5.4%）で、いずれも平年に比べて多の発生であった（図1、2）。

発生面積率、発病葉率ともに過去10年同時期で最も高くなっている。

2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並みから高く、降水量は平年並みから少ない予報であるが、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台4月20日発表1ヶ月予報）。

3) 平成29年1月30日付で病害虫発生予察注意報第4号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年より発生が多い状況で推移している。

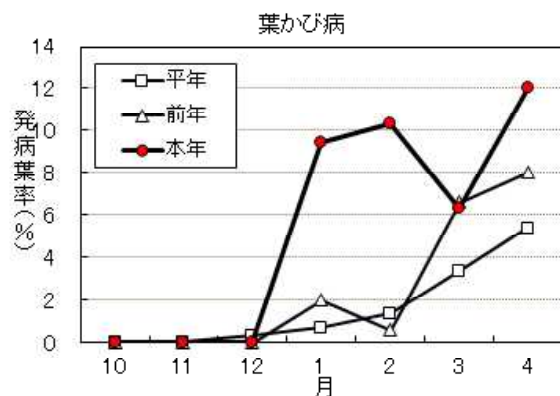
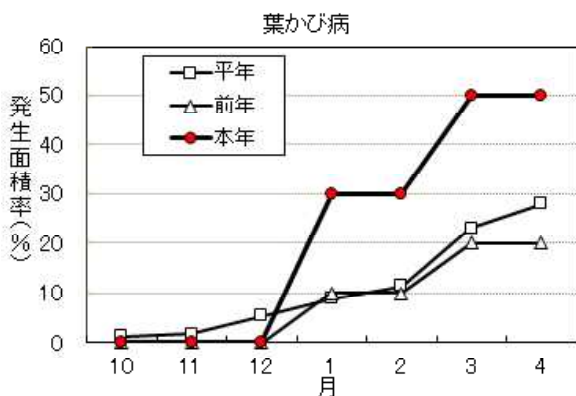


図1 巡回調査における発生面積率の推移 図2 巡回調査における発病葉率の推移

4 防除上の注意

- 1) 密植や過繁茂により、施設内の湿度が高くなると発病しやすいので、換気を行うとともに、施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。
- 2) 発病葉は感染源になるため、生育に支障がない限りできるだけ摘葉し、すみやかにほ場外へ持ち出し適正に処理する。
- 3) 多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおき、発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。散布の際は、農薬が葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。
- 4) 薬剤は、作用点の異なる薬剤のローテーション散布を実施する。複数の農薬で薬剤耐性菌の発生が報告されているため、農薬の散布によっても防除効果が認められない場合は使用を見合わせ、他の薬剤による防除に切り替える。
- 5) 抵抗性品種が複数市販されているが、打破するレースも認められているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、本病の発病には注意する。

5 その他

その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 注意報第2号（発令月日：平成29年6月26日）

病虫害名 ミカンハダニ
 作物名 かんきつ

1 発生地域 県下全域

2 発生量 多

3 注意報の根拠

- 1) 平成29年6月中旬の巡回調査の結果、発生面積率 72.2 %は平年値 24.4 %に比べて多、寄生葉率 17.3 %は平年値 1.2 %に比べて多である（図1、図2）。
- 2) 6月の発生面積率、寄生葉率は過去10年間で最も高い（図3、図4）。
- 3) 梅雨明け後の高温乾燥はハダニの増殖に好適な条件となる。

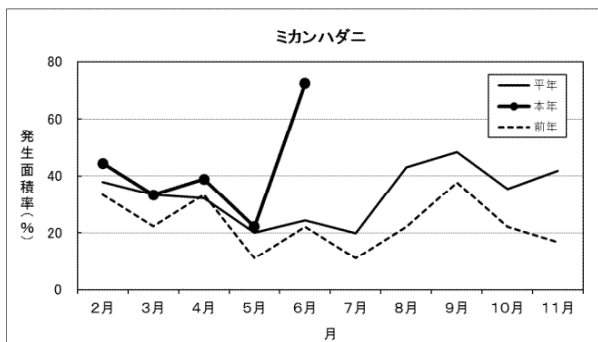


図1 月別発生面積率の推移

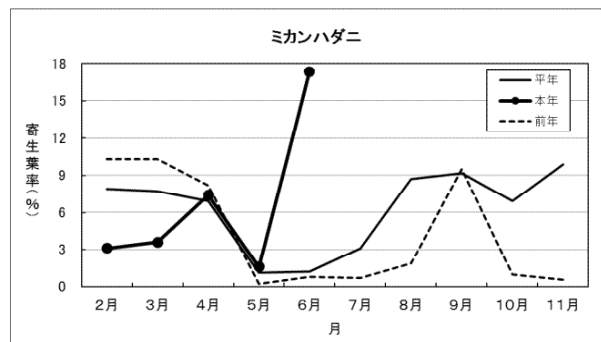


図2 月別寄生葉率の推移

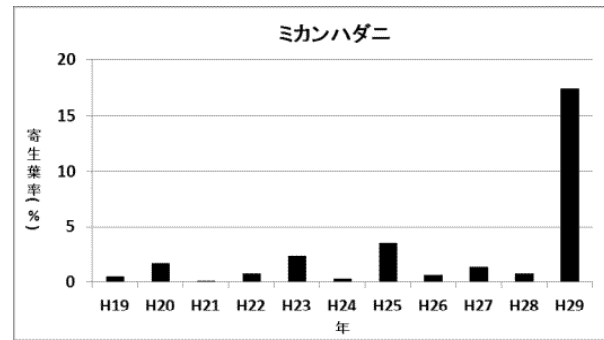
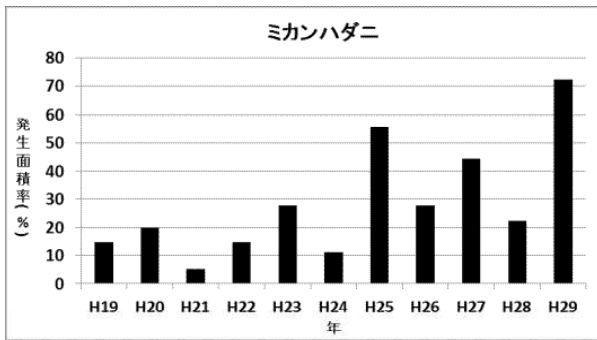


図3 年度別発生面積率

図4 年度別寄生葉率

4 防除上の注意

- 1) ミカンハダニの防除適期は寄生葉率が30%(一葉当たり0.5～1頭)の増殖初期である。多発すると薬剤の効果は劣り、防除回数の増加、ハダニの薬剤抵抗性の獲得につながるため、散布時期を失しないように注意する。
- 2) 葉の両面に寄生するので、薬剤がまんべんなくかかるように十分量散布する。
- 3) 同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤でローテーション散布に努める。

●農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 注意報第3号（発令月日：平成29年7月3日）

病害虫名 斑点米カメムシ類
作物名 早期水稲

1. 発生地域 : 早期水稲栽培地帯
2. 発生時期 : 出穂期以降
3. 発生程度 : 多
4. 注意報の根拠

(1)6月下旬の巡回調査における水田ほ場でのすくい取り調査では、斑点米カメムシ類の発生面積率は67.8%(前年28.1%、平年25.7%)、発生程度(20回振りすくい取り虫数)は3.9頭(前年0.5頭、平年0.8頭)で、いずれも平年に比べて多の発生であった(図1,2)。

また、発生面積率及び発生程度ともに過去10年の同時期と比べ、最も高い(図3,4)。

(2)今後の気温は、平年並または高い確率がともに40%と見込まれている(鹿児島地方気象台1ヶ月予報6月29日発表)ことから、カメムシ類の活動に好適であり注意が必要である。

(3)平成29年6月19日付で防除情報第2号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年より発生が多い状況で推移しているため、基本の2回防除の徹底が必要である。

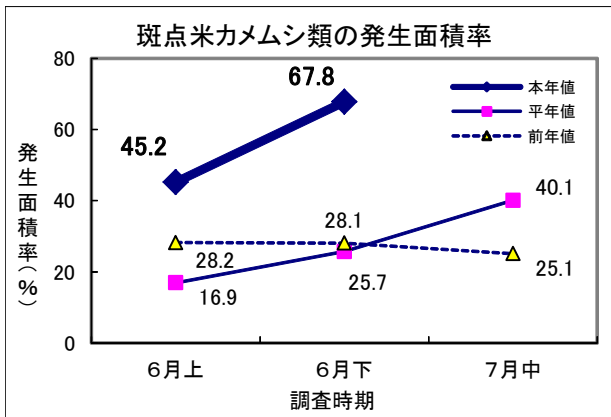


図1 巡回調査における発生面積率の推移

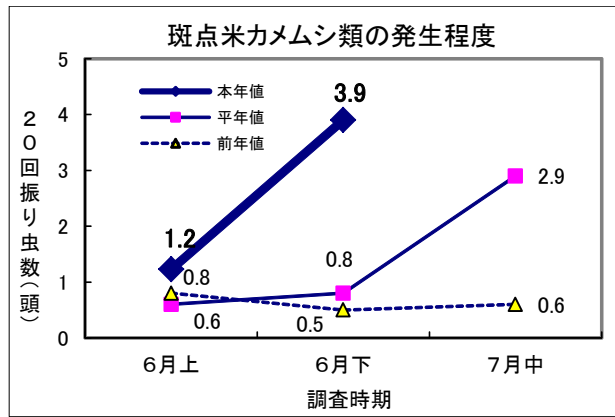


図2 巡回調査における発生程度の推移

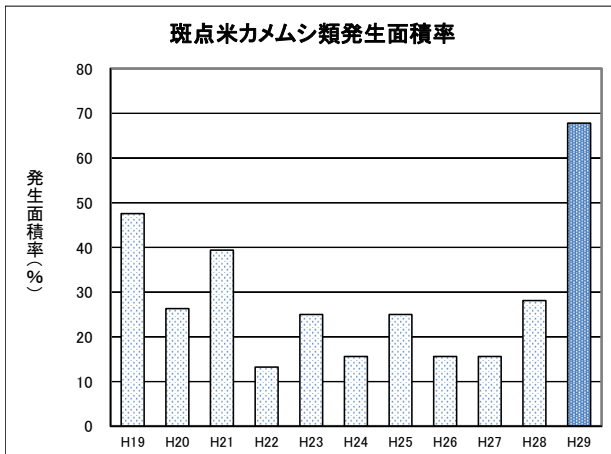


図3 巡回調査における発生面積率の年次推移

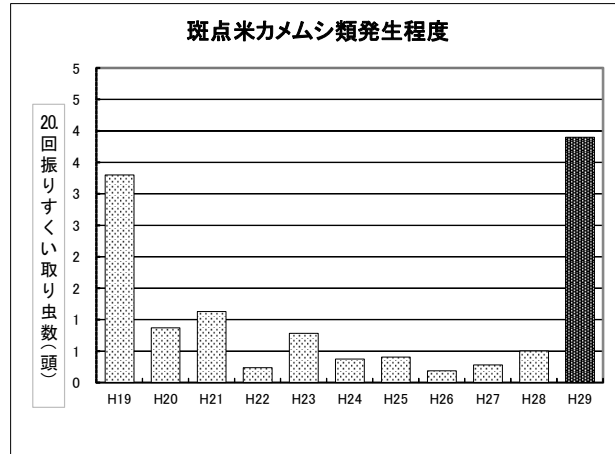


図4 巡回調査における発生程度の年次推移

5. 防除上の注意

- (1) 防除時期は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本であり、高密度の場合はさらに追加防除が必要である。
- (2) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので、広域の集団一斉防除に努め防除効率を高める。
- (3) 薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。

なお、ポジティブリスト制度の施行に伴い、農薬の使用については今まで以上に厳重な注意を払うことが必要である（ラベル表示を確認すること）。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 注意報第4号（発令月日：平成29年8月21日）

病害虫名 斑点米カメムシ類
作物名 普通期水稻

1. 発生地域 : 県内全域
2. 発生時期 : 出穂期
3. 発生程度 : 多
4. 注意報の根拠

(1) 8月中旬（8月9日～15日）の巡回調査における本田での斑点米カメムシ類は、発生面積率17.1%（平年値4.8%）、20回すくい取り1.20頭（平年値0.07頭）で、平年より多い発生であり、地域によっては特に密度の高い圃場もみられる。

(2) 斑点米産出能力の高いクモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等を確認している。

(3) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になる。

(4) 今後も気温が高い状態が続くと予想されている（鹿児島地方気象台8月17日発表1ヶ月予報）ことから、カメムシ類の活動に好適である。

5. 防除上の注意

(1) 防除時期は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本であり、高密度の場合はさらに追加防除が必要である。

(2) 本虫は移動性の高い害虫であり、広域の集団一斉防除に努め防除効果を高める。

(3) 薬剤等その他の詳細については関係機関に照会すること。また、周辺作物の栽培状況等に留意し、地域全体で農薬のドリフト防止に努める。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

●6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 注意報第5号（発令月日：平成29年9月27日）

病害虫名 カンザワハダニ
作物名 茶

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生量 多
- 3 注意報の根拠

1) 9月中旬の巡回調査における発生面積率は58.8%（平年値31.3%）、寄生葉率は5.8%（平年値2.1%）でどちらも平年に比べて多い発生であった（図1）。

2) 3ヶ月予報(鹿児島地方気象台 8月25日発表)によると、10月、11月の気温は平年並か高くなる見込みである。

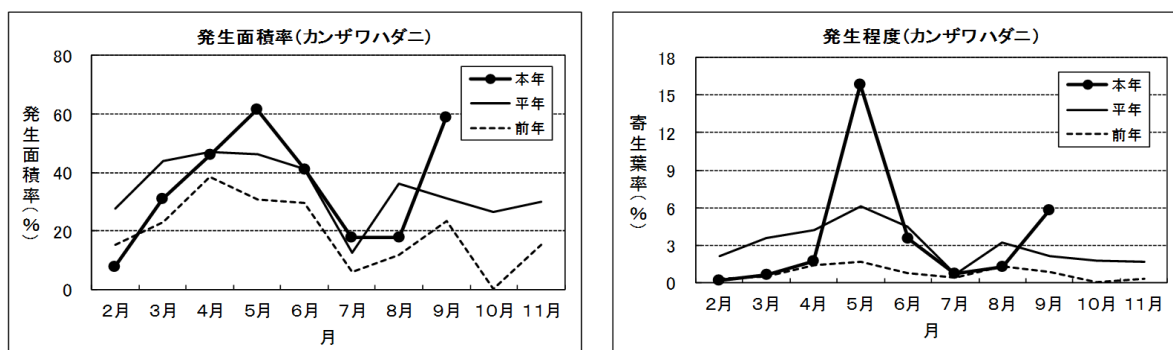


図1. カンザワハダニの発生状況の推移

4 防除上の注意

- 1) 秋期防除は秋整枝後に実施する。また、発生が多い場合や発生が続く場合は、マシン油剤での追加防除も行う。
- 2) 本虫は葉裏のやや凹んだ部分に好んで生息し、また、気温の低下とともに下部に移行するので、株の内部や裾の葉裏まで薬剤がかかるように、適切な散布量で、丁寧に散布する。
- 3) 抵抗性回避のため、同一系統の薬剤使用は年1回が望ましい。

- 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 注意報第6号(発令月日:平成29年9月29日)

病害虫名 果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ)

作物名 果樹全般(カンキツ、ナシ、カキ)

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多

3 注意報の根拠

1) ツヤアオカメムシ

県内3ヶ所に設置しているフェロモントラップの誘殺数はやや少から平年並であるが(データ省略)、県内5ヶ所に設置している予察灯の誘殺数は、9月下旬に増加している(図1)。特に日南市では、9月第5半旬の誘殺数が353頭(平年91頭)と平年に比べて多となっている。

2) チャバネアオカメムシ

フェロモントラップの誘殺数は平年並で(データ省略)、予察灯の誘殺数は、8月第5半旬から9月第2半旬にかけては並から多であったが、9月第5半旬には平年並からやや多と

なっている（図2）。

3) 果樹園への飛来が確認されている地域もあり、一部のほ場では果実への被害も確認されている。

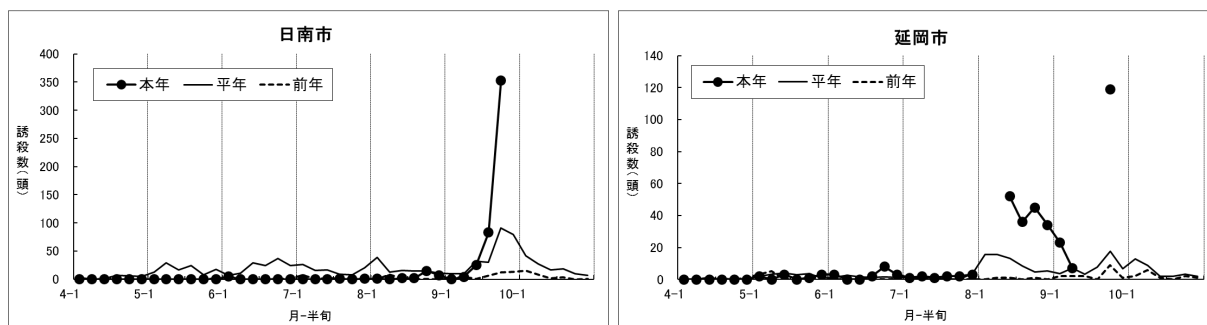


図1. 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移

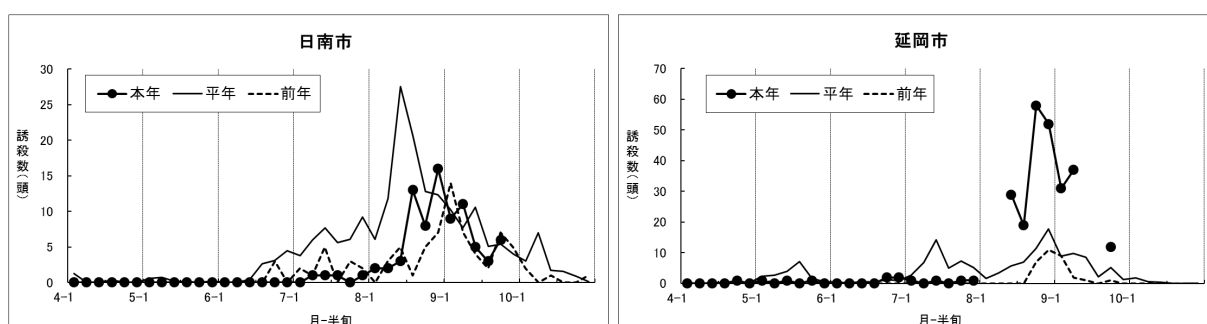


図2. 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移

4 防除上の注意

- 1) カメムシは園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動する。多飛来を見からの防除では手遅れとなるので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。
- 2) 果樹園に侵入したカメムシは、集合フェロモンにより、同種を大量に誘引し被害が拡大するおそれがあるので十分注意する。
- 3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。ただし、これらの薬剤は多用すると天敵等への影響が大きく、ハダニ類等の発生を助長しやすい。このため連用を避け、系統の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- 4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。

●農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください

◎ 注意報第7号（発令月日：平成29年12月25日）

病害虫名 ハダニ類

作物名 いちご

1 発生地域 県下全域

2 発生時期 収穫期

3 発生量 やや多

4 注意報の根拠

1) 12月中旬におけるハダニ類の巡回調査の結果は、発生面積率が66.7%（前年61.5%、平年60.5%）で平年並、寄生株率が30.5%（前年9.5%、平年16.6%）で平年よりやや多、葉当たり虫数が11.3頭（前年1.5頭、平年4.4頭）で平年より多となっている（図1、2、3）。

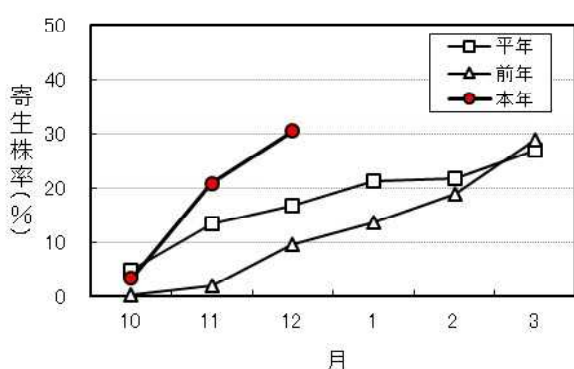


図1 ハダニ類の寄生株率の推移

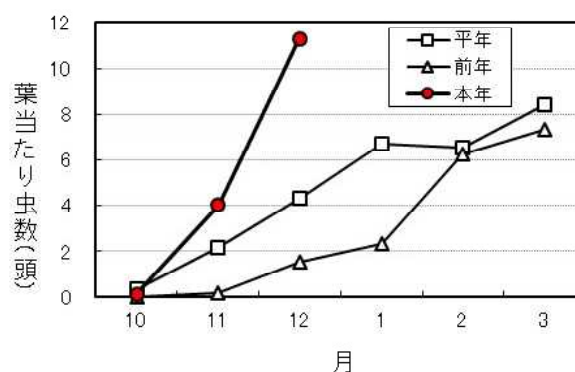


図2 ハダニ類の葉当たり虫数の推移

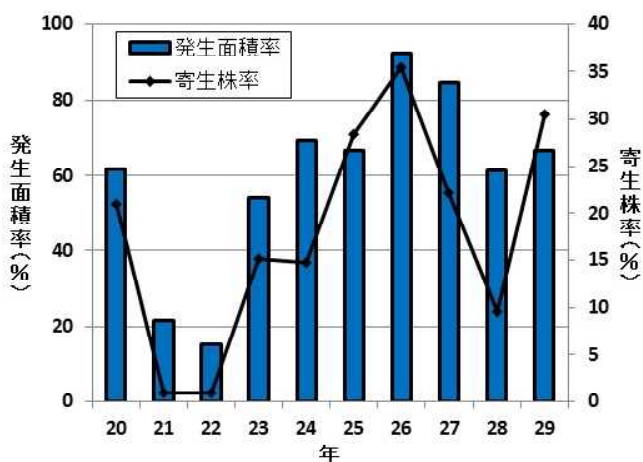


図3 過去10年における発生の推移

注) いずれの年も12月中旬の調査結果による

5 防除上の注意

- 1) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に注意深く発生の有無を観察し、発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし必ず薬剤散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- 2) 急激に個体数が増加するため、初発生を認めたら直ちに防除を行い、5～7日間隔で連続して防除する。

- 3) 株当たりの寄生虫数が多くなると、生育へ影響が出ることから、散布のタイミングを逸しないよう気を付ける。
- 4) 下葉の裏に多く寄生しているのので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。除去した茎葉はできるだけすみやかにほ場外へ持ち出し、ほ場内への分散防止に努める。持ち出した茎葉は、ほ場近くに放置せず適切に処分する。
- 5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。また、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の使用、天敵の活用を図る。
- 6) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響について十分に注意する。

- 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 注意報第8号（発令月日：平成30年2月2日）

病害虫名 灰色かび病

作物名 冬春トマト

1 発生地域 県下全域

2 発生量 やや多

3 注意報の根拠

1) 1月中旬の巡回調査における発生面積率は40.0%（前年10.0%、平年26.8%）、発病株率は4.8%（前年0.9%、平年2.3%）で、いずれも平年に比べてやや多の発生であった（図1、2）。

果実の発生面積率は20.0%（前年0%、平年7%）、発病果率は0.5%（前年0.0%、平年0.16%）で、いずれも平年に比べてやや多の発生であった（図3、4）

発生面積率、発病株率ともに過去10年同時期で2番目に高くなっている。

2) 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年並みから少ない予報であるが、曇雨天日が多くなると、施設内の湿度が高くなり、病害の発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台1月25日発表1ヶ月予報）。

3) 平成29年12月25日付で病害虫防除情報第10号を発表し、防除を呼びかけたが、その後も平年より発生が多い状況で推移している。

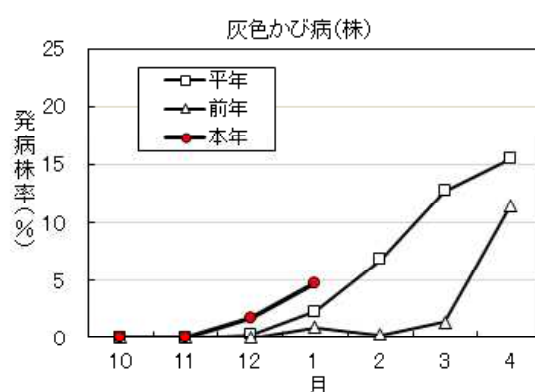
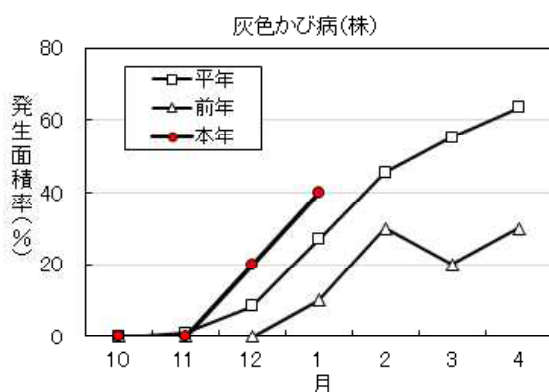


図1 巡回調査における発生面積率の推移

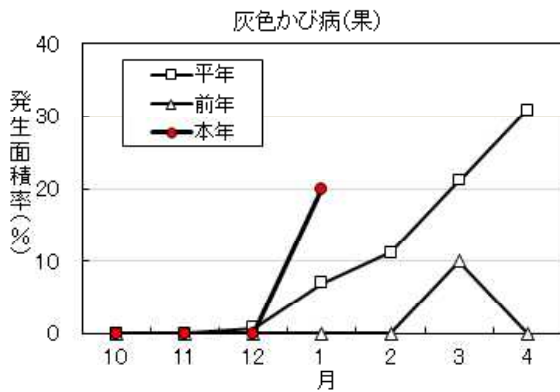


図2 巡回調査における発病株率の推移

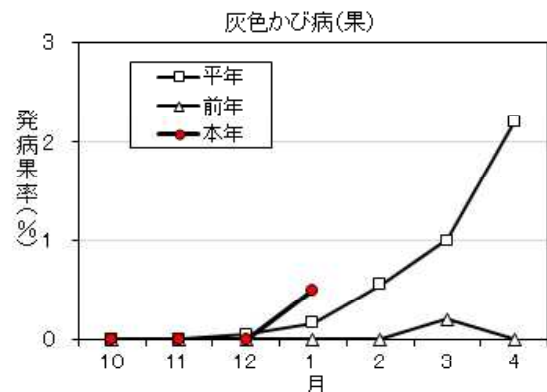


図3 巡回調査における果実発生面積の推移

図4 巡回調査における発病果率の推移

4 防除上の注意

- 1) 内張カーテン等の設置により、ハウス内が過湿状態となりやすいので、適宜加温機を作動させるなどして、できるだけハウス内の乾燥に努める。
- 2) 茎葉の過繁茂は、発病を助長するので、可能な限り摘葉を行い、日当たりや風通しを良くし、薬剤が付着しやすいようにする。
- 3) 発病した果実や葉は、できるだけほ場から持ち出したのち、薬剤による防除を行う。薬剤の付着ムラがあると、防除効果が上がりにくいので、丁寧に散布する。散布の際は、同一系統の薬剤を連続散布しないよう注意する。
- 4) 灰色かび病菌は、多くの薬剤に対する耐性菌の発生が確認されているので、防除効果が認められない場合は、使用を中止し、他系統の薬剤に切り替える。
- 5) ハウス内湿度が高いときは、葉かび病、すすかび病、疫病なども発生しやすくなる。いずれの病害も多発生してからの防除は困難なので、初発生を見逃さないよう、ほ場内をよく確認し、予防を中心に防除を行う。

- 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第1号（発令月日：平成29年6月2日）

- 1 作物名 施設野菜（きゅうり、ピーマン、トマト、イチゴ）
- 2 病虫害名 施設野菜の病虫害
- 3 発生状況（経過）
4月の巡回調査の結果は以下の通りであった。

(1) 冬春きゅうり

・ミナミキイロアザミウマ

発生面積率：53.3 % (前年 84.6 %、平年 72.5 %)

平年よりやや少

100 葉当たり虫数：96.5 頭 (前年 39.9 頭、平年 216.4 頭)

平年よりやや少

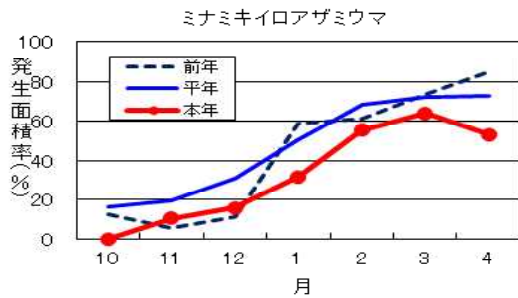


図1 発生面積率の推移

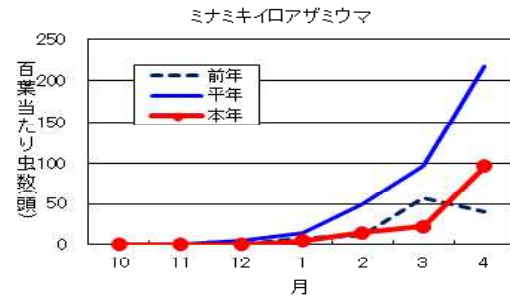


図2 100 葉当たり虫数の推移

・黄化えそ病 (M Y S V)

発生面積率：33.3 % (前年 23.1 %、前々年 14.3 %) 過去7カ年間で2番目に多い発病株率：0.2 % (前年 0.8 %、前々年 1.5 %) 過去7カ年間で4番目に多い

(2) 冬春ピーマン

・ミナミキイロアザミウマ

発生面積率：36.4 % (前年 49.9 %、平年 58.8 %)

平年より少

10 花当たり虫数：2.5 頭 (前年 3.8 頭、平年 2.6 頭)

平年並

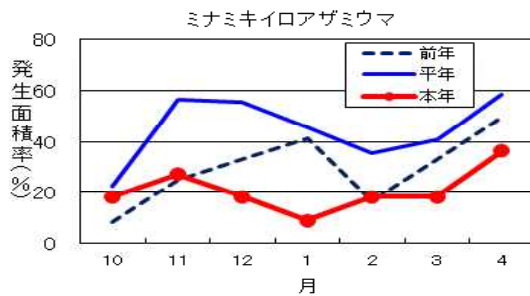


図3 発生面積率の推移

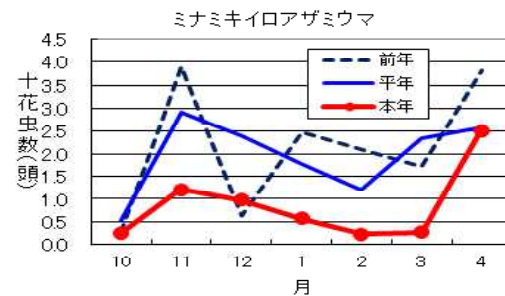


図4 10 花当たり虫数の推移

・ヒラズハナアザミウマ

発生面積率：54.6 % (前年 41.6 %、平年 48.0 %)

平年並

10 花当たり虫数：20.2 頭 (前年 11.2 頭、平年 14.6 頭)

平年並

(3) 冬春トマト

・タバココナジラミ

発生面積率：50.0 % (前年 70.0 %、平年 44.0 %)

平年よりやや多

100 葉当たり虫数：23.0 頭 (前年 10.4 頭、平年 6.6 頭)

平年より多

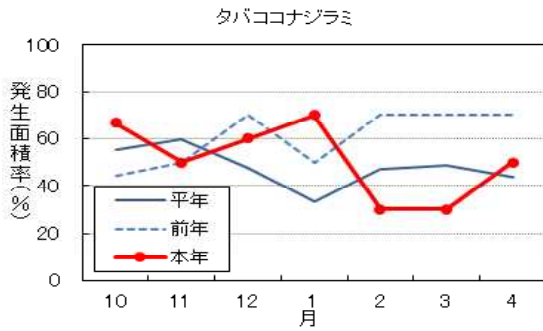


図5 発生面積率の推移

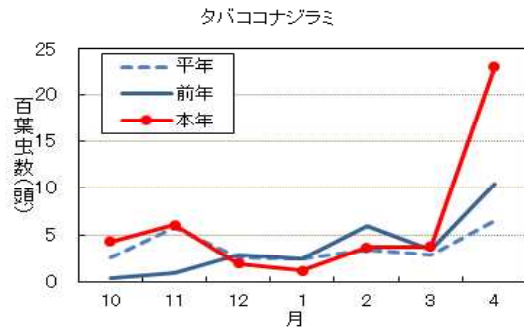


図6 100葉当たり虫数の推移

(4) イチゴ (3月調査)

・ハダニ類

発生面積率：92.3% (前年 61.6%、平年 79.0%)

平年より多

寄生株率：28.9% (前年 26.2%、平年 26.9%)

平年並

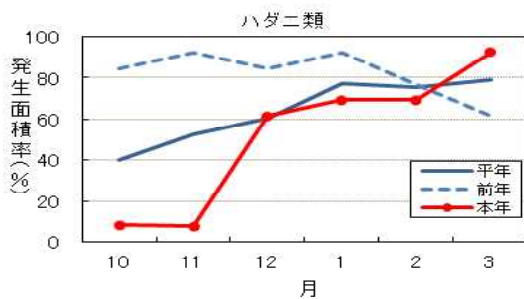


図7 発生面積率の推移

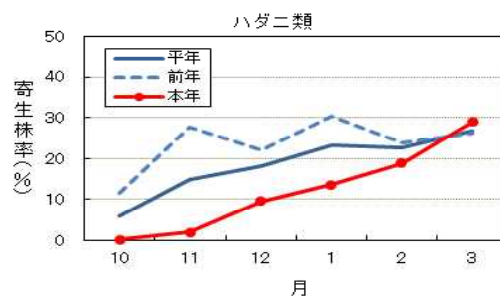


図8 寄生株率の推移

4 防除上の注意

1) アザミウマ類、コナジラミ類、ハダニ類

- ①いずれの害虫も薬剤感受性の低下が報告されるなど、栽培期間中の防除が困難となっ
てきている。次作での発生を抑制するためには、栽培終了時の施設外への飛散を防ぐこ
とが重要である。
- ②栽培終了時には、作物及び雑草は株を抜根し、すぐに施設を密閉して蒸し込みを行う。
蒸し込み期間は蛹が羽化する期間を考慮して、少なくとも10日間以上を確保し、病害
虫の拡散防止を徹底する。
- ③ほ場周辺やほ場内の雑草は害虫の発生・増殖源となるので、ハウス内外、栽培地周辺
の除草を徹底する。
- ④ミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病 (MYSV) については、次期
作に向け、周辺にウイルスを拡散させないために、栽培終了時には必ず防除と蒸し込み
を行い、生き残ったミナミキイロアザミウマを死滅させる。具体的には、ミナミキイロ
アザミウマの防除を行ってから株を抜根した上で、施設を密閉して20日間蒸し込む。

2) 土壌病害虫

- ①作物残さは施設外に持ち出し適切に処分する。残さ処理の終わったほ場は、改良太陽熱
消毒法などによりほ場の隅々まで土壌消毒を行う。天候不順などで、改良太陽熱消毒法
の防除効果が十分に望めない時は、薬剤による土壌消毒を実施する。

② 土壌病害が発生したほ場で、くん蒸剤などの土壌消毒剤を使用する場合は、残さを分解させた後に処理することで高い防除効果が得られる。

③ 施設内で使用した資材・農機具などについても消毒を行うなど、徹底して病原菌や線虫など土壌病害虫の密度を減らすことが重要である。

● その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

● 6月1日から8月31日までの3か月間、農薬危害防止運動を実施します。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第2号（発令月日：平成29年6月19日）

- 1 作物名 早期水稻
2 病害虫名 斑点米カメムシ類
3 発生状況

(1) 6月中旬の巡回調査における早期水稻での生息密度（20回すくい取り）は、発生面積率45.2%（平年15.0%、前年28.2%）、すくい取り虫数1.2頭（平年1.6頭、前年0.8頭）で、発生面積率は平年より多、すくい取り虫数はやや多となっている。

(2) 6月上旬の水田周辺におけるイタリアンライグラス等飼料作物での生息密度（20回振りすくい取り）は、成・幼虫合計で66.3頭（平年37.6頭、前年45.2頭）であり、平年より多となっている（表1）。

(3) 種別では、ミナミアオ、ホソハリ、アカスジカスミカメムシの生息密度が平年よりも高く、シラホシカメムシがやや多、クモヘリカメムシは平年並みとなっている（図1、2）。

表1 飼料作物における斑点米カメムシ類の種別平均頭数（6月上旬、20回振り）

	ミナミアオカメムシ	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	シラホシカメムシ類	アカスジカスミカメ	全種合計
H29※	4.7	2.3	6.0	1.3	52.0	66.3
H28※	1.4	2.3	1.9	0.5	39.1	45.2
平年値	1.3	5.2	2.2	1.0	27.9	37.6

※調査地点数（H29）：51地点（中部、南那珂、児湯、東臼杵管内）

※調査地点数（H28）：91地点（中部、南那珂、児湯、東臼杵管内）

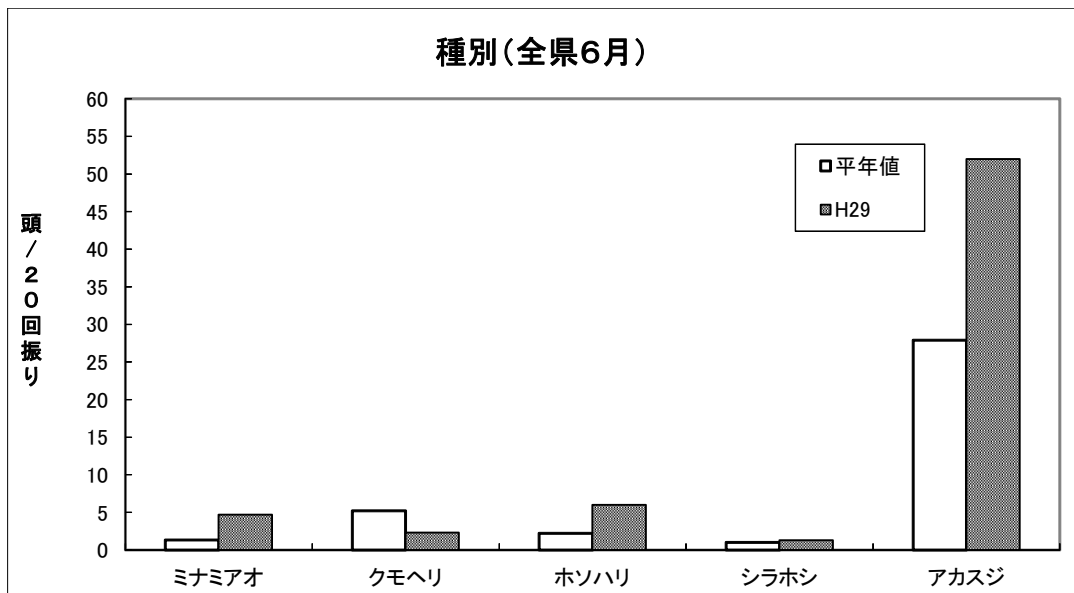


図1 種別平均頭数（6月上旬飼料作物、20回振り）

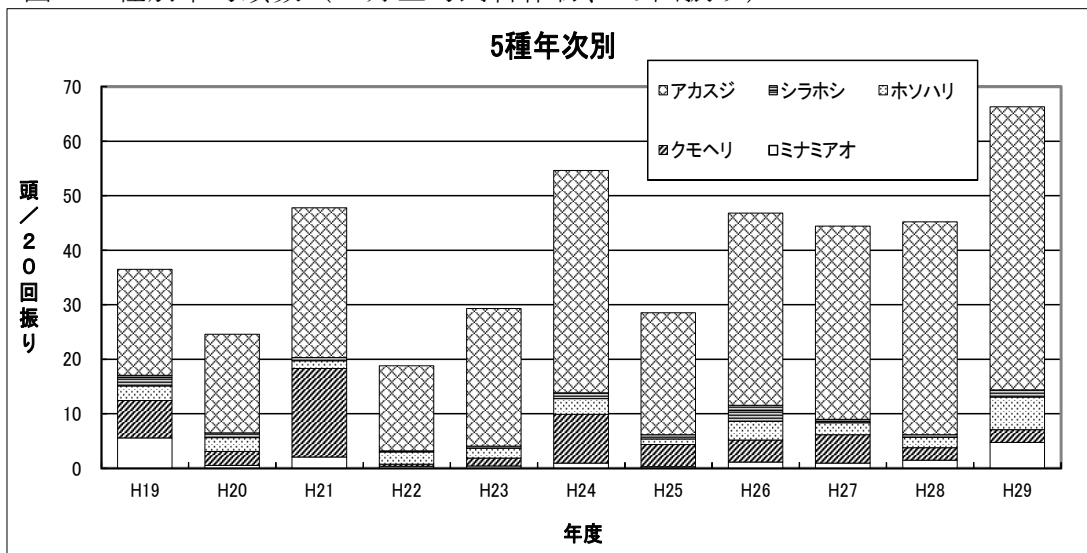


図2 年度別種別平均頭数（6月上旬飼料作物、20回振り）

4 防除上の注意

- (1) 本虫による被害は品質を著しく低下させ、等級格下げの重要な要因になるので穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底する。その後も発生が見られる場合には、さらに追加防除が必要である。
- (2) 広域の集団一斉防除に努め、防除効率を高める。
- (3) 出穂の早い、または遅い水田には集中的に飛来するおそれがあるほか、ヒエがある場合は先に出穂するヒエにカメムシが集まる傾向があるので早めに処分する。

- ・その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- ・6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第3号（発令月日：平成29年6月26日）

- 1 作物名 イチゴ（親株床）
- 2 病虫害名 炭疽病、うどんこ病、ハダニ類、アブラムシ類
- 3 発生状況（経過）

5月上旬から中旬にかけての巡回調査の結果は、次の通りであった。

1) 炭疽病（潜在感染状況調査6月上旬）

感染ほ場率：9.1%（平年38.7%、前年49.9%） 平年よりやや少

潜在感染株率：1.8%（平年10.3%、前年11.7%） 平年より少

2) うどんこ病

発病面積率：18.2%（平年47.9%、前年24.9%） 平年より少

発病株率：1.1%（平年8.5%、前年5.7%） 平年より少

3) ハダニ類

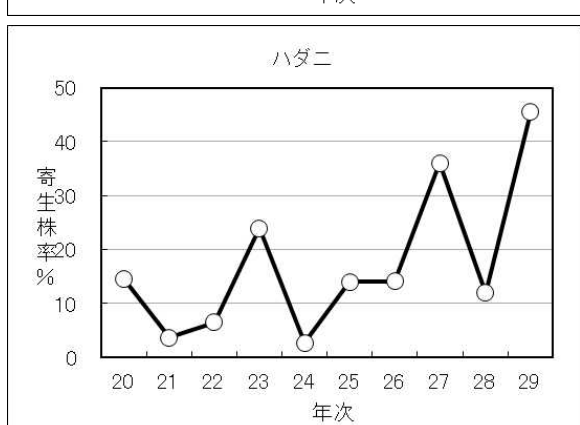
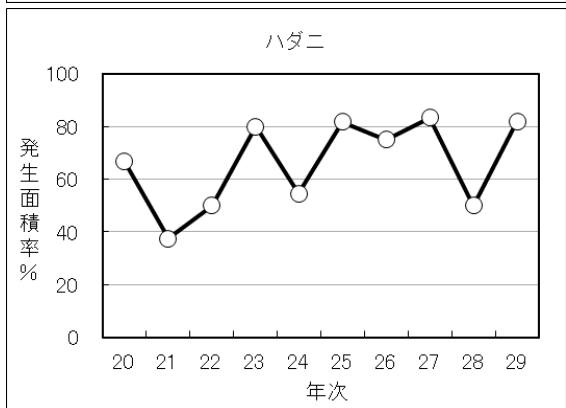
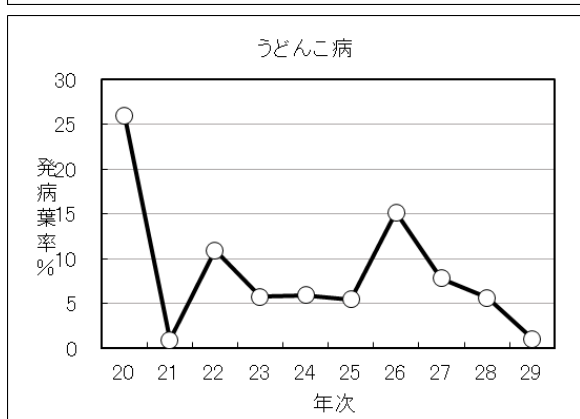
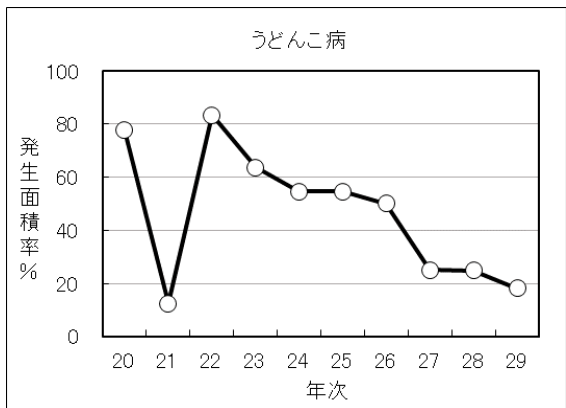
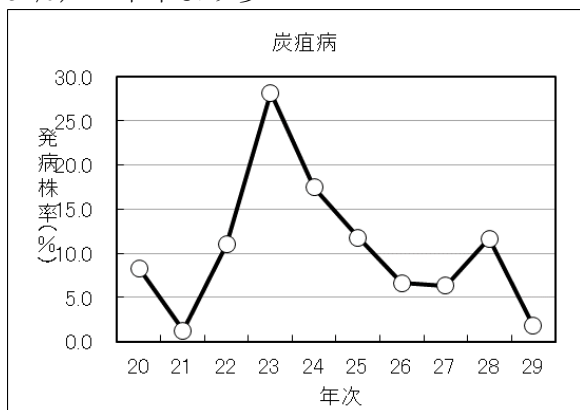
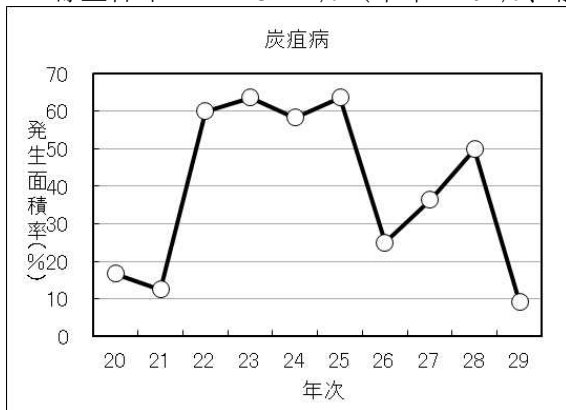
発生面積率：81.9%（平年66.2%、前年50.0%） 平年よりやや多

寄生株率：45.5%（平年15.7%、前年12.0%） 平年より多

4) アブラムシ類

発生面積率：91.0%（平年53.1%、前年25.0%） 平年より多

寄生株率：31.1%（平年11.9%、前年1.5%） 平年より多



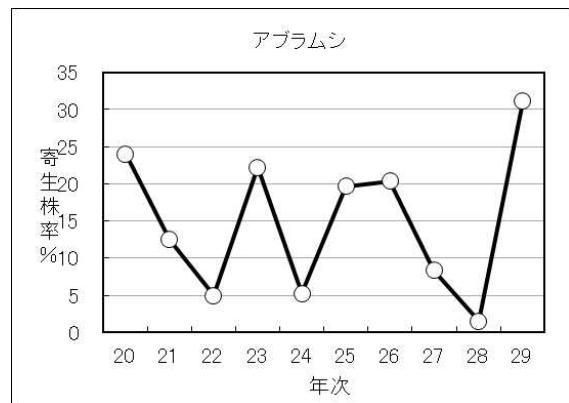
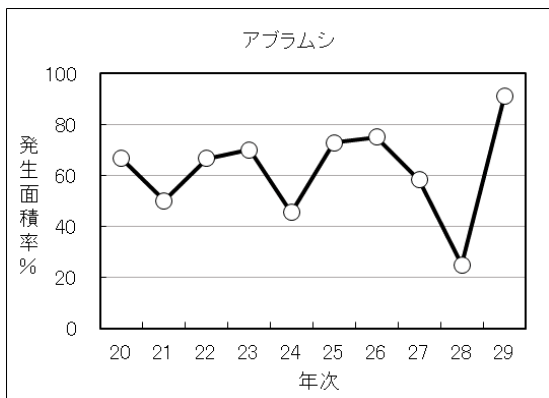


図1 親株床での病害虫の年次別発生状況

防除上の注意

1) 炭疽病

- (1) 感染が確認された株は、病原菌が拡散する恐れがあるため、速やかに苗床や栽培ほ場から持ち出し、できるだけ離れた場所に埋却する等適切に処分する。感染株に隣接した株も感染の恐れが高いため、あわせて廃棄処分する。本病の簡易検定方法については、宮崎県農薬安全使用啓発ホームページを参照。
- (2) 降雨、台風の前や摘葉後には薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- (3) 窒素過多などで軟弱な株は発病しやすくなるため適正な施肥に努める。
- (4) 感染株の発生に備え、予備苗を十分に確保するよう努める。

2) うどんこ病

- (1) 過繁茂になると、株間の湿度が上がり感染しやすい環境になるので、適宜下葉の除去を行い、風通しをよくする。発病がみられなくても、定期的に防除を行い、本ぼへの持ち込みを防ぐ。

3) アブラムシ類、ハダニ類

- (1) いずれも急激に個体数を増加させる害虫であるため、発生初期のうちに、散布間隔を短くして集中的に防除することが重要である。また、ハダニ類の発生初期は、スポット的に寄生しているので、葉裏を中心にほ場全体を注意深く観察する。
- (2) アブラムシ類は若い葉やランナーの先端部、ハダニ類は下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるように丁寧に散布する。除去した葉は、育苗ほ周辺に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。
- (3) 両害虫とも、イチゴ以外の植物にも寄生するので、育苗ほ周辺の除草を行う。
- (4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。また、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤等を使用するなど、効果の高い薬剤の温存に努める。

4) その他病害

- (1) 萎黄病は、高温になると発生が多くなり、育苗時にはランナーで伝染するので、発病株はすみやかに、ほ場外に持ち出し処分する。

いずれの病害虫も本ぼに持ち込むと根絶が困難であるため、育苗期間中に十分観察し、罹病・寄生株の早期防除・除去を行うとともに定植時の選別を徹底する。

● その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

● 6月1日から8月31日の3ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第4号（発令月日：平成29年6月26日）

- 1 作物名 かんきつ
 2 病害虫名 かいよう病
 3 発生状況（経過）

- 1) 6月中旬巡回調査における春葉の発生面積率は27.8%（平年13.2%）、発病葉率2.3%（平年1.2%）でいずれも平年に比べてやや多、発病度は0.82%（平年0.26%）で平年に比べて多であった（図1、2）。また、中晩柑においても同様に、春葉の発生面積率は50.0%（平年20.0%）、発病葉率4.3%（平年1.9%）でいずれも平年に比べてやや多、発病度は1.93%（平年0.49%）で平年に比べて多であった（図3、4）。
- 2) かいよう病に比較的強い温州みかんでも発生がやや多い状況である。

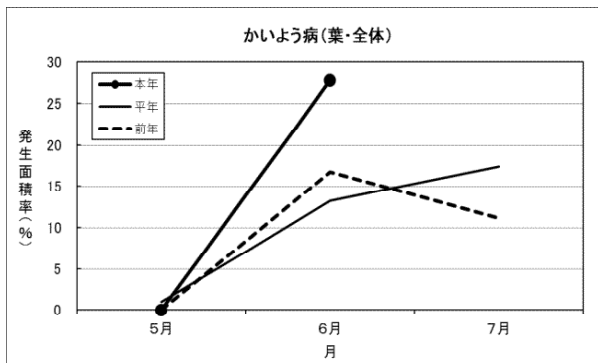


図1 月別発生面積率の推移（葉・全体）

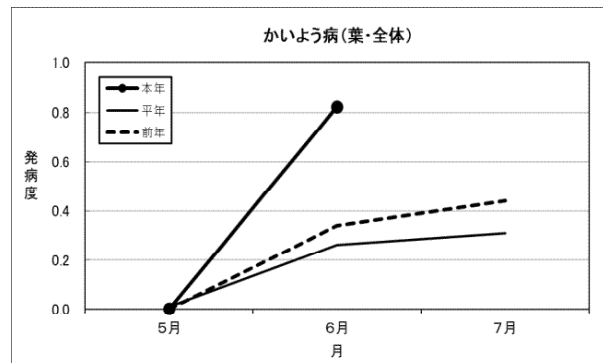


図2 月別発生度の推移（葉・全体）

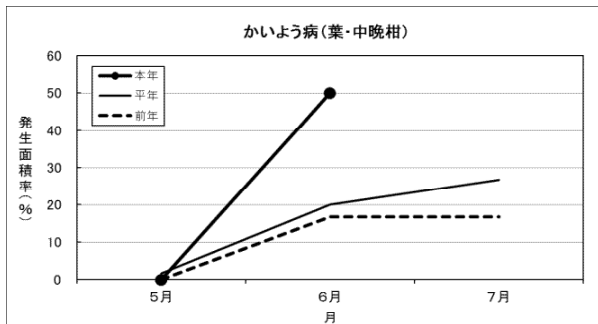


図3 月別発生面積率の推移（葉・中晩柑）

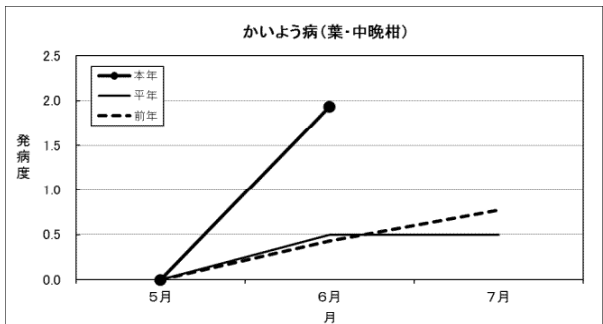


図4 月別発生度の推移（葉・中晩柑）

4 防除上の注意

- 1) 発病した枝葉は伝染源となるため、できるだけ除去し、園外に持ち出し適切に処理する。
 - 2) 雨風による傷から感染しやすいので防風垣等を整備して、枝葉を傷めないようにする。
 - 3) ミカンハモグリガの被害も病原菌侵入口となるため、夏秋梢の発生の多いほ場では、防除を徹底する。
 - 4) 台風襲来が予想される場合には、台風接近前に防除する（事後より事前の方が効果が高い）。
 - 5) 無機銅水和剤による防除を行う場合は、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）200倍を加用する。
- 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
 - その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第5号（発令月日：平成29年7月7日）

- 1 作物名 サトイモ
- 2 病害虫名 疫病
- 3 発生状況（経過）

1) 6月3半旬の巡回調査においてサトイモ疫病の発生はみられなかった。しかし、6月6半旬～7月1半旬にかけて、県内各地で初発生が確認されはじめたため、今後の発生動向に注意が必要である。

2) 平生28年産サトイモの巡回調査ほ場では、7月初旬に疫病の発生を確認後、急激に蔓延したことから、本年産についても今後の天候により急激な蔓延の可能性がある（図1、2）。

3) 向こう1か月の気象予報では、平均気温は平年並から高く、降水量は平年並みから少ない予報である。しかし、曇雨天が続くと発生に好適な条件となる可能性がある（鹿児島地方気象台6月30日発表1ヶ月予報）。

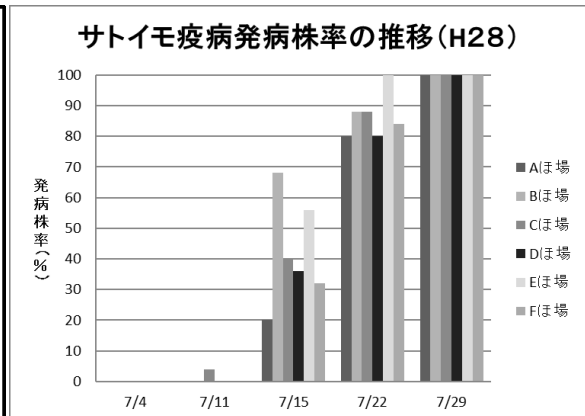
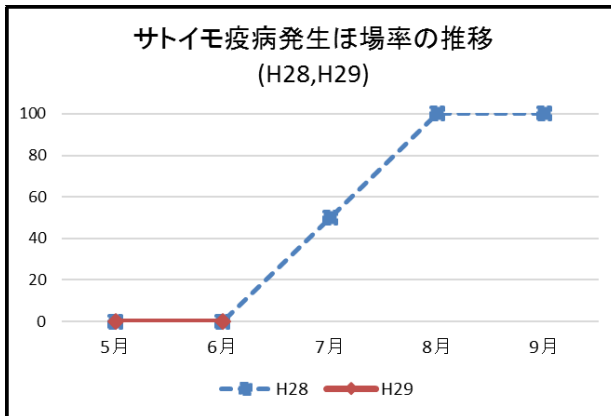


図1 巡回調査における発生ほ場率の推移 (H28,H29 年中旬調査)

図2 巡回調査における発病株率の推移 (H28年7月調査)

4 本病の特徴

本病の病原菌である *Phytophthora colocasiae* は10～35℃で生育するが、27～30℃で最も良く増殖することから、夏期に曇雨天日が続くと急激に蔓延する。葉や葉柄上の病斑（写真1、2）に形成した遊走子のうまたは遊走子が風雨により周囲へ飛散し、周辺で二次感染が起こる。

5 防除上の注意

1) 7月は、本病の感染に好適な時期である。地域の発生状況を踏まえて薬剤による防除を実施する（登録薬剤は表1を参照）。

(1) 未発生ほ場

発生の有無をこまめに確認し、ジーファイン水和剤による予防散布を中心に継続した防除を行う。隣接ほ場で発生が確認された場合はアミスター20フロアブルの散布を行う。

(2) 既発生ほ場

①早生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを7日間隔で2回散布する。その後は、天候に留意しながらジーファイン水和剤の定期散布を実施する。アミスター20

フロアブルについては、使用回数が3回以内、使用時期が収穫14日前となっているので、使用にあたっては十分注意する。

②中生～晩生品種の場合は、直ちにアミスター20フロアブルを1回散布し、その後はジーファイン水和剤を継続して散布する。病斑の上位伸張が続く場合は、再度アミスター20フロアブルを散布する。

2) 薬剤散布に当たっては、必ず展着剤を加用し、株元まで十分量散布する（ジーファイン水和剤：150～500L/10a、アミスター20フロアブル：100～300L/10a）。

高温時の薬剤散布により、薬害を生じることが確認されているので、日中の気温が高い時間の散布はできるだけ避ける。

3) 防除法の詳細等については、「平成29年増補改訂版サトイモ疫病対策マニュアル」を参照（宮崎県農薬安全使用啓発ホームページ

（<http://nouyaku-tekisei.pref.miyazaki.lg.jp/noyaku/user/haishinfile/list/miyazaki>））。また、各地域の防除対策については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、JA、総合農業試験場病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会する。

表1 サトイモ疫病に対する登録農薬

薬剤名	希釈倍数	10a 当たり 使用量	使用回数	使用時期
ジーファイン水和剤	1,000 倍	150 ～ 500L	—	収穫前日 まで
アミスター 20 フロアブル	2,000 倍	100 ～ 300L	3 回以内	収穫 14 日 前まで



写真1 葉に形成された病斑



写真2 葉柄に形成された病斑

◎ 防除情報第6号（発令月日：平成29年8月4日）

1. 作物名 普通期水稻
2. 病害虫名 トビイロウンカ
3. 発生状況

1) 県内4箇所（延岡市、宮崎市、国富町、都城市）に設置した予察灯のうち、都城市で6

月 21 日にトビイロウンカの雌雄成虫各 1 頭の誘殺を確認した。また、その後も都城市と延岡市の予察灯で断続的にトビイロウンカの誘殺を確認した。

2) 7 月下旬巡回調査におけるトビイロウンカの発生面積率は 10.0%(平成 20.7%、前年 10.0%)、1 株当たり虫数は 0.03(平成 0.05、前年 0.01)でいずれも平成並みの発生状況である。

4 防除上の注意

- 1) 6 月 21 日に飛来したトビイロウンカの第 2 世代幼虫の防除適期は 8 月 2～3 半旬と予想されるので、発生状況を確認して防除を行う(別添参考資料を参照)。
- 2) 本虫は株元に生息し、低密度であっても、その後の増殖率が高く坪枯れを引き起こすので、薬剤は株元に十分到達するよう散布する。
- 3) 箱施薬剤を使用しているほ場でも、薬剤によっては効果が劣る場合があるので発生に十分注意する。

その他

- 防除薬剤等その他の詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局(農業改良普及センター)、病虫害防除・肥料検査センター等の関係機関に照会すること。
- 6 月 1 日から 8 月 31 日の 3 ヶ月間、農薬危害防止運動を実施しています。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。

◎ 防除情報第 7 号(発令月日:平成 29 年 9 月 4 日)

1. 作物名 普通期水稻
2. 病虫害名 トビイロウンカ
3. 発生状況

8 月下旬巡回調査におけるトビイロウンカの発生面積率は 58.5%(過去 8 年の平均発生面積率 61.5%、前年 25.0%)、1 株当たり虫数は 0.40 頭(過去 8 年の平均株当たり虫数は 1.39 頭、前年 0.05 頭)の発生状況である。

表 1 年次別トビイロウンカの発生状況(8 月下旬巡回調査)

	調査地点数	発生面積率(%)	株当虫数(頭)	株当虫数(短翅雌)	トビイロウンカ成虫		
					成虫数	短翅雌数	短翅雌率
県北	18	38.9	0.08	0.02	11	9	81.8
東諸	5	60.0	0.39	0.08	14	12	85.7
北諸	10	100.0	1.08	0.06	58	15	25.9
西諸	8	50.0	0.21	0.10	25	19	76.0
県全体	41	58.5	0.40	0.07	108	55	50.9

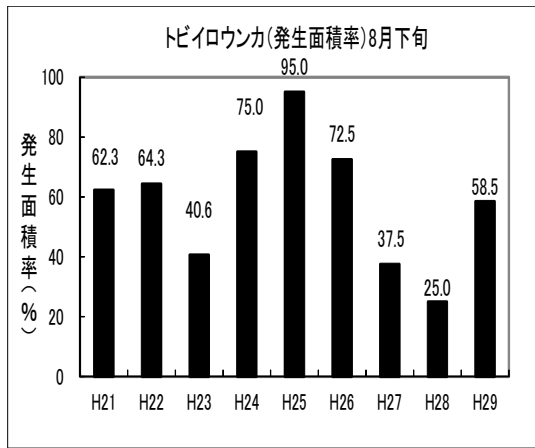


図1 発生面積率の年次推移

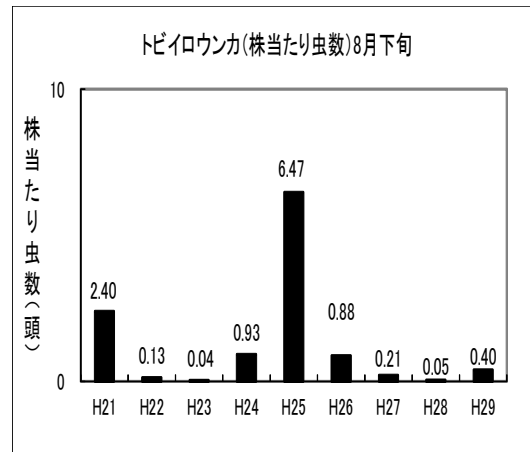


図2 株当たり虫数の年次推移

4 防除上の注意

- 1) 増殖率が高いため、少ない飛来量でも坪枯れなどの大きな被害が生じることがある。向こう1ヶ月の気温は平年より高いと予想されていることから、本虫の増殖には好適である。そのため、現在低密度のは場でも、今後の発生量に注意する。
- 2) 成虫・幼虫ともに株元に生息しているので、株元まで十分に農薬が到達するよう防除する。

◎ 防除情報第8号（発令月日：平成29年9月8日）

1. 作物名 果樹全般
2. 病害虫名 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
3. 発生状況

(1) チャバネアオカメムシ

県内3ヶ所に設置しているフェロモントラップの誘殺数は平年並であるが（データ省略、県内5ヶ所に設置している予察灯の誘殺数は、8月第3半旬以降増加している（図1、図2）。特に延岡市では、8月第3半旬から第5半旬までの総誘殺数は106.0頭（平年24.2頭）と平年に比べて多となっている。

(2) ツヤアオカメムシ

フェロモントラップの誘殺数は平年並であるが、予察灯の誘殺数は、8月第3半旬以降増加しており（図3、図4）、特に延岡市では、8月第3半旬から第5半旬までの総誘殺数は133.0頭（平年26.3頭）と平年に比べて多となっている。

(3) 県内の一部のカキ、カンキツ園ではカメムシ類の飛来が見られ、今後、発生の増加が懸念される。

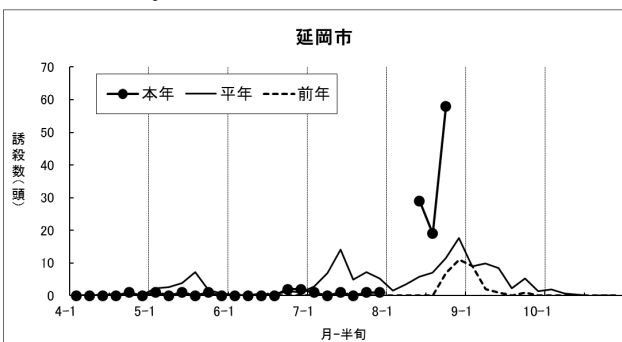


図1. 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移(延岡市)

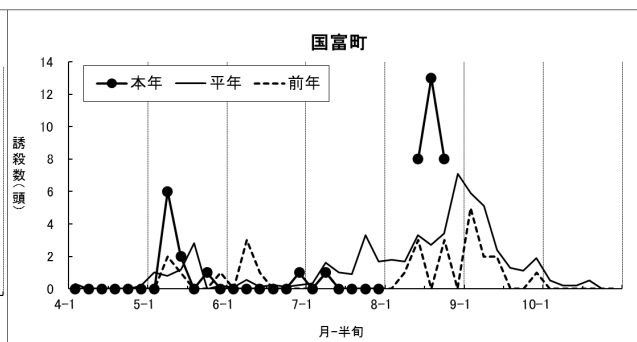


図2. 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移(国富町)

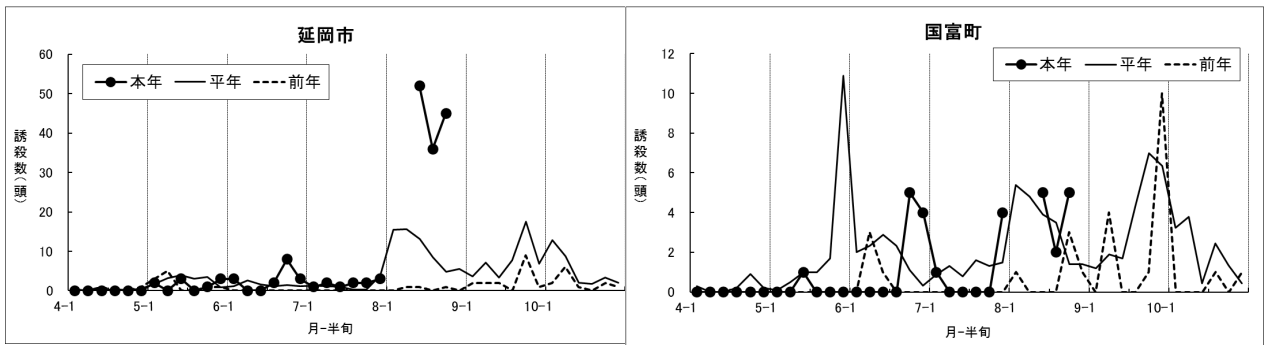


図3. 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移(延岡市)

図4. 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数の推移(国富町)

4 防除上の注意

- 1) カメムシは園外から飛来し、地域や時期によって発生量が大きく変動する。多飛来を見てからの防除では手遅れとなるので、園内外を見回り、早期発見、早期防除に努める。
- 2) 果樹園に侵入したカメムシは、集合フェロモンにより、同種を大量に誘引し被害が拡大するおそれがあるので十分注意する。
- 3) 飛来初期には残効の長い合成ピレスロイド系薬剤やネオニコチノイド系薬剤で防除を行うと効果的である。ただし、これらの薬剤は多用すると天敵等への影響が大きく、ハダニ類等の発生を助長しやすい。このため連用を避け、系統の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- 4) 収穫中もしくは収穫時期が近い品目については、農薬の使用回数や収穫前日数に注意し防除を行う。

- 農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危害防止に努めましょう。
- その他詳細については、西白杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第9号（発令月日：平成29年11月29日）

- 1 作物名 いちご
- 2 病虫害名 ハダニ類
- 3 発生状況（経過）

11月中旬の巡回調査におけるハダニ類の発生面積率は41.7%（前年7.7%、平年46.7%）で平年並、寄生株率は20.8%（前年2.0%、平年13.4%）で平年よりやや多、葉当たり虫数は4.0頭（前年0.2頭、平年2.2頭）で平年よりやや多となっている（図1～3）。近年、本ぼ定植直後よりハダニ類の発生面積率および寄生株率が高い傾向にある。

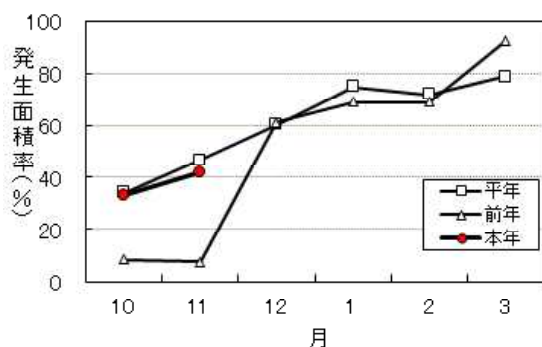


図1 ハダニ類の発生面積率の推移

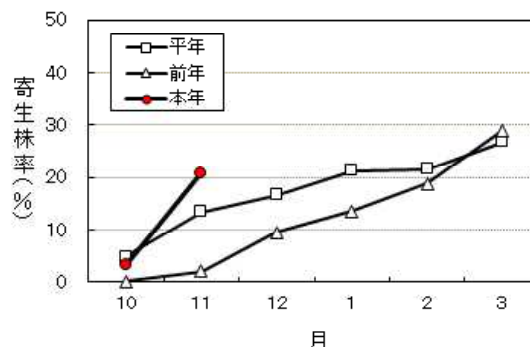


図2 ハダニ類の寄生株率の推移

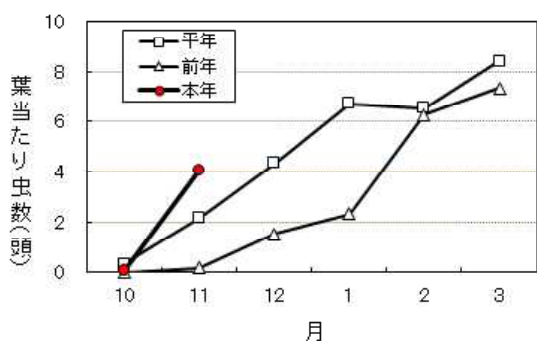


図3 ハダニ類の葉当たり虫数の推移

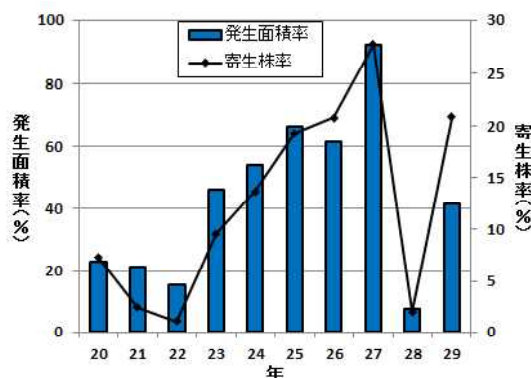


図4 過去10年における発生の推移

注) いずれの年も11月中旬の調査結果による

4 防除上の注意

- 1) 収穫期に入り、多発生後の防除は非常に困難になるので、発生初期を見逃さずに速やかな防除を行う。初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を見つけた場合は、見失わないようにマークし、重点的に散布を行う。発生場所の周囲は葉裏の発生状況を確認するなどして、漏れがないように防除を行う。
- 2) 発生が多い場合は5～7日間隔で連続して防除する。
- 3) 下葉の裏に多く寄生しているので、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるよう丁寧に散布する。除去した茎葉に寄生していたハダニ類は、短時間で離脱し、生育中の作物に移動するので、できるだけすみやかにほ場外へ持ち出し処分する。
- 4) 施設内外の雑草は、ハダニ類をはじめ様々な害虫の寄主・増殖源となるので除去する。その際は、サイド際の除草もしっかり行い、除草した雑草はハウス内に放置せずすみやかに処分する。
- 5) 有効な薬剤に対する抵抗性の発現を回避する観点から同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 6) 主要な防除薬剤に対する感受性が低下した個体群が確認されていることから、抵抗性発現の可能性が低い気門封鎖型薬剤の併用、天敵の活用を図る。
- 7) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第10号（発令月日：平成29年12月25日）

- 1 作物名 冬春トマト（ミニトマトを含む）
- 2 病害虫名 灰色かび病、葉かび病、すすかび病
- 3 発生状況（経過）

12月中旬に実施した巡回調査の結果は以下の通りであった。

1) 灰色かび病

（株）

発生面積率：20.0%（前年0.0%、平年8.4%） 平年よりやや多

発病株率：1.7%（前年0.0%、平年0.3%） 平年より多

（果実）

発生面積率：0.0%（前年0.0%、平年0.8%） 平年並

発病果率：0.0%（前年0.0%、平年0.1%） 平年並

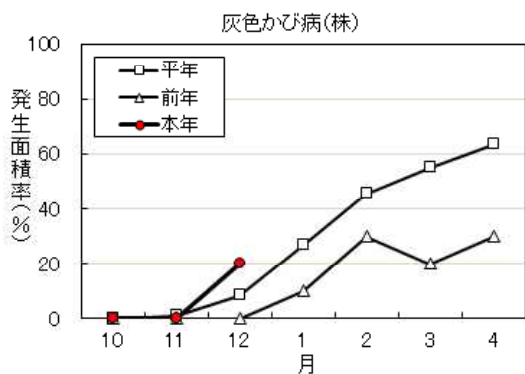


図1 灰色かび病（株）の発生面積率

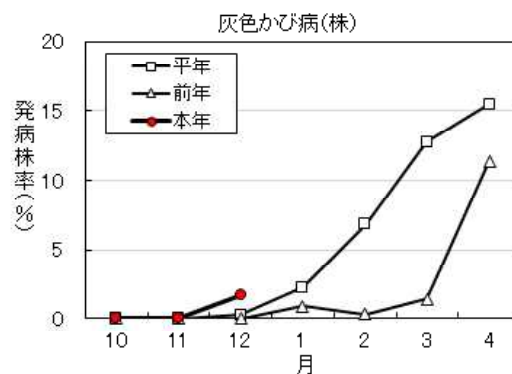


図2 灰色かび病（株）の発病株率

2) 葉かび病

発生面積率：20.0%（前年0.0%、平年4.5%） 平年より多

発病葉率：0.2%（前年0.0%、平年0.3%） 平年よりやや多

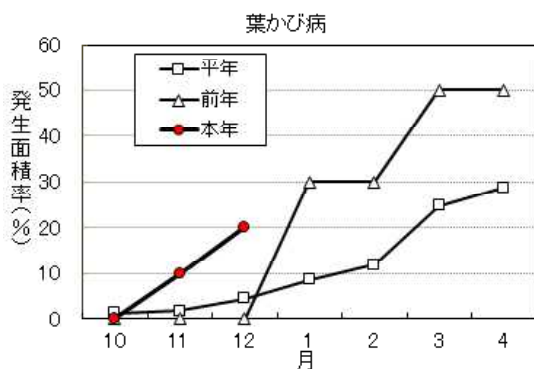


図3 葉かび病の発生面積率

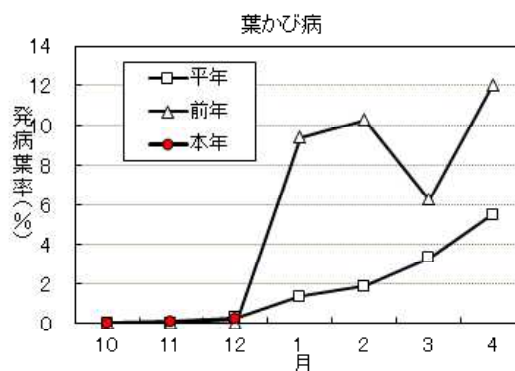


図4 葉かび病の発病葉率

3) すすかび病

発生面積率：20.0%（前年40.0%、平年15.1%） 平年並

発病葉率：0.4%（前年2.8%、平年1.4%） 平年並

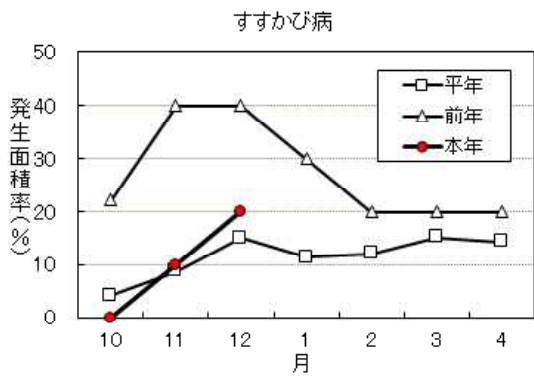


図5 すすかび病の発生面積率

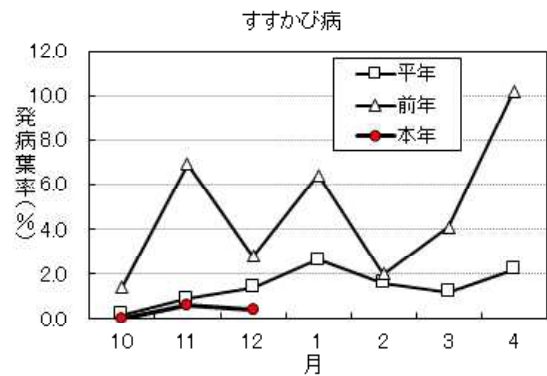


図6 すすかび病の発病葉率

向こう 1 ヶ月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量も平年並もしくは少ない予報となっている (12月14日鹿児島気象台発表)。

4 防除上の注意

- (1) 今後、気温が低くなることで、内張カーテンの設置等により、ハウス内が過湿状態となりやすい。日中も送風を行うなど、できるだけ施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。
- (2) 茎葉の過繁茂は発病を助長するので、可能な限り摘葉し、日当たりや風通しを良くし、薬剤が付着しやすいようにする。
- (3) 発病茎葉は感染源となるため、施設外に持ち出し、適正に処理する。

灰色かび病菌は、しばんだ花卉にも寄生し増殖するため、果実と接触した部分から侵入して発病させることから、咲き終わった花卉はできりだけこまめに除去する。また、葉や茎の傷口等が乾きにくいと、そこから侵入し発病しやすくなるので、十分に気を付ける。

- (4) いずれの病害も、多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおき、発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。薬剤の選定にあたっては、系統別にそれぞれの特徴を生かしてローテーション散布する。

灰色かび病については、多くの薬剤に対する耐性菌の発生が確認されているので、防除効果が認められない場合は、使用を中止し、他系統の薬剤に切り替える。

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局 (農業改良普及センター)、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第11号 (発令月日:平成29年12月25日)

- 1 作物名 いちご
- 2 病害虫名 アブラムシ類 (主にワタアブラムシ)
- 3 発生状況 (経過)

12月中旬の巡回調査におけるアブラムシ類の発生面積率は50.0% (前年30.8%、平年29.8%) で平年より多、寄生株率は9.0% (前年1.7%、平年2.9%) で平年より多となっている (図1~2)。

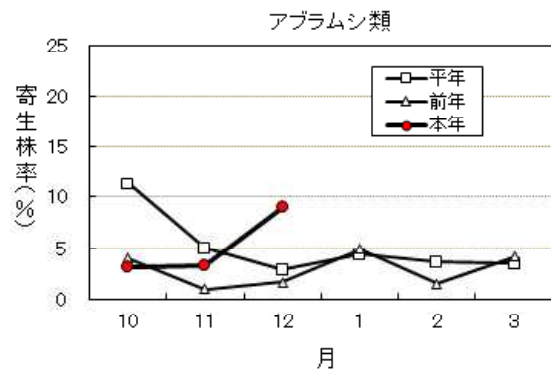
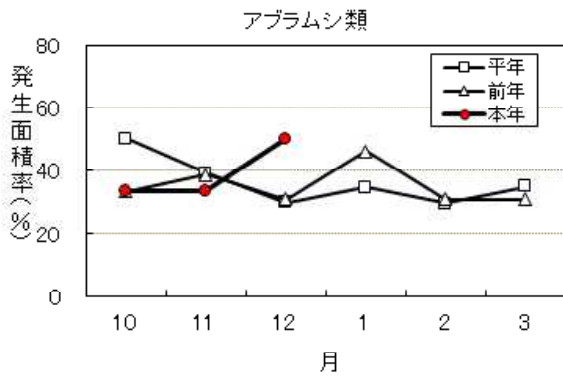


図1 アブラムシ類の発生面積率の推移

図2 アブラムシ類の寄生株率の推移

4 防除上の注意

- 1) 収穫期に入り、果房に発生すると、吸汁害に併せて排泄物の付着等による品質低下を招くため、低密度のうちに防除を行う。
- 2) 発生初期はスポット的に寄生しているので、収穫や摘葉などの作業時に発生を認めた場合は、見失わないようにマークし、周辺株も併せて部分散布を行う。
- 3) 寄生株率が高くなり、果房への寄生が認められるようになると、部分散布では防除が不十分であるので、ほ場全体に丁寧に散布する。その際、不要な下葉を除去した後、薬剤が葉裏まで十分にかかるようにする。
- 4) 薬剤散布を実施後、アブラムシが残っていれば、薬剤抵抗性個体群の可能性があるので、次の防除は必ず他の系統の薬剤を散布する。
- 5) 農薬の選定に当たっては、天敵およびミツバチへの影響を十分に注意する。

●その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

◎ 防除情報第12号（発令月日：平成30年3月30日）

- 1 作物名 冬春ピーマン
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ
- 3 発生状況（経過）

3月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は66.6%（前年45.5%、平年40.9%）で平年より多、10花当たり虫数は16.8頭（前年5.5頭、平年8.5頭）で平年よりやや多、寄生花率は35.0%（前年18.9%、平年17.1%）で平年より多となっている（図1～2）。

向こう1ヶ月の気象予報では、前半は気温がかなり高くなる見込みとなっていることから、発生量は増加すると予想される（3月22日鹿児島气象台発表）。

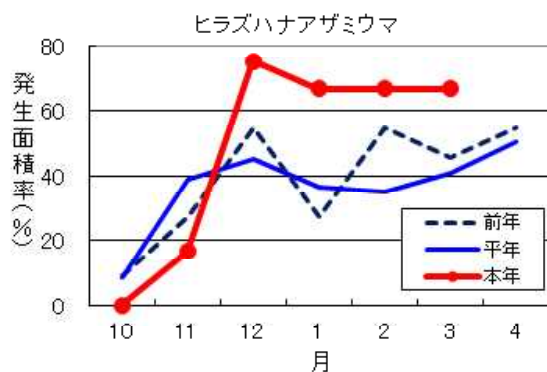


図1 発生面積率の推移

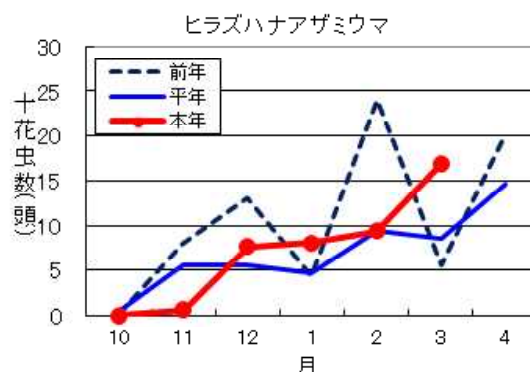


図2 10花当たり虫数の推移

4 防除上の注意

- 1) 多発すると果実への被害が見られる場合があり、特に、ミナミキイロアザミウマに対し天敵を導入しているほ場において、ヒラズハナアザミウマの発生が多い傾向にある。品質の低下を防ぐためにも低密度のうちに防除を行う。
- 2) 施設内では、卵・幼虫・蛹・成虫が混在し、卵と蛹には薬剤がかかりにくいので最少でも7日間隔で3回の連続防除を行い、多発しているときは更に連続した防除を徹底する。
- 3) ミナミキイロアザミウマとは薬剤に対する感受性が異なるので、薬剤の選択には注意するとともに、天敵を導入している施設では、天敵に対する影響の少ない薬剤を選択する。
- 4) ヒラズハナアザミウマは、主に花内に生息することから、薬剤の花への付着性を高めるために、できるだけ展着剤を加用する。
- 5) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、作用性の異なる薬剤のローテーション散布に努める。

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

◎ 特殊報第1号（発令月日：平成29年6月19日）

- 1 病害虫名：トルコギキョウ斑点病
- 2 作物名：トルコギキョウ
- 3 病原菌：*Pseudocercospora eustomatis*
- 4 発生の経過

平成28年11月中旬に、県北部の施設トルコギキョウにおいて、葉に灰褐色のすすかび状斑点を生じる病害が発生した。病斑部より菌を分離し、門司植物防疫所に同定を依頼したところ、県内未発生のトルコギキョウ斑点病であることが確認された。

本病害は平成20年に福岡県で初めて確認された後、平成28年に高知県、大分県、熊本県で発生が確認されている。

5 病徴

はじめ、葉に5～10 mm程度の黄斑を生じる（写真1）。その後、黄斑部の葉裏には、灰

褐色のすすかび状菌体が形成され、やがて葉は枯死する（写真2、3）。

6 病原菌の形態及び生態

糸状菌の1種で不完全菌類に属する。分生子は0～8個の隔壁を有し、倒棍棒形、淡オリーブ色～淡褐色を呈している（写真4）。生態や伝染環についての詳細は不明であるが、本病害は育苗中の苗および本ぼで発生し、被害葉上に形成される分生子により伝染、多湿条件で多発生するものと思われる。

7 防除対策

本病害に対する登録農薬はないため、多発生してからの防除は困難である。したがって、発病を確認した場合は、発病株および発病葉をすみやかに除去し、ほ場外に持ち出して感染源とならないように適切に処分する。また、ほ場内が多湿条件になると感染を助長すると考えられるので、ほ場内の換気に努める。



写真1 発生の様子（葉に黄斑を形成）



写真2 発生の様子（すすかび状菌体を形成）



写真3 葉裏の病斑部の拡大



写真4 病斑部に形成された分生子

2 宮崎方式 I C M技術確立事業によるニカメイガの発生活長調査

(1) 背景・ねらい

本県中部におけるニカメイガの発生は、1960年代までは多数確認されていたが、1970年代後半からほとんど見られなくなっていた。しかし近年、早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯でニカメイガが散見されるようになっており、増加傾向にあると推定される。そこで、ニカメイガの発生活長を把握するために、乾式予察灯とフェロモントラップを用いて調査した。

(2) 試験方法

1) 調査地点

① 乾式予察灯：宮崎市、国富町、都城市、延岡市の4地点

（宮崎市と国富町は早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯、都城市と延岡市は普通期水稲と飼料用稲の混耕地帯）

② フェロモントラップ：宮崎市、西都市、国富町、高岡町、木城町の5地点

（西都市及び木城町は早期水稲と飼料用稲の混耕地帯、それ以外は早期水稲・普通期水稲・飼料用稲の混耕地帯）

2) 調査期間

① 3月第5半旬～10月第6半旬

② 3月第2半旬～10月第6半旬

(3) 調査結果の要約

1) 発生活長の調査

① 乾式予察灯の調査では明確なピークは見られなかった。西都市と木城町では4月2半旬頃、佐土原町と高岡町では5月1半旬頃に最初のピークが現れた。また、国富町では誘殺が見られなかった。

② 期間を通して、本年のピークは前年、前々年と同様の時期に見られた。

③ 都城市と延岡市に設置してある予察灯では、年間をとおして全く誘殺されなかった。

2) 防除適期

① 地域によって発生活長が異なるため、今回得られた地域毎の発生活長を参考に、防除適期を決定する必要がある。

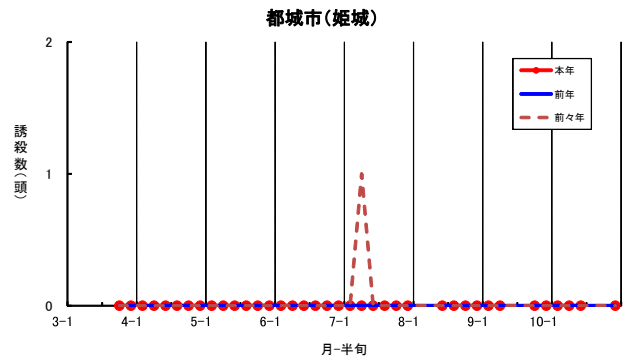
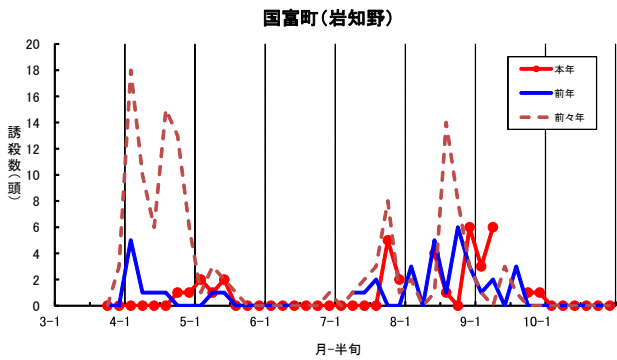
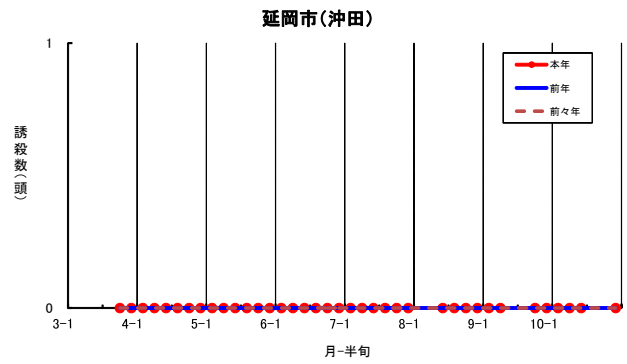
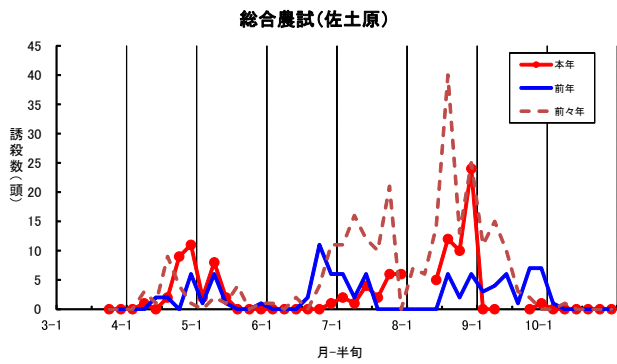


図1 予察灯によるニカメイガの誘殺状況

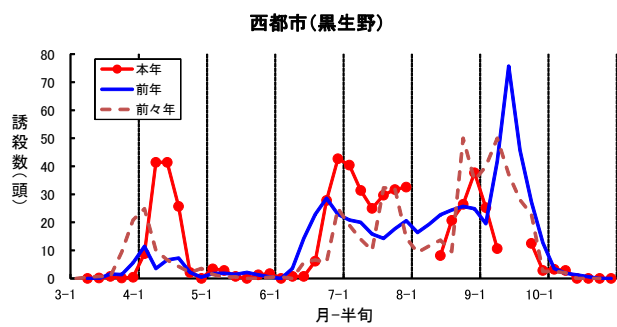
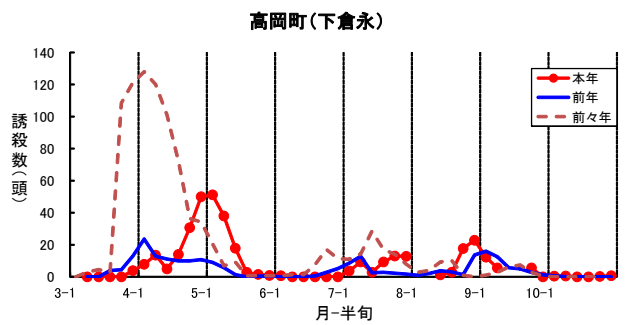
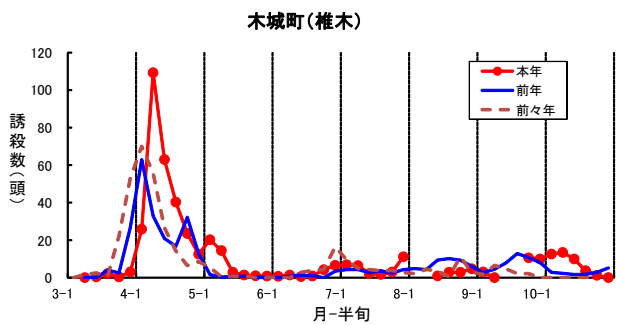
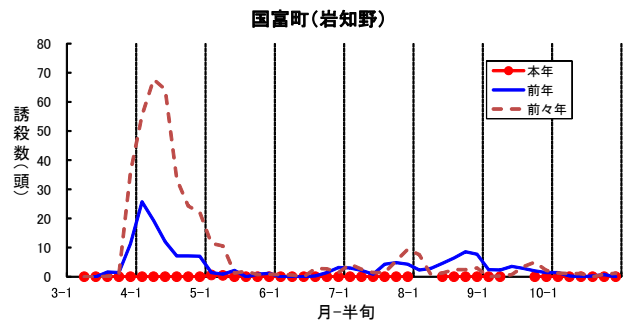
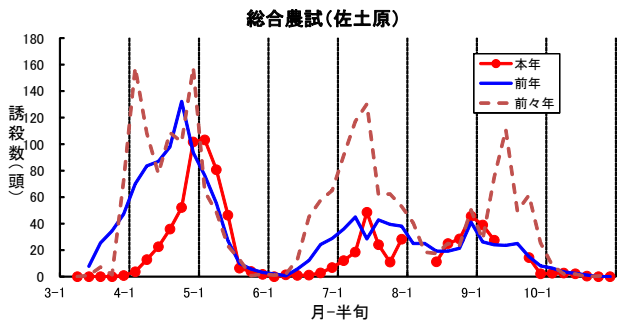


図2 フェロモントラップによるニカメイガの誘殺状況

3 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）による宮崎県における新ウンカ類 飛来予測システムの実用性の検討

（1）背景・ねらい

現行のウンカ類飛来予測システムは県単位での飛来予測であり、地域毎の飛来予測や防除適期の把握が困難である。このため、本事業において農研機構により現行システムの水平分解能を33kmから9kmメッシュに細分化し、ウンカの着地過程を考慮したシステムに高度化された。宮崎県においては高度化された飛来予測システムの現地実証を行った。

（2）調査方法

①乾式予察灯のウンカ類誘殺状況調査

調査期間 3月中旬～10月末

②現地巡回によるウンカ類の発消長調査

調査期間 6月中旬から10月中旬

（3）調査結果の要約

県内4カ所に設置した乾式予察灯への誘殺の有無と飛来予測システムによる飛来予測の有無の一致状況を検討した（表2）。検討にあたっては、各予察灯の設置地点において（A）飛来予測システムによる「飛来あり」と予察灯における「誘殺あり」が一致した場合、もしくは（B）「飛来なし」および「誘殺なし」となった場合に、予測が一致したものと評価した。また、宮崎県の主要な田植え時期が6月中旬～下旬であることから、この時期以降の飛来が重要と考え考察を行った。

○2015年

予察灯と飛来予測システム的一致率は62～72%と地域により異なった（表2）。巡回調査におけるトビイロウンカ幼虫の発生ピーク（8月下旬）から推察された主要飛来日は7月5日前後と考えられた（図1、2）。予察灯では7月5日に2カ所で各3頭、飛来予測システムでは7月2日に予測され、概ね一致したと考えられた。

○2016年

予察灯と飛来予測システム的一致率は69～87%と地域により異なった（表2）。巡回調査におけるトビイロウンカ幼虫の発生ピーク（9月中旬）から推察された主要飛来日は6月21日前後と考えられた（図1、2）。予察灯では6月21日に3カ所で167頭、4頭、4頭、飛来予測システムでは同日以降連続で予測され、実際の誘殺と飛来予測システムによる予測が一致したと考えられた。

○2017年

予察灯と飛来予測システム的一致率は87%～100%と、過去2カ年の一致率を上回った（表2）。巡回調査におけるトビイロウンカ幼虫の発生ピーク（8月下旬）から推察された主要飛来日は7月11日前後と考えられた（図1、2）。予察灯では7月8日と10日にそれぞれ1カ所ずつに各1頭、飛来予測システムでは、7月11日および12日に予測があり、実際の誘殺と予測システムによる予測が一致したと考えられた。

3カ年の調査により、飛来予測システムの予測日と予察灯における誘殺の有無は、概ね一致していると考えられた。今後は予察灯の無い地域における飛来予測システムを用いた世代予測の適合性を検討する必要がある。

表1 着地過程を考慮した飛来予測システムによる飛来予測と県内4カ所に設置した各予察灯におけるウンカ類の誘殺数(単位:頭数)

	2015年				2016年				2017年			
	都城	国富	佐十原	延岡	都城	国富	佐十原	延岡	都城	国富	佐十原	延岡
6月7日	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月8日	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
6月9日	2	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0
6月10日	124	0	2	65	0	0	0	0	0	0	0	0
6月11日	10	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
6月12日	4	0	0	1	14	0	0	0	0	0	0	0
6月13日	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
6月14日	1	0	1	1	0	0	-	0	0	0	0	0
6月15日	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月16日	3	0	0	0	0	1	10	0	0	0	0	0
6月17日	12	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0
6月18日	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月19日	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0
6月20日	0	0	0	0	0	-	1	5	0	0	-	0
6月21日	0	0	0	0	167	-	4	4	2	0	-	0
6月22日	0	0	0	0	16	-	0	1	0	0	-	0
6月23日	0	0	4	1	41	-	0	0	0	0	0	0
6月24日	2	0	1	4	2	-	0	0	0	0	0	0
6月25日	1	0	0	2	2	-	0	0	0	0	0	0
6月26日	0	1	0	0	2	-	0	0	0	0	0	0
6月27日	1	0	24	0	4	-	1	0	0	0	0	0
6月28日	1	0	0	0	20	-	7	0	0	0	0	0
6月29日	1	0	0	0	7	-	0	0	0	0	0	0
6月30日	1	0	0	1	2	-	0	0	0	0	0	0
7月1日	8	14	2	0	5	-	0	0	0	0	0	0
7月2日	15	2	0	1	0	-	0	0	0	0	0	0
7月3日	23	0	0	2	4	-	0	0	0	0	0	0
7月4日	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
7月5日	3	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0
7月6日	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
7月7日	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月8日	1	6	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0
7月9日	0	1	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0
7月10日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
7月11日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月12日	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
7月13日	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月14日	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	1
7月15日	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※黄色セルは飛来予測システムによる飛来予測ありの日

※各誘殺数はトビイロウンカとセジロウンカの合計値

表2 飛来予測システムと乾式予察灯の一致率

区分		2015年				2016年				2017年			
		「飛来予測あり」かつ「予察灯誘殺あり」	延日数	12	4	3	5	9	1	4	3	1	0
	一致率(%) (A)	31	10	8	13	23	4	11	8	3	0	0	0
「飛来予測なし」かつ「予察灯誘殺なし」	延日数	12	24	21	20	18	20	29	24	33	36	36	35
	一致率(%) (B)	31	62	54	51	46	80	76	62	85	92	100	90
予測日数		39	39	39	39	39	25	38	39	39	39	36	39
一致率(A)+(B)(%)		62	72	62	64	69	84	87	69	87	92	100	90

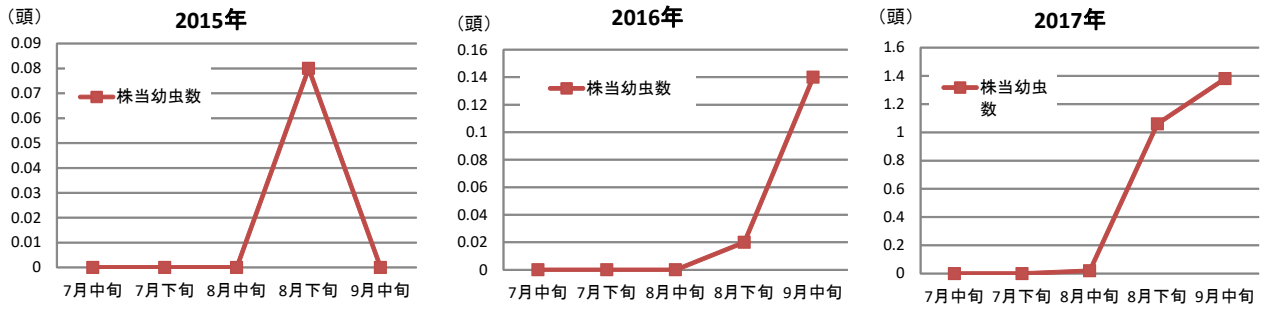


図1 水田ほ場での巡回調査結果（都城市）



図2 各年の発生世代予測と主要飛来日（都城市）

4 特殊病害虫侵入警戒調査事業

1) ミバエ類侵入警戒調査

ミバエ類の侵入の危険性の高い地域において、ミバエ類の早期発見体制の整備及び侵入警戒調査を実施した。またミカンコミバエ、ウリミバエについては、関係農林振興局の協力のもとで実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	調査期間	誘殺数(頭)			調査機関
		チチュウカイミバエ	ミカンコミバエ	ウリミバエ	
宮崎市 中部港湾事務所敷地内	4~12, 3月	0	0	0	防除・肥料センター
〃 総合農業試験場内果樹園	〃	0	0	0	〃
〃 芳土のミカン園	〃	0	0	0	〃
都農町 立野のミカン園	〃	0	0	0	〃
南郷町 谷之口のミカン園	〃	0	0	0	〃
日向市 高森山のミカン園	〃	0	0	0	〃
門川町 牧山のミカン園	〃	0	0	0	〃
宮崎市 赤江 共同利用施設浜畑センター内	〃	—	0	0	中部農林振興局
〃 折生迫 水産試験場内	〃	—	0	0	〃
〃 内海 内海神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 内海 野島神社付近	〃	—	0	0	〃
〃 折生迫 青島小学校付近	〃	—	0	0	〃
日南市 油津港東岸壁手前公園	〃	—	0	0	南那珂農林振興局
〃 猪崎鼻公園駐車場	〃	—	0	0	〃
南郷町 虚空蔵島入口	〃	—	0	0	〃
〃 贄波神社境内	〃	—	0	0	〃
〃 亜熱帯作物支場入口	〃	—	0	0	〃
串間市 市木 石波海岸(幸島入口)	〃	—	0	0	〃
〃 宮之浦(漁港公園)	〃	—	0	0	〃
〃 都井港	〃	—	0	0	〃
〃 崎田(道路沿い雑木)	〃	—	0	0	〃
〃 新福島港	〃	—	0	0	〃
川南町 通浜(川南魚港周辺)	〃	—	0	0	児湯農林振興局
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
〃 〃	〃	—	0	0	〃
日向市 細島港みなとの森公園	〃	—	0	0	東臼杵農林振興局

トラップ設置場所	調査期間	誘 殺 数 (頭)			調査機関
		チチュウカイ イミバエ	ミカンコ ミバエ	ウリミ バエ	
門川町 庵川 庵川東公民館	〃	—	0	0	東白杵農林振興局
〃 庵川 庵川神社	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 門川漁協	〃	—	0	0	〃
〃 尾末 尾末神社	〃	—	0	0	〃
延岡市 浦城町 浦城養魚場付近旧道	〃	—	0	0	〃
〃 浦城町 浦城海水浴場付近	〃	—	0	0	〃
〃 須美江町須美江キャンプ場内	〃	—	0	0	〃
〃 熊野江 集落センター敷地内	〃	—	0	0	〃
北浦町 下阿蘇オートキャンプ場付近	〃	—	0	0	〃
対象病虫害の調査総回数	チチュウカイイミバエ70回 (10ヶ月×7か所) ウリミバエ・ミカンコミバエ740回 (10ヶ月×月2回×37か所)				

(2) 調査結果

ミバエ類の本県への侵入は認めなかった。

2) アリモドキゾウムシ侵入警戒調査

6月～10月にかけて、アリモドキゾウムシの侵入危険性の高い地域(30地点)にトラップ(アリモドキコール)を設置し、本虫の侵入警戒調査を実施した。また、中部・南那珂・北諸県・児湯の各農林振興局においては、気温が高い7～9月に計47地点で侵入警戒調査を実施した。

(1) 誘殺状況

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数(頭)	調査機関
宮崎市 新別府町前浜	ヒルガオ自生地	6～10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 港	中部港湾事務所敷地内	〃	0	〃
〃 山崎町上ノ原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町白砂坂上	甘藷畑	〃	0	〃
〃 田野町乙	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	甘藷畑	〃	0	〃
〃 佐土原町下田島	甘藷畑	〃	0	〃
都城市 横市町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 関之尾町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 丸谷町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 五十町	ローソン五十町店付近	〃	0	〃
〃 山之口町五反田	甘藷畑	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数(頭)	調査機関
都城市 山田町菓子野	甘藷畑	6~10月 10回	0	防除・肥料センター
〃 〃 牧原	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃 山田	甘藷畑	〃	0	〃
三股町 宮村	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原児屋根	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
〃 〃	甘藷畑	〃	0	〃
新富町 日置池田	ヒルガオ自生地	〃	0	〃
〃 日置上日置	甘藷畑	〃	0	〃
〃 日置五丁野地	甘藷畑	〃	0	〃
高鍋町 南高鍋蚊口浦	酒造工場付近	〃	0	〃
高鍋町 持田	甘藷畑	〃	0	〃
日南市南郷町榎原	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須(堂園)	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須(大東原)	甘藷畑	〃	0	〃
串間市大字奈須(大東原)	甘藷畑	〃	0	〃
宮崎市 有田	有田橋付近	7~9月 6回	0	中部農林振興局
〃 住吉	塩路交差点付近	〃	0	〃
〃 新別府町	人工ビーチ入り口付近	〃	0	〃
〃 本郷北方	宮崎空港付近	〃	0	〃
宮崎市 青島	青島港付近	〃	0	〃
〃 佐土原町下那珂	市営プール付近潮害林	〃	0	〃
〃 田野町合又	南原霊園前	〃	0	〃
〃 田野町七野	ゴルフ場付近	〃	0	〃
〃 高岡町花見	花見橋付近	〃	0	〃
綾町 麓	小田常橋付近	〃	0	〃
日南市 大堂津	大堂津港付近	〃	0	南那珂農林振興局
〃 油津	油津港付近	〃	0	〃
〃 梅ヶ浜	祇園神社付近	〃	0	〃
〃 目井津	目井津港付近公園内	〃	0	〃
串間市 奈留	J A大東集荷場	〃	0	〃
〃 奈留	J A大東育苗センター付近	〃	0	〃

トラップ設置場所	設置場所及びその付近の 植栽状況等	調査期間及び 調査回数	誘殺数(頭)	調査期間
串間市 奈留仲別府	地区公園内	7～9月 6回	0	南那珂農林振興局
〃 奈留	くしまアオイファーム	〃	0	〃
〃 北方	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 西方	J Aはまゆう集荷場内	〃	0	〃
〃 西方寺里	酒造会社付近	〃	0	〃
〃 西方東今町	福島港付近雑木林	〃	0	〃
〃 都井毛久保	毛久保港付近	〃	0	〃
都城市 高木町	北諸県農業改良普及センター	〃	0	北諸県農林振興局
〃 山田町	くみしょく横育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	ゆぼっぼ裏 J A育苗ハウス	〃	0	〃
〃 山田町	かかし館付近	〃	0	〃
〃 山之口町	甘藷畑	〃	0	〃
〃 横市町	畑作園芸支場内	〃	0	〃
〃 乙房町	月野原台地	〃	0	〃
〃 庄内町	ゴルフ場入り口付近	〃	0	〃
〃 大岩田	旧医師会病院付近	〃	0	〃
〃 高城町	石山貯蔵庫	〃	0	〃
〃 蓑原町	給水栓付近	〃	0	〃
三股町	甘藷畑	〃	0	〃
えびの市西長江浦	甘藷畑	〃	0	西諸県農林振興局
えびの市大明司	甘藷畑	〃	0	〃
小林市堤	甘藷畑	〃	0	〃
〃 野尻町大萩	甘藷畑	〃	0	〃
高原町後川内	甘藷畑	〃	0	〃
西都市 茶臼原 緑ヶ丘	緑ヶ丘バス停付近	〃	0	児湯農林振興局
〃 大字三宅 寺原	西都市運動公園付近	〃	0	〃
〃 大字上三財	三財中学校付近	〃	0	〃
新富町 大字新田 十文字	春日神社付近	〃	0	〃
〃 大字新田 三財原	葬祭場付近	〃	0	〃
高鍋町 大字上江 境谷	市の山公民館付近	〃	0	〃
木城町 大字椎木 牧ノ内	茶臼原小学校付近	〃	0	〃
対象病害虫の調査総回数	572回 (5ヶ月×月2回×29か所+3ヶ月×月2回×46か所)			

(2) 調査結果

アリモドキゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

3) イモゾウムシ侵入警戒調査

9月28日に都城市（20ほ場）、串間市（20ほ場）、10月30日に都城市（20ほ場）串間市（20ほ場）に、収穫終了後の甘藷ほ場において1ほ場当たり50本程度の収穫残渣を切開及び目視により食害痕等を調査した（調査総回数80回（2ヶ月×40か所））。

いずれの地域においてもイモゾウムシの本県への侵入は認められなかった。

4) ミカンキジラミ侵入警戒調査

4月～12月、3月において、県内のかんきつ園地18ほ場及び2か所のゲッキツ植栽地を調査したが、発生は確認されなかった（調査総回数200回（10ヶ月×20か所））。

5 その他の調査、検定等

1) BLASTAMによる葉いもちの発生好適条件の判定と現地の発生状況

発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	4 : 準好適条件4	3 : 準好適条件3	2 : 準好適条件2	1 : 準好適条件1	● : 好適条件
------	----------	------------	------------	------------	------------	------------	----------

(早期水稻)

	宮崎	串間	高鍋	西都	赤江	日向
4月6日	—	—	—	—	—	4
4月7日	4	—	1	4	1	1
4月8日	—	—	1	4	—	1
4月21日	—	3	—	—	3	3
4月26日	4	—	—	—	—	1
4月27日	4	—	—	—	—	3
5月5日	—	—	1	1	4	1
5月6日	—	1	—	—	—	—
5月9日	—	—	—	—	—	4
5月25日	●	●	—	—	●	—
6月1日	—	●	—	—	—	—
6月7日	—	—	●	—	—	●
6月8日	—	—	—	—	—	●
6月11日	—	4	—	—	—	—
6月23日	—	●	—	—	●	—
6月24日	—	—	—	●	●	—
6月26日	—	●	—	—	—	●
6月27日	—	—	●	●	●	●
6月28日	—	—	—	—	●	●
6月29日	●	—	●	●	●	●
6月30日	—	—	—	—	●	—
7月7日	—	—	2	—	—	—
7月8日	—	—	2	2	—	—
7月10日	—	—	2	2	—	—
7月23日	3	—	—	—	3	—

調査地点の発病株率の推移(7月中旬は発病穂率)

	宮崎	串間	高鍋	西都	青島	日向
5月中旬	0	/	/	0	/	0
6月中旬	0			0		0
6月下旬	0			0		7.5
7月中旬	0.2			0		0

2) 斑点米カメムシ類の発生状況調査

イタリアンライグラスでの斑点米カメムシ類の発生状況(6月)

単位:頭

地域名	地点数	ミナミアオカメムシ①			クモヘリカメムシ②			ホソハリカメムシ③		
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計
中部	20	0.2	0.6	0.8	1.6	0.0	1.6	2.5	1.1	3.6
南那珂	14	0.1	2.7	2.9	4.1	0.1	4.2	2.4	1.9	4.3
児湯	11	0.3	12.4	12.6	0.4	0.0	0.4	5.6	7.0	12.6
東臼杵	6	0.0	7.3	7.3	3.0	0.8	3.8	3.0	3.0	6.0
全 県	51	0.2	4.5	4.7	2.2	0.1	2.3	3.2	2.8	6.0

地域名	地点数	シラホシカメムシ④			アカスジカスミカメ⑤			4種合計(①+②+③+④)	4種平年値
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		
中部	20	0.4	0.6	1.0	26.6	26.3	52.9	6.8	6.7
南那珂	14	1.1	1.2	2.4	14.9	12.4	27.2	13.7	13.1
児湯	11	0.0	1.0	1.0	18.9	52.8	71.7	26.6	11.9
東臼杵	6	0.0	0.8	0.8	14.3	56.0	70.3	18.0	9.5
全 県	51	0.5	0.9	1.3	20.3	31.7	52.0	14.3	9.7

※ 数値を小数点第2位で四捨五入しているため、合計数値が一致しない場合がある。

※ 20回振り/1地点

3) ヒノキ毬果口針鞘数による果樹カメムシ類離脱予測

番号	普及センター名	採取場所	採取日	平均口針鞘数	離脱予想日	飛来日	備考
1	中部	宮崎市高岡町	7月26日	0.2	9月10日	8月下旬	
2	中部	宮崎市高岡町	7月26日	0.0	9月10日		
3	北諸	都城市	7月26日	0.0	9月12日	情報なし	
4	南那珂	日南市	7月28日	0.1	9月12日	9月19日	
5	南那珂	日南市	7月28日	0.6	9月11日	9月13日	
6	南那珂	日南市	7月28日	0.0	9月12日	9月25日	
7	西諸	小林市	7月27日	0.1	9月11日	9月25日 (ぶどう)	
8	西諸	高原町	7月27日	0.1	9月11日		
9	児湯	西都市	7月26日	1.5	9月8日	8月下旬	
10	児湯	都農町	7月26日	0.5	9月9日	8月下旬	
11	南部	美郷町	7月18日	0.0	9月2日	8月25日	
12	南部	日向市	7月18日	0.1	9月2日		
13	北部	延岡市	7月28日	0.6	9月9日	9月28日	
14	北部	延岡市	7月28日	0.6	9月9日		
15	防除センター	新富町	7月25日	0.8	9月8日	/	
16	防除センター	日向市	7月25日	0.0	9月9日		

4) サトイモ疫病の発生状況調査

発生経過

平成29年産については、6月から巡回調査を開始し、7月4日の調査で疫病の初発生を確認した。その後7月下旬頃までは降水量が平年に比較して並～少であったため、感染拡大は過去2か年と比較して緩慢であった。しかし、8月上旬の台風通過後は急速に感染が拡大し、8月下旬には発病株率が90%となり、9月上旬には発病ほ場率が100%に達した。

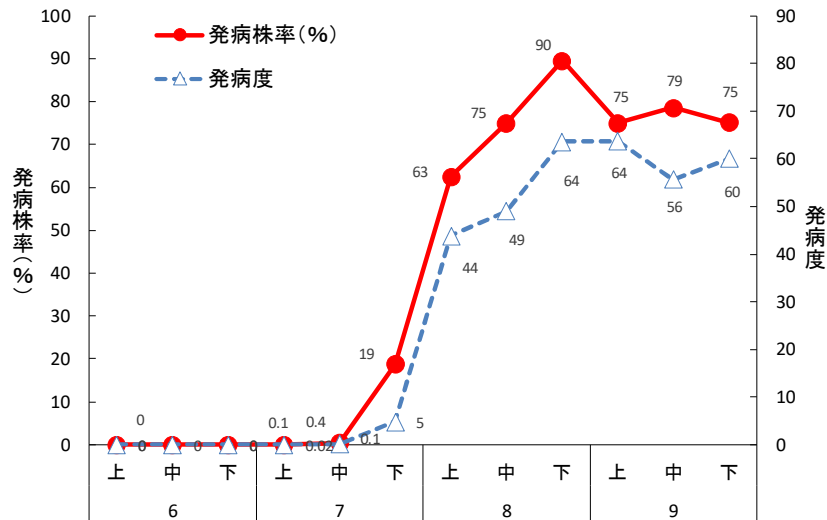


図1 巡回調査ほ場における疫病の発病株率および発病度の推移

注) 調査ほ場は12ほ場(宮崎市佐土原町1、宮崎市田野町2、都城市5、小林市4)。

調査は約1週間間隔で実施。

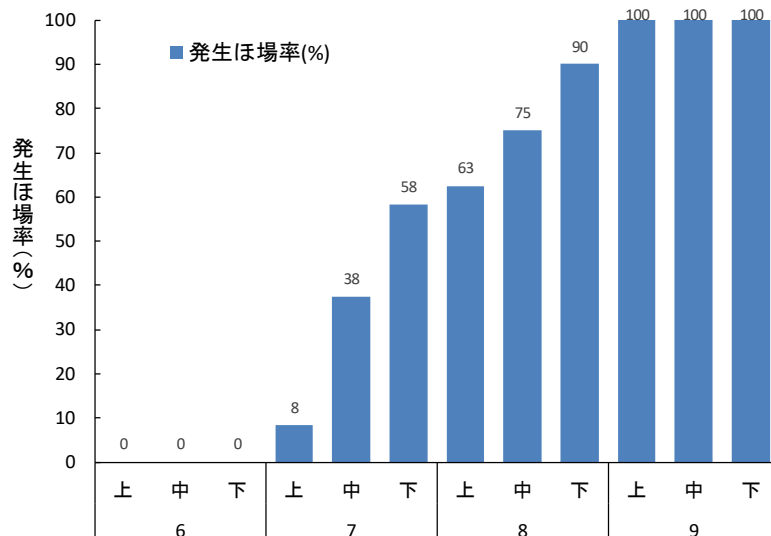


図2 巡回調査ほ場における疫病の発生ほ場率の推移

調査基準

E(0): 発病なし

D(1): 下位葉を中心に1/3以下(1~2枚)の葉に病斑がみられるが、枯死茎は認められない

C(2): 下位葉を中心にほぼ半数(3枚前後)の葉に病斑がみられるが、枯死茎は認められない

B(3): ほとんどの葉が発病、枯死茎が半数程度認められ、残存する茎数は3~4本

A(4): 枯死茎が2/3程度認められ、残存する茎数は2本以下

発病度 = $(4A+3B+2C+D) / (4 \times \text{調査株}) \times 100$

Ⅲ そ の 他

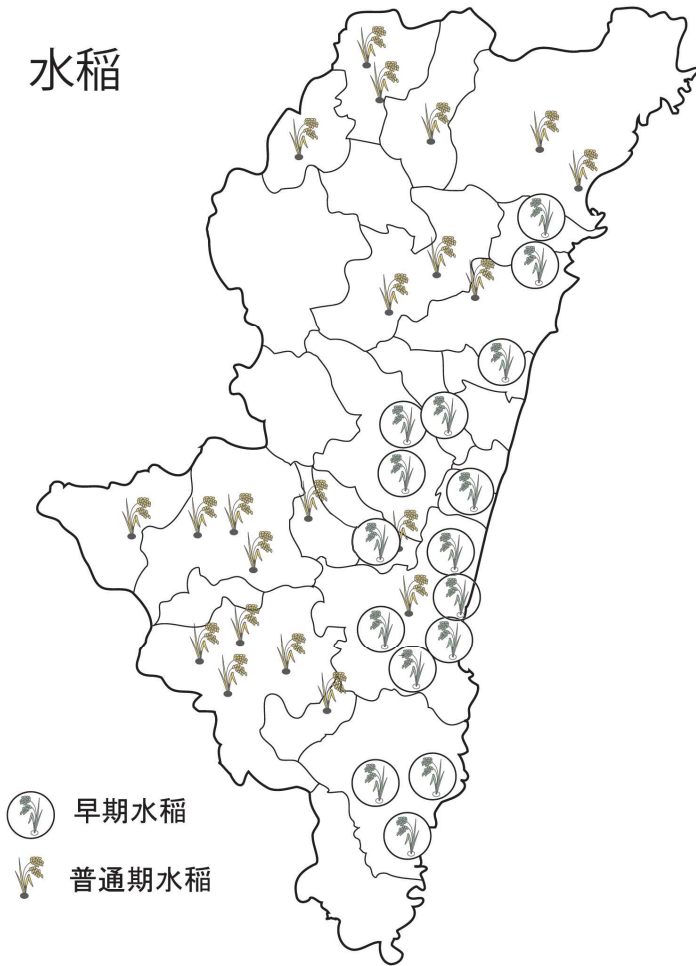
1 病虫害防除員の設置状況

(単位：人)

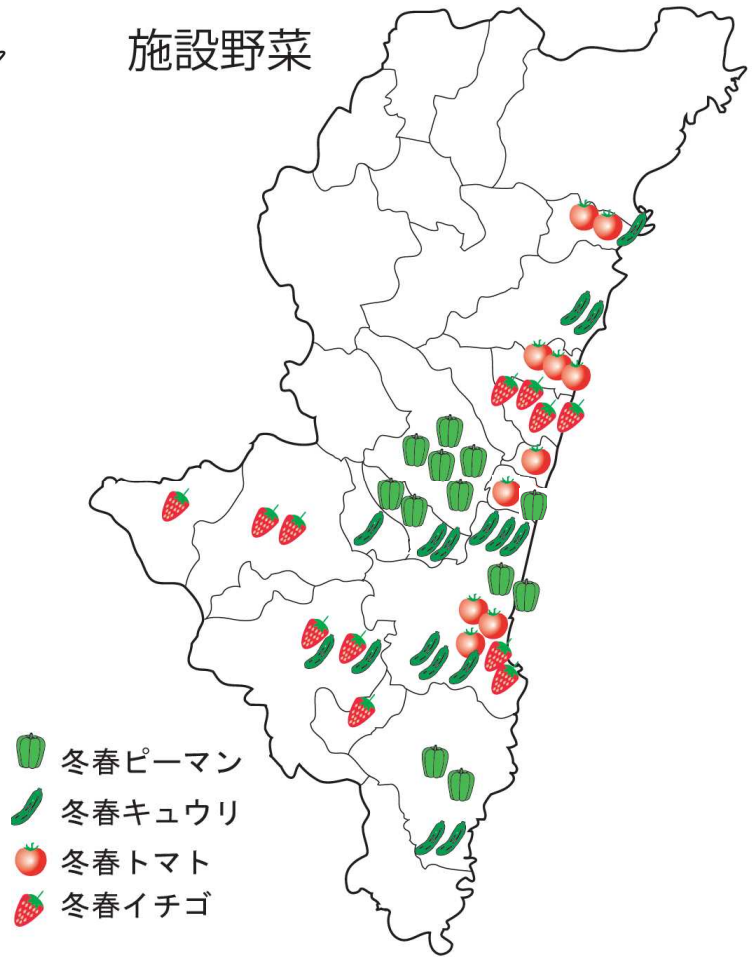
市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜	市町村	定数	水稻	果樹	茶	野菜
宮崎市	6	1	1		4	西米良村	1	1			
国富町						木城町					1
綾町						川南町	1				1
小計	6	1	1		4	都農町	2		1		
日南市	3	2	1			小計	5	1	1		3
串間市						延岡市	2	2			
小計	3	2	1			日向市	1	1			
都城市	5	4		1		門川町					
三股町	1	1				美郷町	1	1			
小計	6	5		1		諸塚村					
小林市	2	1		1		椎葉村					
えびの市	1				1	小計	4	4			
高原町						高千穂町	1	1			
小計	3	1		1	1	日之影町	1	1			
西都市					1	五ヶ瀬町	1			1	
高鍋町	1					小計	3	2		1	
新富町						合計	30	16	3	3	8

2 巡回調査ほ場の分布図

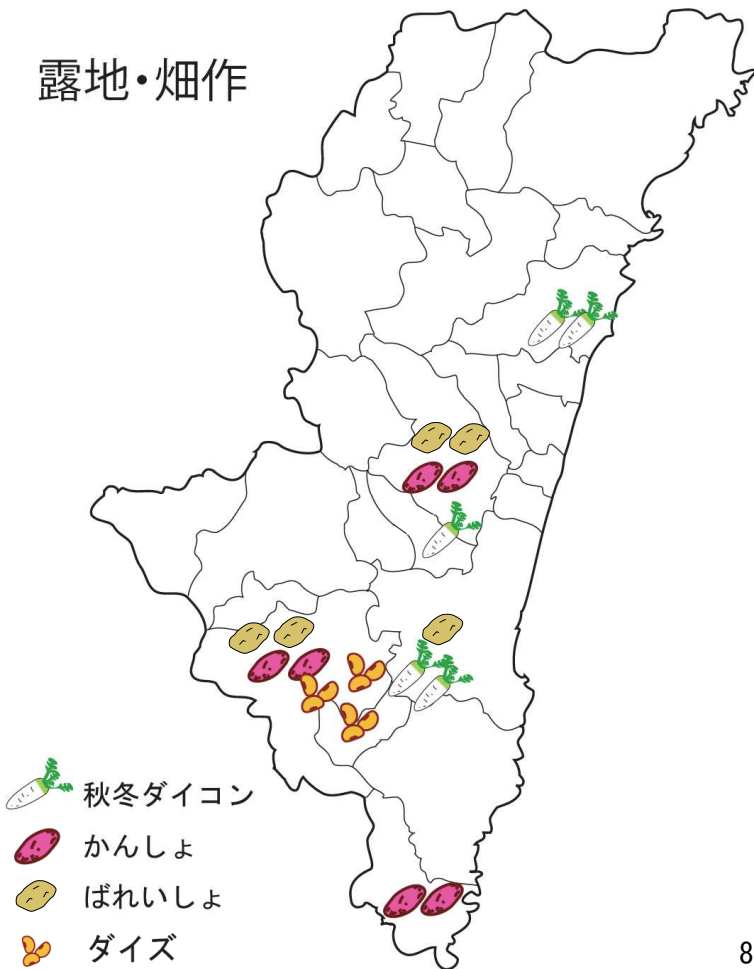
水稻



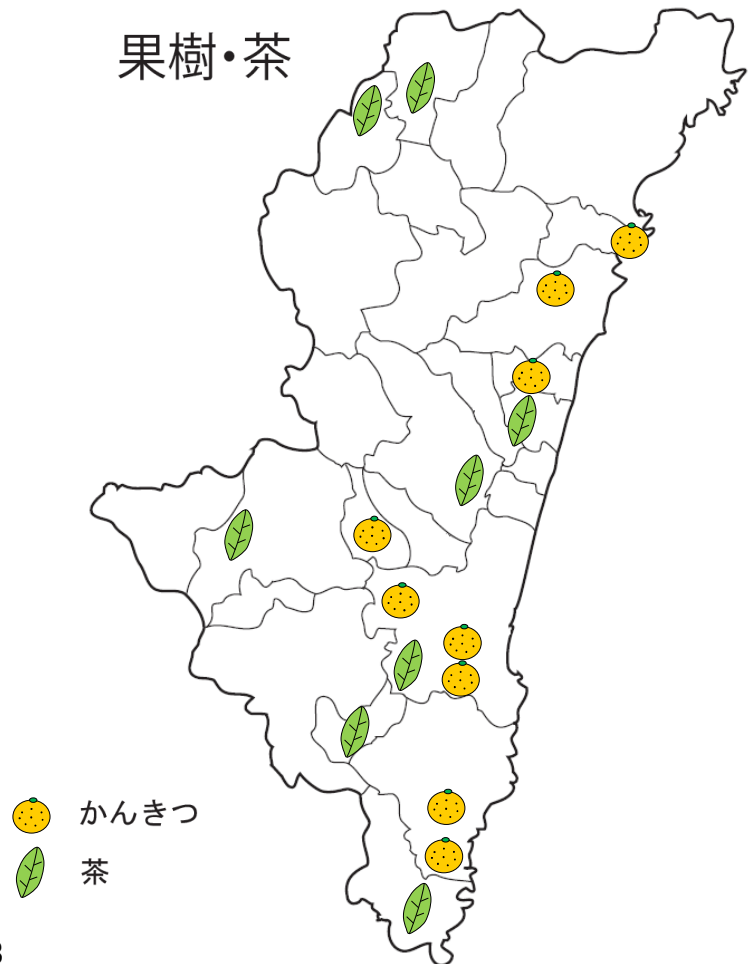
施設野菜



露地・畑作

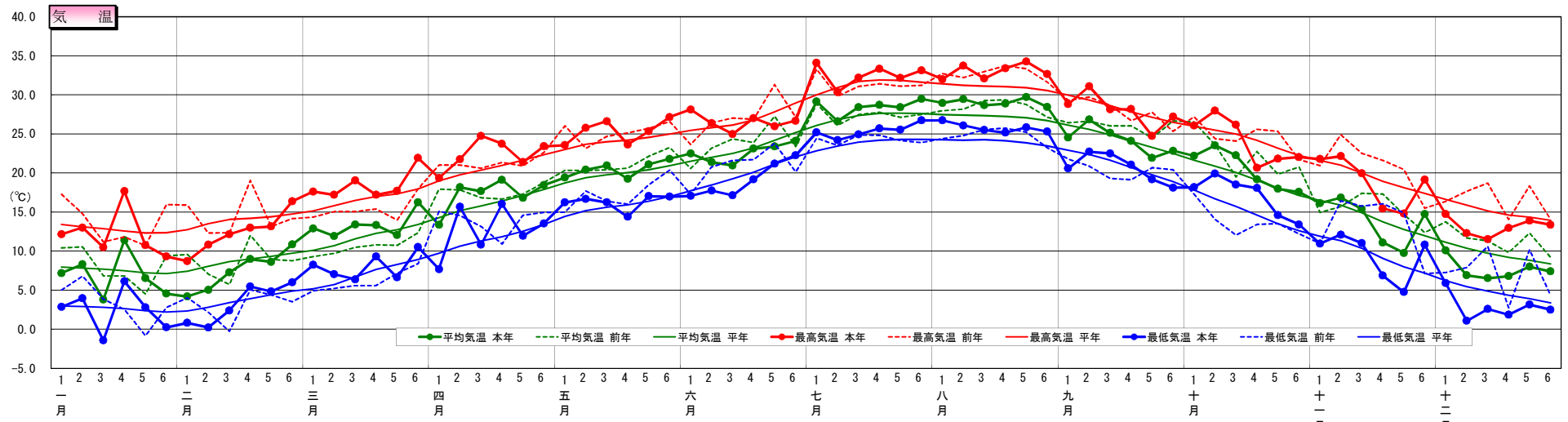
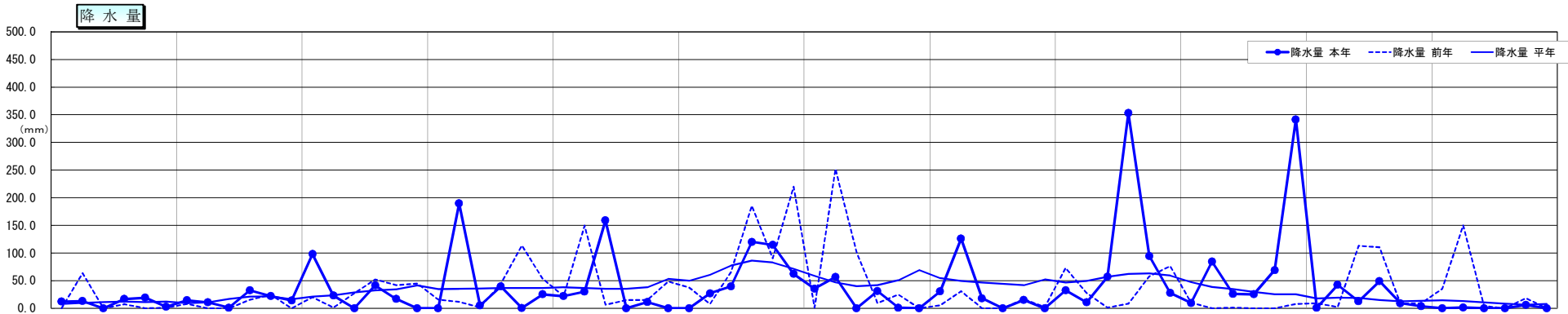
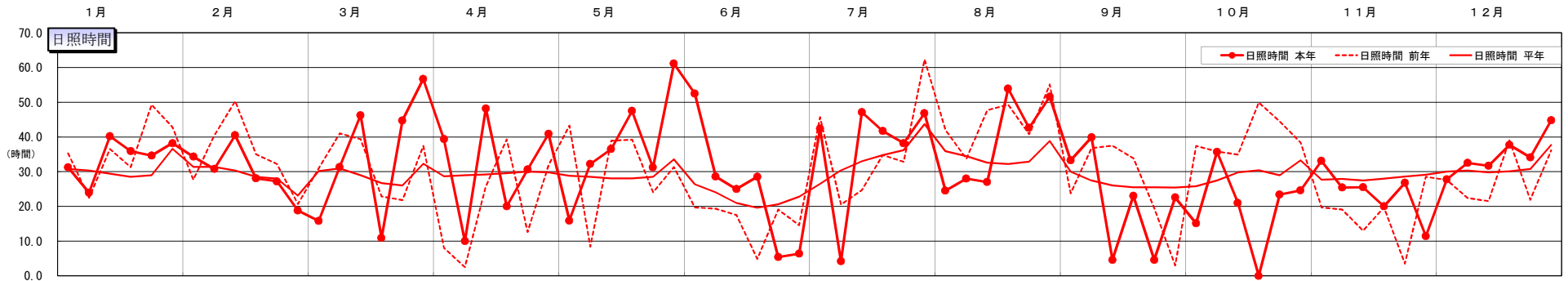


果樹・茶



3 平成29年気象表(アメダス日時統計データより)

(平年値1981~2010年)



宮崎県総合農業試験場 病虫害防除・肥料検査課
(宮崎県病虫害防除・肥料検査センター)

880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 5805 番地

TEL 0985-73-6670

FAX 0985-73-2127

E-mail : [byogaichu-hiryo @ pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)